

## 1節 放送番組の編成

## 国内放送番組編集の基本計画

「平成22年度（2010年度）国内放送番組編集の基本計画」は、放送総局内で議論を重ねたうえ、編成局で原案を作成した。この原案を理事会で決定し、12月、中央番組審議会に諮問、答申を得たうえ経営委員会で決定した。

以下はその原文である。年表示は西暦にし、記号などは本書の方式に合わせた。

## I. 編集の基本方針

日米の相次ぐ政権交代などによる政治、社会システムの変革、長引く経済危機、地球規模の環境問題への取り組みなど、国内外の情勢が大きく変動する中、公共放送への期待と責務はますます大きくなっています。NHKは信頼され質の高い放送を通して社会や文化の発展に尽くし、こうした視聴者の期待に応えます。

2009年度の視聴好適時間の平均世帯視聴率では、NHK総合テレビは昨年度に引き続きよく見られています。また、総合テレビ「EYESゾーン」などへの反響、「NHKオンライン」サービスへのアクセス数の増加などを見ると、従来より幅広い視聴者をひきつけつつあります。しかし、「信頼」や「生命・財産を守る」「知識・教養」への評価が高い一方で、日常的にNHKに接している人は、幼児のいる家庭が教育テレビを見ているほかは、全体として高齢者層に偏っているという状況が続いています。

こうした状況を受け、映像・音声各波と各時間帯の役割を明確にしてそれぞれの視聴者の期待にきめ細かく応えとともに、インターネット、携帯端末向けサービスなどの特性を生かして、NHKの豊富な情報と多彩なサービスを必要としているところに着実に届け、“誰にとっても必要な番組・コンテンツが少なくともひとつはある”多様な編成とサービス提供を目指します。

10年度国内放送番組の編集にあたっては、こうした考えのもと、公平・公正で、質の高い情報・番組をあまねく確実に届けて公共放送に対する期待に応えとともに、経営資源の計画的配分による質の向上に取り組み、限られた経営資源を有効

に活用していきます。

## II. 編集の重点事項

## 1. 視聴者のニーズにきめ細かく応える情報番組の充実・強化

多様化する視聴者の暮らしやニーズに合わせて必要な情報を届けるため、総合テレビの情報番組を刷新します。ニュースで伝えた情報をより深く、より分かりやすく掘り下げ、“明日へのヒント”を視聴者とともに考えます。平日朝は主婦を中心とする在宅女性層向けに、平日夜は社会の中核として活躍する“働き盛り”層向けに、そして週末は家族向けに、生活時間帯に合わせて情報番組を配置し、きめ細かなサービスを提供します。

## 2. 多様なサービスによる視聴者層の拡大

すべての世代の視聴者にNHKが親しまれ、役立ててもらうため、各波の番組やサービスのねらい・役割を明確にし、それぞれの充実を図ります。総合テレビの夜間は、家族が揃って楽しみながら知識や教養を深める番組や、くつろいだ時間にふさわしい見応えのある番組を編成します。教育テレビでは、ライフスタイルの多様化に応える多彩な趣味・実用番組を提供し、心豊かな生活づくりを応援します。

高齢者を中心とした従来からの視聴者を大切にしつつ、若い世代の視聴者に向けて、総合テレビを中心にがん新番組の開発と編成に継続的に取り組みます。また、若者文化の発信地・青山に設けたサテライトスタジオ「NHK@CAMPUS」を各波で効果的に活用して、若い世代の視聴者との交流を深めます。

さらに、ワンセグ独自サービスでは、携帯端末での視聴になじみやすい番組の開発や映像・音声各波との連動番組のいっそうの充実を進めます。

## 3. 信頼に応え、暮らしに役立つ報道の強化

正確・迅速な報道は視聴者からの期待が大きい公共放送NHKの重要な責務です。デジタル時代にふさわしい取材・制作体制の整備に重点的に取り組みます。

また、日本の課題、地球規模の課題に正面から向き合う「あすの日本」プロジェクトをいっそう充実し、ニュースや特集番組等を通して視聴者と

ともに課題解決策を探ります。

さらに、衛星放送のニュースの刷新やワンセグ独自サービスでの情報強化、インターネット・携帯端末向けニュースのさらなる充実など、あらゆるメディアでそれぞれの役割を明確にし、暮らしを守る情報を的確に提供します。

政権交代後初めての大型国政選挙となる第22回参議院議員通常選挙（任期満了日10年7月25日）にあたっては、開票速報など関連放送の実施に万全を期し、政治への参加意識が高まっている有権者の関心に応えます。

#### 4. “衛星新時代” に備えた衛星放送の充実

2011年、衛星放送は“多チャンネル・大競争時代”に突入します。

NHK-BSは波の個性化を進め、各ジャンルの番組の質をいっそう高めることで、NHK-BSならではの魅力を視聴者に強く訴えていきます。そのため10年度は、完全デジタルハイビジョン化と2波化を控えた最終年度として、現行のソフトを厳選して質を高めるとともに、ニュースや番組を効果的に編成します。

また、内外の優れた制作者を幅広く起用し、世界に通用する高品質で多様な番組の制作を推進するとともに、新たな放送文化の創造・発展に寄与します。

#### 5. 放送以外の多様なメディアを活用したサービスの“選択と集中”

「いつでも、どこでも、もっと身近に～3-Screens」の実現を目指して、パソコンや携帯端末などを活用するサービスは、これまでの開発・試行段階から歩を進め、視聴者ニーズの高いサービスを重点的に強化して利用者の満足度向上を追求します。

放送済み番組をインターネットを通して利用者に直接提供する「NHKオンデマンド」については、内容のさらなる充実と普及促進に努めます。

#### 6. “放送局のちから” を発揮した地域サービスの充実

広がる格差、少子高齢化、雇用、教育、医療、福祉、農業など、地域社会が抱える問題はいまなお広く、深く進行しています。

全国のNHK各放送局は、地域の課題と将来像を視聴者とともに考える報道・情報番組を強化するとともに、総合テレビ金曜夜間の地域向け番組のいっそうの充実や土曜午前の地域放送ゾーンの

拡充、子どもが楽しめる公開番組の充実など、それぞれの地域の特性や要望に応じて多様な地域サービスを展開します。

また、総合テレビ、衛星放送、ラジオ第1放送などで地域からの全国発信を積極的に推進するとともに、地域固有の歴史や風土をハイビジョン映像で記録する全局的な取り組みを開始します。

#### 7. 次代を担う青少年・子どもに向けた教育番組の充実

放送開始51年目を迎える教育テレビは、未来志向の教育専門チャンネルとして新たな歩みを始めます。いわゆる“ティーンズ”向けの番組を拡充するほか、クロスメディア講座番組の充実をさらに進めるなど、デジタル技術を生かした効果的な学習環境を提供します。さらに、生活時間に合わせて朝の幼児・子ども向け番組の配置を見直し、より多くの親子が親しめる編成とします。

#### 8. “人にやさしい放送” の充実

字幕放送は、総合テレビ平日午後の生番組に新たに字幕を付与するなど、長期計画に基づいて障害者・高齢者向けのサービスを拡充します。また、解説放送や手話についても引き続き取り組み、“人にやさしい放送”を推進します。

#### 9. ワールドカップサッカー・南アフリカ大会放送の実施

日本代表が4大会連続出場を果たした「2010FIFAワールドカップ南アフリカ」（10年6月11日～7月11日）では、注目試合の中継放送や関連番組を通して視聴者の高い関心に応えます。また、データ放送やインターネットで関連情報を詳しく伝えます。

これらの重点項目の実施にあたっては、以下のような施策を中心に、創造的で活力に満ちた取材・制作体制を構築します。

- 限られた経営資源の効率的・効果的な活用による適正な制作体制を構築し、番組の多様化と質の向上に努めます。
- 組織を横断した柔軟な連携を促進するとともに、企画競争などを通して国内外の優れた制作者のざん新な発想や手法を取り入れ、多様で豊かな可能性に挑戦します。
- 人材の育成に力を入れ、確かな情報、質の高い番組を安定して提供します。

## Ⅲ. 各波の編集方針

### 1. 総合テレビジョン

総合テレビジョンは、「基幹的な総合サービス波」として、国民生活に必要なニュース・情報番組や創造的な文化、教養、娯楽番組などの調和ある編成を行います。各世代に共感される多彩な番組や、世代を超えて楽しみ、考える“NHKだからできる放送”のいっそうの充実を図ります。また、地域放送について、全国への発信も含めていっそうの充実を図ります。ワンセグ放送では同じ内容の番組を同時放送することを基本とします。

また、アナログ総合テレビジョンでは、同じ内容の番組を同時放送することを基本とします。

〔放送時間〕

○1日24時間放送を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、報道番組20%以上、教育番組10%以上、教養番組20%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

### 2. 教育テレビジョン

放送開始51年目に入る教育テレビジョンは、「大きく伸びろ！子どもたち」「ともに生きる社会」「心豊かな暮らし」を3本柱に、「人生を豊かにする波」「文化を育てる波」として幅広い視聴者の期待と要望に応えとともに、定時マルチ編成を実施します。また、経営計画にのっとり、放送時間を減らして、排出CO<sub>2</sub>の削減にも取り組みます。ワンセグ放送では同じ内容を同時放送しつつ、独自サービスの充実を図ります。

また、アナログ教育テレビジョンでは、同じ内容の番組を同時放送することを基本とします。

〔放送時間〕

○1日21時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組75%以上、教養番組15%以上、報道番組若干を編成します。

### 3. 衛星ハイビジョン

「文化・芸術波」の衛星ハイビジョンは、11年の新BS2への移行を見据え、中核ソフトの開発や質の向上を衛星第2テレビジョンと連動して進めます。次の世代に残すべき一級の文化・芸術を紹介する番組や、「紀行」「自然」「文化・芸術」「人

物」「エンターテインメント」といった分野ごとに良質でスケール感のある番組を強化するとともに、新しい映像技術や演出手法、ダイナミックな編成に挑戦するなど、新しいテレビ文化創造の先導的な役割を果たします。

〔放送時間〕

○1日21時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組10%以上、教養番組30%以上を編成します。

### 4. 衛星第1テレビジョン

衛星第1テレビは、11年の新BS1への移行を見据え、「内外情報&スポーツ波」の性質をより明確にします。定時ニュースや夜間の国際情報番組の刷新、スポーツ中継枠の拡充により視聴者の期待に応えます。

また、放送と通信の融合を先導する波としてワンセグ独自サービスとの連携を深めるとともに、国際放送番組の編成を拡充して、より多彩な情報を提供します。

アナログ衛星第1テレビジョンでも、同じ内容の番組を同時放送します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組10%以上、教養番組20%以上を編成します。

### 5. 衛星第2テレビジョン

「娯楽&アーカイブス&難視聴解消波」の衛星第2テレビジョンは、11年の新BS2への移行を見据え、エンターテインメント番組、アーカイブス番組を充実・強化します。そのために、既存番組の大胆な見直しと統廃合を進めます。

アナログ衛星第2テレビジョンでも、同じ内容の番組を同時放送します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教育番組30%以上、教養番組20%以上を編成します。

### 6. ラジオ第1放送

ラジオ第1放送は、ニュース・報道番組のいっそうの充実・強化に取り組み、災害など緊急時には機動的な編成を行うなど、「安心ラジオ」としての役割を果たします。また、身近な「生活情報

波」として、インターネットや携帯端末を通して聴取者の声を取り入れた番組づくりで双方向化を進めるなど、団塊世代を中心にさらに若い世代へと聴取者層の拡大を図ります。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。
- 〔放送番組の部門別編成比率〕
- 定時番組について、報道番組35%以上、教育・教養番組あわせて25%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

## 7. ラジオ第2放送

ラジオ第2放送は「生涯学習波」として、中核となっている語学講座のさらなる充実を図り、聴取者の学習意欲に応えるとともに、ストーリーミングによるコンテンツ提供など魅力的な学習サービスを行います。

〔放送時間〕

- 1日19時間を基本とします。
- 〔放送番組の部門別編成比率〕
- 定時番組について、教育番組65%以上、報道番組10%以上、教養番組15%以上を編成します。

## 8. FM放送

FM放送は「総合音楽波」として、優れた音質を生かした多彩な音楽番組や、幅広い聴取者が楽しめるさまざまな分野の長時間特集を編成し、音楽ファンの期待に応えます。

また、災害など緊急時には、地域情報波としてラジオ第1放送と連携して機動的な編成を行うなど、きめ細かな情報を提供します。

〔放送時間〕

- 1日24時間を基本とします。
- 〔放送番組の部門別編成比率〕
- 定時番組について、報道番組10%以上、教育・教養番組あわせて40%以上、娯楽番組25%以上を編成します。

※デジタルラジオの実用化試験放送については、「デジタルラジオ推進協会」の免許のもと、高音質放送をはじめ複数の番組を同時に届ける放送や、文字・静止画といったデータ放送に継続して取り組みます。また、新しい動画コンテンツなどの開発も進め、移動体向けサービスの可能性を探ります。

# 放送番組の改定

## I. 4月の番組改定

### 1. 総合テレビジョン

#### (1) 平日朝8～9時台を、女性視聴者を意識したゾーンとして刷新

朝の『連続テレビ小説』（年度前半は「ゲゲゲの女房」）を8時に移設し、8時15分からは40、50代の在宅女性層をメインターゲットとした生放送の情報番組『あさイチ』を新設した。朝の視聴習慣を変える大幅な改定であったが、双方の番組で視聴者層を拡大し、前年同期の同時間帯に比べて視聴率も向上した。

#### (2) 幅広い世代に向け夜8時台を充実

平日夜間に幅広い世代の満足を得られるよう、生活時間帯や曜日の気分を意識して多彩な番組を編成した。木曜には家族揃って楽しめる『新感覚ゲーム クエスト』、金曜は各地域ごとの放送を充実し、関東甲信越地方向けには『イキだね!わたしの東京時間』を新設した。

#### (3) 平日夜10時～11時台を“働き盛り”層に向け強化

夜10時台には、見応えのある定時番組の一層の充実を目指し、人生の成功の秘けつを「出会い」から解き明かす『こころの遺伝子～あなたがいたから』や、「日本語」を掘り下げて、楽しみながら考える『みんなでニホンGO!』などを新設、さらに『ドラマ10』『世界ふれあい街歩き』を移設した。

また、新たに10時55分から開始する30分ゾーンを設け、深夜時間帯で好評を博した『タイムスクープハンター』『名将の采配』をはじめ、『サラリーマンNEO』などを編成した。

11時台には仕事を終えたビジネスマンや働く女性に向けて、経済情報とスポーツ情報をシャープに伝える『Bizスポ』、金曜は『Bizスポ・ワイド』を新設、激動する国内外の経済の動向、スポーツの結果などを迅速に伝えた。

#### (4) 土・日午前、「平日テレビを見られない人」に新しい楽しみを提案

「平日はなかなかテレビを見られないが、週末は見たい」という視聴者に向けて、土曜・日曜午前の編成の充実を図った。

土曜午前は、平日忙しい主婦やビジネスマンがゆったりと楽しめる“旅番組ゾーン”として、

『さわやか自然百景』『小さな旅』『世界遺産への招待状』を集中編成した。

日曜午前は学校が休み子どもたちに向けて、教育テレビで好評を博した『連続人形活劇 新・三銃士』を放送するほか、『週刊こどもニュース』『課外授業 ようこそ先輩』を連続して編成した。

### (5) 週後半～土・日の深夜、多メディア時代の若い世代を意識した番組を編成

携帯サイトとの連携、視聴者のメール投稿など、多メディア時代の若い世代を意識した深夜番組を拡充した。木曜深夜（金曜前0時台）には、携帯サイトで募集した原作をもとにしたドラマ『ケータイ発ドラマ～激恋』を新設。土曜深夜（日曜前0時台）の『着信御礼！ケータイ大喜利』は月3回に放送を増やしたほか、『オンバト+』（月1回は『笑・神・降・臨』）、『J-MELO』の新設、『トップランナー』『東京カワイイTV』『ドキュメント20min.』の移設など、新しい可能性の開拓に挑戦した。

### (6) 大型番組のさらなる強化

09年スタートした『プロジェクトJAPAN』『あすの日本』プロジェクトを継続するとともに、日曜夜9時の『NHKスペシャル』では、長期取材による強力なシリーズ企画、「シリーズ 日本と朝鮮半島」「灼熱アジア」「恐竜絶滅 ほ乳類の戦い」「日本列島 奇跡の大自然」「ホットスポット」「日本人はなぜ戦争へと向かったのか」などを積極的に展開した。

## 2. 教育テレビジョン

### (1) 幼児・子どもゾーンの拡充と地域サービスの充実

幼児・子どもの生活時間に合わせ、幼児にとってより見やすい編成とするため、09年度新設した『みつけた！』（4～5歳児向け）を前7時台に移設、8時台の『おかあさんといっしょ』（2～4歳児向け）『いないいないばあっ！』（0～2歳児向け）の放送時間を見直した。また、日曜午前に幼児・子ども向け時間帯を新設し、さらなる充実を図った。

併せて、土曜の『おかあさんといっしょ～あつまれ！土曜日』や日曜の『あつまれ！ワンワンわんだーらんど』には、地域での公開収録を取り入れて、子どもたちとの交流を深める機会を増やし、地域発信と地域サービスを充実させた。

### (2) ローティーンからハイティーンにかけて視聴者層拡大を図る番組の新設

平日午後6時55分からティーンズ層に関心の高い“試験”を題材にした番組や、“デジタル作品制作”を支援・育成する番組を新設し、ローティーンはもとよりハイティーンへと視聴者層を広げることを目指した。定着が進む『すイエんサー』は、内容の充実を図るとともに総合テレビでも放送した。また、「3-Screens」を活用して「理科クロスメディア」の開発を続けているが、その番組化の一つとして10年度は『大科学実験』を新設した。

### (3) 若者向け番組の強化

09年度新設した『青春リアル』をはじめ、土曜および平日夜間11時30分からの時間帯に編成した若者向けの番組のさらなる定着を図った。加えて、土曜夜11時に海外の学園ドラマを新設し、この時間帯への接触機会をさらに増やす編成とした。08年度に新設した3か月単位の「若者向け趣味実用番組」は、好評だった『佐野元春のザ・ソングライターズ』を含め、10年度もさらに継続した。また、日曜午後6時台には、米ハーバード大学の名物授業を番組化した『ハーバード白熱教室』を新設した。

### (4) 英語番組の刷新とクロスメディア展開

08年度の好評に応じて10年度新設した『リトル・チャロ2～英語に恋する物語』は、学習進度に応じて自分に最適なレベルを選べるように、月～木曜、レベル別の内容で編成した。また、古今東西の英語の“名言”を題材に、英語表現とその人生に触れる番組を新設した。

### (5) 文化教養番組の充実

月～木曜の帯番組『知る楽』を刷新し、曜日ごとにタイトルを変えて、異なるジャンルを取り上げることを鮮明にした。また、月曜には、文化人・タレントなどが自らのこだわりを調べ、体験し、極め、いわば「学」にまで深める番組を新設した。

### (6) 趣味実用番組の刷新

これまで『おしゃれ工房』や『趣味悠々』として月～木曜の帯番組として親しまれてきた趣味実用番組を、曜日ごとにコンセプトとターゲットをより明確にし、視聴者に分かりやすい編成に刷新した。

### (7) 「子どもサポートネット」キャンペーンの継続

現代の子どもたちを取り巻く厳しい状況を取り上げ、考え、提言してきた「公共放送キャンペー

ン・子どもサポートネット」を、平日夜8時台の『福祉ネットワーク』内で継続した。

### (8) 「チャンネルCII」番組の新設

開局51年にあたって、「Eテレ」の愛称とともに教育テレビの存在感をいっそう高めるミニ番組を朝と深夜に編成した。朝は一人の自分から世の中に飛び出す自分にチェンジ、深夜はその反対にストレスから放たれ、ゆったりとした一人の自分に戻る、そんなスイッチの役割を果たしつつ、「Eテレ」が幅広い層に親しまれることを目指した。

## 3. デジタル衛星ハイビジョン

### (1) ハイビジョンならではの話題性、存在感のある定時番組を新設。夜間の時間帯を大幅に充実させ、より幅広い視聴者層の開拓

衛星2波体制を視野に入れ、外部制作番組の開発ゾーンを午後7時台と9時台に新設。午後7時台は、既存の定時番組も含め再配置し、よりファミリー層が楽しめる番組ラインアップとした。午後9時台は、『プレミアム8』から始まる夜間の山場を途切れさせることなく楽しめる、バラエティーに富んだ番組を編成、さらに、午後11時台の『特集&シネマゾーン』を午後10時台スタートとし、より幅広い視聴者層の拡大を図った。

### (2) 衛星デジタル2波化に向けて、衛星第2テレビジョンとの効果的なマルチ展開を進め、デジタル放送のさらなる普及を目指す

エンターテインメント番組を中心に衛星第2テレビジョンとの連動番組枠を拡大し、BS2波化に向けてBSソフトの効果的な展開を図った。

### (3) 金曜夜10時台に海外ドラマ枠を設置

好評を博している『刑事コロンボ』をより見やすい夜10時台に移設、その後続に韓国ドラマ『イ・サン』を、視聴者からの要望も多い“ノーカット・字幕版”で、毎週2本だてで放送。土曜夜10時台のドラマ『蒼穹の昴』と合わせて、海外ドラマを充実・強化した。

### (4) 日曜朝8時台の子ども向けゾーンを拡充

日曜朝8時台のアニメ枠を2時間とし、子ども向けゾーンを拡充した。

### (5) クラシック・ステージ番組の整理統合

『クラシック倶楽部』『N響演奏会』『ハイビジョンステージ』『ウイークエンドシアター』や、衛星第2テレビジョンで放送している『クラシック倶楽部』『クラシックロイヤルシート』を整理統合した。『クラシック倶楽部』は放送枠を拡充、週末夜間には『プレミアムシアター』を新設し、

超一級の演劇やミュージカルも加えたラインアップで放送。これら共通ソフトの再編を行うことで、視聴者にとって分かりやすい編成を図った。

## 4. 衛星第1テレビジョン

### (1) BSニュースを毎正時から毎時50分に移設

正時前の10分間にコンパクトなニュースを編成。総合テレビのニュースとの差異化を図り、視聴者の選択の幅を広げた。

### (2) 平日夜間帯を多様な情報番組ゾーンに

プロ野球中継延長などの影響を受けやすかった平日夜10時台の定時性を確保するため、9時台後半は柔軟な編成とし、『きょうの世界』は50分1枠で充実強化を図った。『MLBハイライト』は午後11時台に移設。後半には、これまで週末午後6時台に集中していた『ニューヨークウエーブ』などの多様な情報番組をゾーン編成し、接触率率の向上を図った。

### (3) スポーツ番組の充実・強化

月1回の番組が並んでいた日曜夜間の複雑な編成を見直し、平日と同じプロ野球中継などを放送する「エキサイティングスポーツ」ゾーンとして刷新した。また、『スポーツ大陸』をよりじっくりと見ることができるよう土曜夜10時台に移設、日曜夜11時台の『BSベストスポーツ』とともに、週末夜間はスポーツのイメージを強化した。

### (4) ワンセグ独自サービスとの連動

放送と通信の融合を先導する波として、ワンセグ独自サービスとの連携を強化、『ワンセグランチボックス』内で放送している5分番組のショーウインドーゾーンを平日午後3時台に新設した。また、東京・青山の「NHK@キャンパス」で収録する『@キャンパス』や『ガッチャン!』は、ワンセグ独自サービスでも展開を図った。

### (5) 国際放送との連携

優れた国際放送番組を、在日外国人向けだけでなく、広く国内の視聴者にも紹介するため、平日午後4時台にショーウインドーゾーンを新設した。

### (6) 週末夜間に新機軸の番組を

土曜夜間に、地域と若者を結び付ける新番組『関口知宏のオンリーワン』を新設、俳優・関口知宏さんが国内で活躍する“オンリーワン”な生き方を貫く若者たちを訪ね歩き、その姿を伝えた。また、日曜夜間の『地球アゴラ』をウイークリー化してその定着を図った。

## 5. 衛星第2テレビジョン

### (1) プレミアム感のある大型エンターテインメント番組の新設

週末夜間の番組を整理・刷新し、40代から50代の“本物志向”の視聴者のニーズに応える大型エンターテインメント番組を新設するとともに、好評な番組を可能な限り定曜定時化し、毎週の視聴習慣の定着を図った。

### (2) 同じジャンルの番組群を統合・強化し、衛星放送らしい個性あふれる番組の新設

何かに熱中することを応援する番組群の統合、マンガやアニメ、ゲーム、インターネットなどのポップカルチャーの最新情報等を紹介する番組の統合、自然と調和した生活を楽しむ人々のライフスタイルを紹介する番組の新設等により、衛星放送らしいジャンルの強化で接触者率の向上を図った。

### (3) NHKオンデマンドとの連携等、新たな展開を視野に入れたアーカイブ番組の新設

地上波のアーカイブ番組を紹介する放送枠については、番組ジャンルを明確にし、分かりやすい編成を目指した。また、20年間にわたる衛星放送の番組や、アナログ時代からの衛星ハイビジョン番組の中から、斬新な番組や話題となった番組を紹介する放送枠を新たに設け、NHKオンデマンドの特選ライブラリーとも連携しながら、視聴者・利用者の拡大を目指した。

### (4) 受信料支払い率向上に資する番組の強化

子どもたちに人気の公開番組や、職場などでの参加感を高める番組を充実・強化するとともに、視聴しやすい時間帯に編成して認知度の向上を図った。

### (5) 衛星2波化に向けた編成手法の開発

地上波の難視聴解消の対象番組を効果的に編成して、接触者率の向上を図るとともに、衛星2波化に向けて、時差放送に対する視聴者のニーズを見極めた。また、衛星ハイビジョンの番組を効果的に編成する放送枠を設け、デジタル波への誘導を図った。

## 6. ラジオ第1放送

### (1) アニメ番組など若者向けの番組を編成

火曜午後8時台に、若者に人気のアニメやアニメソングをテーマにした『渋谷アニメランド』を新設した。また、日曜夜の『渋谷マガZ』で、東京・青山の「NHK@CAMPUS」からのコーナーを継続し、若者向けの番組として充実を図った。

### (2) 土日の午後4時台にアンコールアワーを新設

土曜、日曜の午後4時台に、アンコールアワー『とっておきラジオ』を新設した。聴取者の再放送希望に応えるとともに、昼の時間に平日夜間の番組を再放送し、より多くの聴取者に番組を楽しんでもらえるようにした。

### (3) 地域発全国放送番組の定曜定時化

これまで、札幌局、仙台局、名古屋局、福岡局、沖縄局制作の地域発全国放送番組は、5週に1回の放送で、放送日が分かりにくかった。そこで、『沖縄熱中倶楽部』を土曜午後10時台に移設することで各番組の放送日を定曜定時化し、聴取者サービスの向上につなげた。

## 7. ラジオ第2放送

### (1) 多メディア展開の促進

クロスメディア展開する語学講座の新シリーズ『リトル・チャロ2 心にしみる英語ドラマ』を開始した。

### (2) 継続学習しやすい語学講座番組の拡充

語学番組の15分化を引き続き進め、聴取者が1年間にわたって学び続けやすい講座番組を目指した。

### (3) 外国語ニュースの拡充

在日外国人をはじめ、より幅広い聴取者層に向けて、中国語、ハンガルのニュースを国際放送と連動して拡充した。

## 8. FM放送

### (1) 土曜午後に聴取者層を絞った新番組

土曜午後、『サタデーホットリクエスト』に代わり、『サタデーワイド』を新設。30～40代の女性をターゲットにした「土曜日レディ」、若者をターゲットにした本格的リクエスト&DJ番組「ラジオマンジャック」、高校生がDJをつとめる「U-18 ユーガタM塾」の3部構成とした。

### (2) 夜11時台に、一流アーティストを起用した新番組

水曜夜11時台に、著名な音楽プロデューサーが案内役を務める『松尾潔のメロウな夜』と『小西康陽 これからの人生』を新設した。09年度の新設番組『きたやまおさむのレクチャー&ミュージック』『元春レイディオ・ショー』『大貫妙子 懐かしい未来』と合わせて、夜11時台は、一流アーティストによる音楽番組ゾーンとした。

### (3) 日曜午前に吹奏楽番組と、クラシックの新番組を編成

日曜午前8時台に、『吹奏楽のひびき』を45分に拡大して移設した。また午前9～10時台は、NHKのアーカイブスにある貴重な音源を生かして、クラシックファンに往年の名演奏を楽しんでもらう『名演奏ライブラリー』を新設した。

### (4) 日曜夜間を、コアな音楽ファンが楽しめる時間帯に

日曜夜間に、一流の音楽クリエイターが自身の作品の誕生秘話を披露する『サウンドクリエイターズ・ファイル』を新設した。また、『ライブビート』『ワールドミュージックタイム』をこの時間帯に移設。『インディーズファイル』『セッション2010』と合わせて、コアな音楽ファンに楽しんでもらえる時間帯とした。

## II. 年度途中の新設番組など

### 1. 総合テレビジョン

#### (1) 新設番組

10月の改定では、月曜夜間に、さまざまな分野の第一線で活躍中のプロの“仕事”を徹底的に、掘り下げるドキュメンタリー番組『プロフェッショナル 仕事の流儀』(10月18日～)、木曜夜間に、タモリのユニークな目線と深い教養を軽妙な会話に乗せて、肩のこらない身近な街歩きの面白さを紹介する『プラタモリ』(10月7日～)、“女性の本音”をテーマにした、オムニバス形式のショートコメディ集『祝女』(9月30日～)を再開した。また、新たに30～40代の女性向け番組の拡充を図り、月曜夜間に“見れば元気になる”を合言葉に懸命に生きる人たちを応援する『ドラクロワ』(10月4日～)、金曜夜間に関東甲信越ブロック向けに、キッチンを備えた車に気鋭の料理人が乗り込み、訪れた地で食材を探しながらオリジナル料理を地元の人たちにふるまう『キッチンが走る!』(10月1日～)、木曜深夜には40歳代の視聴者をターゲットに、一世を風びした1980年代の洋楽ミュージックビデオを紹介する『洋楽倶楽部80's』(9月30日～)を新設した。土曜夜間についても、夜9時台を特集編成枠とし、見応えのある長時間特集をタイムリーに編成した。

1月には、『連続人形活劇 新・三銃士』の終了に伴い『週刊こどもニュース』の廃止、『小さな旅』を移設したほか、土曜午前8～9時台のターゲットを、こどもファミリーゾーンから在宅の

働きざかり層に改め、『ニュース 深読み』(1月15日～)を新設するなど、土・日午前の編成枠を改定した。木曜深夜には、20～30代の未婚の女性をメインターゲットに、現代人の忘れかけている“美しい日本語”の意味を再認識してもらう『恋する日本語』(1月14日～)を新設した。

### (2) ドラマの新シリーズ

『連続テレビ小説』では『てっぺん』(9月27日～)、大河ドラマでは『江～姫たちの戦国』(1月9日～)を放送した。また、司馬遼太郎原作の『スペシャルドラマ～坂の上の雲』を09年に引き続き、全13回のうちの6～9回を放送したほか、ミニ番組ほか関連番組も多彩に編成した。さらに清朝末期の中国を舞台に、落日の大国を統べる最高権力者・西太后の命運とともに絡め取られてゆく2人の若者を描いた浅田次郎原作の日中共同制作ドラマ『蒼穹の昴』(9月26日～)を放送した。海外連続ドラマでは『アグリー・ベティ3』(10月7日～)を放送した。

### 2. 教育テレビジョン

アカデミックな特集枠として『Eテレアカデミー』(10月3日～)を新設、『ハーバード白熱教室』のサンデル教授の来日授業のようを伝えるなどした。海外ドラマでは『アルフ』の後続として『アイ・カーリー』(11月16日～)、『新ビバリーヒルズ青春白書』の後続として『カイルXY』(10月2日～)を放送した。若者向け趣味実用番組の新シリーズとして『ミュージズの微笑み』『Q～わたしの思考探究』を放送した。

漫画家を目指す2人の少年の歩みを初々しく描いたアニメ『バクマン。』(10月2日～)を放送した。そのほか、世界的なソプラノ歌手、バーバラ・ボニーが声楽を教える『スーパーオペラレッスン』(1月7日～)を放送した。

### 3. デジタル衛星ハイビジョン

ドラマを演出した経験のないディレクターに向けて、オリジナルドラマの脚本を募り、その中から厳選した15本を執筆者自らが演出。ほとぼる情熱を傾けた演出家たちの新鮮なドラマ『私が初めて創ったドラマ』と、現代の男前が歴史上の表現者たちの生き様を探り、時空を超えて2人の男前と同時に会うことができる『男前列伝』の2番組を新設した。

1月以降は、BS2波化を視野に入れ、新年度に向けたパイロット番組をイタリア特集と連動して放送するなど、新しい取り組みも随時行った。

## 4. 衛星第1テレビ

MLBシーズン終了に伴い、これまでは6～7時台の2時間だった『おはよう世界』を8時台までの3時間に拡充した。また、上半期午前0時台だった『BS世界のドキュメンタリー』を午後11時台に1時間繰り上げて配置、午後10時台の『きょうの世界』と合わせ、幅広く“いまの世界”を知ることができる2時間の国際情報ゾーンとした。

## 5. 衛星第2テレビ

海外ドラマの新シリーズとして、2010年ゴールデングローブ賞受賞作品で、アラフォー弁護士アリシアが持ち前のバイタリティーと推理力で困難な裁判に挑んだ『グッド・ワイフ』（10月5日から全23話）や『アグリー・ベティ4』（10月6日から20話）、『ER15 緊急救命室』（10月7日から22話）を編成した。また、衛星アニメの新シリーズとして、『心霊探偵 八雲』（10月3日から13話）、『スター・ウォーズ／クローン・ウォーズ2』（10月3日から22話）を編成した。

## 6. ラジオ第1放送

プロ野球ナイトゲームの終了に伴い、木・金曜の午後8～9時台の編成を刷新した。木曜は、09年度に引き続き『わが人生に乾杯』を放送。

金曜は、『歌謡ドラマ』を廃止し、『いとしのオールディーズ』を8～9時台に拡充。洋楽ファンの要望に応えた。

## 国内放送番組審議会

放送番組審議会は、放送事業者に対して放送法で設置が義務付けられている法定の審議機関である。NHKは国内放送に関わる「中央放送番組審議会」と8つの「地方放送番組審議会」、国際放送に関わる「国際放送番組審議会」を設置している。

番組審議会は、放送番組の適正を図るための自律措置として設けられているものであることから、委員の人選にあたっては学識経験者などの中から、社会動向や属性など全体の調和を考え、視聴者の意向が的確に反映されるよう、幅広い観点から委嘱を行っている。委員数は、11年3月現在で中央審議会は15人、地方審議会は10～12人で組織している。会議は、毎月1回の定例開催日に議題を設けて実施している（8月は休会）。会長の諮問に応じて全国向けの「国内放送番組編集の基

本計画」と各地域向けの「地域放送番組編集計画」について審議し、答申したほか、番組全般について意見交換を行った。

### 1. 中央放送番組審議会

中央放送番組審議会は、10年度中に10回開催し、会長の諮問により、「平成23年度国内放送番組編集の基本計画」について審議し答申したほか、広く国内放送番組全般について活発な意見交換を行い、放送番組への反映を図った。

10年度中の主な議題は次のとおり。

- 4月 『Eテレ0655』『Eテレ2355』について
- 5月 『いのちドラマチック～ミツバチ 家畜化された昆虫』について
- 6月 『Bizスポ・ワイド』について
- 7月 『青春リアル 相手がイヤかもしれないのに、メシに誘えるのはなぜですか?』について
- 9月 平成22年度後半期の国内放送番組の編成について  
平成23年度国内放送の編集方針について（意見聴取）
- 10月 『私が初めて創ったドラマ 俺んちの神様』について
- 11月 「平成23年度国内放送番組編集の基本計画」（案）について
- 12月 「平成23年度国内放送番組編集の基本計画」（案）－諮問－  
平成23年1月以降の総合テレビ土曜・日曜朝の編成について
- 1月 「平成23年度国内放送番組編成計画」について
- 2月 視聴率と接触者率について
- 3月 （休会）

番組審議会の活動内容の公開については、各番組審議会の議事概要を毎月、放送やインターネットなどで公表しているほか、各放送局で議事概要の備え置きを実施するなど積極的に行っている。

### 2. 地方放送番組審議会

全国8つの地方ごとに「地方放送番組審議会」が設けられ、各地方の放送番組の基本方針を審議している。

10年度中に各地方とも11回（一部地方は10回）開催し、会長の諮問に応じて「平成23年度各地方向け地域放送番組編集計画」について審議し答申したほか、番組全般について意見交換し、その適正化を図った。

## 2 節 放送番組の制作

### 報道・スポーツ番組

#### I. 取材・制作・放送システム

11年3月の東日本大震災、10年7月の参議院選挙などにおいて、NHKで開発・整備を行ってきた国内外のさまざまなシステムや設備が、災害報道や選挙報道を支え、視聴者の負託に応える大きな力となった。

##### 1. ニュース取材・制作設備

多メディア時代が本格的に到来する中で、幅広い層や世代に正確な情報を提供できるよう、3-Screensへの取り組みを強化した。東日本大震災においては、迅速で正確、そして、多様・多量な情報の発信に全力を挙げた。

震災直後は400本超のニュースを公開。発生後1か月間で8,100本のニュースを公開した。また、被害やインフラの状況などを伝える震災サイト、動画のパソコン向け特設サイトや、福島第一原発事故関連をまとめたサイトを開設した。さらに、こうした事象ごとのページだけでなく、福島局のローカルテレビニュースを動画で公開するサイトを開設するなど、地元を離れて避難している人への情報提供にも努めた。ネットを使い、テレビやラジオを補完する形でNHKの報道コンテンツを幅広く伝えた。

海外総支局の設備整備として、10年度は、老朽化の著しいワシントン支局のスタジオ制作設備を更新し、信頼性と運用性に優れたシステムを導入した。また、VTRを利用していたアメリカ総局の素材収録システムを、半導体メモリーやハードディスクを利用したファイルベース化システムに更新し、利便性の大幅な向上を実現した。これらの整備により、スタジオ演出の幅の拡大や、国際情報の発信力強化などにつなげることができた。

選挙報道に利用している全国の選挙作画装置を更新し、参議院選挙から運用を開始した。新しい作画装置は、高画質で幅広い演出要件に対応でき、これまで以上に見やすく分かりやすい開票情報を提供できるようになった。さらに、作画シーンや候補者の顔写真などをネットワーク経由で全国の作画装置に配信できる仕組みを有しており、そうしたデータの登録・更新も効率よく確実に実施で

きるようになった。

##### 2. 緊急報道設備

気象庁が10年5月から発表を始めた市町村気象警報については、09年度に改修・整備した気象データベースや専用の作画装置の動作検証を実施するとともに、運用者の習熟に努め、運用開始以降、安定・確実な送出を実現している。

また、津波地図ノルマル・スーパーの津波警報の発表区域を表示する色を従来の赤白の二重線から紫色に変更し、民放各社と津波警報、津波警報・注意報の色を統一するための改修に着手した。あわせて、視覚障害者にも分かりやすい表示となるよう画面の配色を改善するなど、11年7月の運用開始に向けて作業を進めている。

気象庁の防災情報XMLに対応するため、緊急データベースや地震ノルマル作画装置、原稿支援システムの開発・整備を行った。

首都直下地震の発生を想定し、BS二波化への対応を含めた本部災害対策マニュアルの改訂を実施した。

##### 3. 報道情報システム

報道情報システムは、ニュース原稿の作成から制作、送出までを担うNHKの報道を支える基幹システムである。多くのホストコンピューターとサーバー群を中核とした大規模なネットワークシステムである。

東日本大震災では、被害の大きい地域で通信網が寸断されるなどして、一時、原稿を送ることさえできなくなる取材現場もあった。こうした地域に海外で使用する衛星電話や携帯電話を利用した新型端末など、さまざまな機材を送り込み、被災地からの報道を支えた。これに先立ち、首都直下地震の発生を想定し、大阪局から通信衛星電話を利用して報道情報システムに接続できるようにするバックアップの設備を整備した。

インサイダー取り引き事件を受けたセキュリティー強化策で、09年度に報道情報システムの利用者管理を行うサーバーを更新し、パスワードのけた数を増やした。取材記者が局外からシステムにアクセスする際に使う記者パソコン用のソフトウェアを改修し、外部から接続する際もパスワードけた数増に対応できるようにした。

映像権利の情報を適切に運用するための権利情報システムの機能が、報道情報端末に統合され、映像利用についてもより高いコンプライアンスで運用できるようになった。

## II. 緊急報道

10年度は大雨の被害が相次いだほか、霧島連山新燃岳の噴火活動で住民生活に大きな影響が出た。ニュージーランドの地震では日本人28人が死亡した。NHKは、いずれの災害に対しても公共放送として国民の生命・財産を守る立場から被害の軽減や復旧に役立つ放送に組織を挙げて取り組み、「正確」「迅速」「分かりやすさ」を基本に緊急報道を展開した。

### 1. 自然災害

#### (1) 地震・火山

九州の霧島連山新燃岳で、およそ300年ぶりとなる本格的なマグマ噴火が11年1月26日から始まり、噴火警戒レベルが3に引き上げられた。大量の火山灰を出し、噴石を飛ばす爆発的な噴火を繰り返したが、2月中旬以降は噴火の規模や頻度が低下。周辺住民の生活に大きな影響が出たほか、火山灰による農業被害や、噴石や空振で窓ガラスが割れるなどの被害が出た。

NHKは本部や九州各局を中心に大規模な応援態勢を組み、噴火の状況や影響を詳細に伝えた。2か所に臨時ロボットカメラを設置し監視態勢を強化するとともに、中継映像をインターネットで公開するなどの取り組みも行った。

11年2月22日にニュージーランド南部でマグニチュード6.3（米地質調査所）の地震が起きて日本人28人を含む181人が死亡。被害が集中したクライストチャーチでは語学学校の入ったビルが倒壊、死亡した日本人は、いずれもこの語学学校で学んでいた。NHKは、休暇で訪れていた徳島局職員が発生3時間後の『正午のニュース』から電話リポートするなど、早い段階から現地の情報を伝えるとともに、海外緊急展開チームを派遣するなどして対応。被害の様子や日本の国際緊急援助隊の活動などを取材し、現地から多くの中継を行うなどして伝えた。また、日本政府の対応や家族・関係者などの動きを詳細に伝えた。

#### (2) 西～東日本で梅雨前線による大雨

7月10日から16日にかけて梅雨前線の活動が活発化した。岐阜県八百津町で伽藍で15日午後11時半までの24時間雨量が239ミリと過去最高を記録、1時間雨量では、岐阜県多治見市で15日午後7時12分までに83.5ミリ、広島県庄原市で16日午後5時43分まで64ミリと、史上最も多い雨量を観測した。

岐阜県八百津町では土砂崩れで3人が死亡、松江市では裏山が崩れて2人が死亡。広島県庄原市では川が氾濫し住宅6棟が流されるなどして1人が死亡した。総務省消防庁によると、10日から16日までの死者・行方不明者は、広島・島根・岐阜の3県で計14人。NHKは、大雨や被害の最新情報を気象予報士の解説も交えて随時伝えた。大雨となった原因や注意点などを呼びかけて減災報道に努めた。

#### (3) 奄美地方で記録的な大雨

10月20日、鹿児島県奄美地方で、南シナ海にあった台風13号の影響で前線の活動が活発になり、雨雲が急激に発達した。鹿児島県が奄美市住用町に設置した雨量計では、午後1時までの1時間に131ミリの猛烈な雨を観測。18日からの総雨量は住用町で約1,000ミリ、奄美市名瀬で760ミリ余りで、平年の1か月分の3倍を超えた。

奄美市住用町ではグループホームが水につかり、お年寄り2人が死亡、龍郷町では住宅が土砂に押し流され1人が死亡。鹿児島県によると、住宅10棟が全壊、479棟が半壊し、床上・床下の浸水は900棟近くにのぼった。NHKは正午の全国ニュースで記録的短時間大雨情報を伝え、その後も全国放送やローカル放送で随時、特設ニュースを放送。中継をいち早く立ち上げ、大雨の情報を詳しく伝えた。

#### (4) 記録的な猛暑

7月後半以降猛烈な暑さが続き、気象庁によると、6～8月の平均気温は平年より1.64度高く、平年との差は夏としては1898年の統計開始以降、最も高かった。東京都心は30度以上の真夏日が71日、35度以上の猛暑日が13日で、各地で猛暑日や真夏日の記録を更新。気象庁は、偏西風が北に偏って強い太平洋高気圧に覆われたことに加え、地球温暖化も影響したと分析している。総務省消防庁によると、熱中症による救急搬送は7～9月で前年の4倍以上の5万3,843人。熱中症の死者は厚生労働省のまとめで1,648人と前年の2倍以上となった。NHKは、連日暑さのニュースを伝え、気象情報でも熱中症の予防対策を繰り返し呼び掛けた。

#### (5) 記録的な大雪

12月終わりから1月末にかけて強い寒気が流れ込み、日本海側の広い範囲で大雪となった。気象庁によると、積雪は福井県越前市で116センチ、鳥取県米子市で89センチなど、全国22地点で観測史上1位を更新した。福島県内の国道では12月25日から27日にかけて300台以上の車が走行不能と

なったほか、12月31日から1月2日にかけて鳥取県の国道で約1,000台が、1月30日から2月1日にかけては福井県内の国道や北陸自動車道で多数の車が立往生。

NHKは、大雪の状況や見通しをニュースで伝えるとともに、国土交通省の監視カメラの映像を放送したり現地から中継したりして影響を詳しく伝えた。

## 2. 映像取材体制

### (1) 航空取材の基地・機体の体制

10年度は、札幌、仙台、東京、静岡、名古屋、大阪、福岡の7基地で中型機を、新潟、広島、高松、鹿児島、沖縄の5基地で小型機を運用した。これに全国支援と、機体の検査や整備を行うときにバックアップをする予備機を加えた12基地14機体制で全国の事件・事故や災害など、緊急報道に対応した。

### (2) 大地震等に備える

東海地震をはじめ東南海・南海地震など想定される大規模地震に備え、ヘリコプターのHV自動追尾エリアを拡充したほか、緊急報道に即応するため、鹿児島基地で日中時間帯の常駐化を図るとともに、福岡基地には洋上取材により適した安全装備を持つヘリコプターの再配置を行った。

## III. 選挙システム

選挙システムは、全国をネットワークで結んで出口調査や最新の開票データなどを集計し、当選確実の判定や、放送・インターネットなどの開票速報画面の作成などを行うものである。

10年の参議院選挙では、候補者情報を一元管理する候補者データベースを稼働させ、選挙システムと一体運用した。投開票日の総合テレビでは、東京と全国の放送局のシステムを結び、政党の議席予測、当選確実、得票数、獲得議席といった情報を新しく導入した作画装置やCGディスプレイなどを駆使して約14時間にわたり放送した。また、BS1、T国際、R1、FM、データ放送、インターネット、携帯コンテンツ等もシステムと結んで開票速報を実施。特にインターネットは、開票状況と動画コンテンツを一体的に運用したほか、一度に開ける選挙区数の拡充を実現し、閲覧性を向上させた。

参議院選挙後も、正確・迅速な当確判定が実施できるようシステムや判定ソフトの改修を恒常的に進めるとともに、放送画面の分かりやすさを追

求するため、ディスプレイのデザインや色使い、顔写真の使い方の改善を続けた。

## IV. 国際回線による映像伝送

海外からの中継や映像の伝送は、主に通信衛星や光ケーブルなどを使って行われている。

NHKでは、世界で起きた紛争や災害、国際情勢などを伝えるため、膨大な量の映像を24時間体制で世界中から受信している。

### 1. 随時伝送と定時伝送

海外からの映像伝送は、事件・事故、国際会議などのニュースおよび国際的なスポーツイベントなどの際、そのつど、海外と回線をつなぐ「随時伝送」と、海外の放送局が制作したニュース番組を決まった曜日と時間に受信する「定時伝送」とに大別される。

NHK海外総支局の取材体制強化やMLB、PGA、サッカーなど、海外からのスポーツ映像の増加などを背景に、伝送量は年々増加している。

10年度は「随時伝送」と「定時伝送」を合わせた総件数は、3万2,587件。09年度に比べて、5%の増加となった。総伝送時間は、3万2,661時間で、09年度に比べ、697時間増えた。

このうち「随時伝送」は、09年度と比べて約4%増加し、1万7,333件であった。増加の理由としては、11年2月に発生し、日本人28人が犠牲となったニュージーランドの地震、これに続いて、3月11日に発生した東日本大震災で、海外からも数多くの映像が伝送されるなど、大規模災害報道が相次いだことが挙げられる。また、10年8月、南米チリのコピアポ鉱山で起きた落盤事故で、33人の作業員の生存が確認され、救出までの70日間に及ぶ長期の取材・報道が行われ、生中継を含む大量の映像が、現地から送られてきたことも、増加の大きな要因となっている。さらに、10年5月から半年間続いた上海万博やFIFAワールドカップ南アフリカ大会など、国際イベントの伝送も多かった。「定時伝送」では、アメリカのABCやCNN、イギリスのBBC、フランスのF2などが制作した欧米のニュース番組をはじめ、中国やフィリピン、ベトナムなど、アジア各国のニュース番組も受信している。

特に重要な海外番組の受信としては、北朝鮮の国営放送・朝鮮中央テレビをはじめ、イラク問題など、中東情勢を伝える上で欠かせない情報源として、カタールの放送局「アルジャジーラ」の24

時間受信を行っている。

06年度からは、世界最大のイスラム国家・インドネシアのニュース番組も受信を開始したほか、07年度からは、南米ブラジルの放送局のニュースも新たに加わり、NHKの国際回線ネットワークで定時伝送している番組は、世界16か国、24の放送機関となった。

「定時伝送」は、2万688時間で、総伝送時間の63%を占めており、1日当たりの平均受信時間は56.7時間となっている。

## 2. 緊急報道

「随時伝送」の中でも最も重要なのが、緊急報道への対応である。

NHKの海外特派員や報道局の取材・中継チームは、世界各地で起きる紛争や事件・災害の現場に展開する。こうした緊急報道では、現場と日本との間を、どのようにつなぐのかが課題となる。周辺の放送機関や映像通信社に協力を求めて衛星の伝送施設を借用したり、複数の衛星を組み合わせるなどして、地域の通信事情を考慮しながら、そのつど、伝送路を確保しなければならない。映像信号や映像圧縮装置の違いなどが回線接続を困難にすることが日常的にあり、海外からの映像伝送を専門とするチームが、24時間体制で、難易度の高い回線接続にも対応し、現場の記者やカメラマンを支援している。

既存の通信基盤がない過疎地域が現場になる時は「フライ・アウェー」と呼ばれる小型の衛星通信地球局を航空機で持ち込むことがある。また、周辺の地域や国から、衛星通信アンテナを積んだ「SNG (SATELLITE NEWS GATHERING)トラック」と呼ばれる車載型地球局を現地へ走らせることもある。06年に発生したジャワ島中部の地震、津波被害や08年5月の中国・四川大地震、それに、11年のニュージーランド地震では、ハイビジョン映像が伝送できる「フライ・アウェー」を現地へ持ち込んで、迅速に回線を接続し、被災地の状況を鮮明な映像で世界に伝えた。10年10月12日、チリの鉱山事故で作業員が地下から救出された際は、現地に持ち込んだ小型の「フライ・アウェー」が、救出の瞬間をリアルタイムで日本へ伝えた。

## 3. 国際専用ハイビジョン回線

NHKは、膨大な量の映像伝送を円滑かつ確実に行うため、地球を一周する24時間接続のハイビジョン専用回線を有している。

アメリカと日本を結ぶ光ファイバーの「米日専用回線」は、総延長およそ2万キロ。ハイビジョンの映像が4本同時に送れるもので、ニューヨークのアメリカ総局、ワシントン支局、ロサンゼルス支局から、どの回線にも接続できる。

回線構成は、米国内、太平洋の海底区間とも異なる経路で二重化されており、片側の回線が何らかの理由で切断されても、もう一方の回線に、瞬時に切り替わる高い機能が備わっている。アメリカ総局には、全米各地、中南米からの映像を24時間体制で中継している「回線センター」がある。日本人選手が活躍するMLBの映像も、全米各地の球場からアメリカ総局に集められ、米日専用回線で日本へ送られている。

「欧日専用回線」は、インド洋上の衛星を介し、ユーラシア大陸を横断する形でパリのヨーロッパ総局と放送センターの間が24時間接続されており、同時にハイビジョン2回線の伝送が可能となっている。

また、パリとアメリカをハイビジョンで結ぶ「欧米専用回線」が1回線あり、パリからの映像をロサンゼルスで、4回線ある「米日専用回線」のどの回線にも接続できるようになっている。

欧州地域の映像は、欧日専用回線の東回りルート、欧米専用線経由の米国縦断、西回りルートのどちらでも送ることができるようになっており、高い運用性と安全性を確保している。

さらに、ロンドン、モスクワ、ベルリン、エルサレムの各支局は、パリとハイビジョン専用回線で24時間接続されているほか、パリのヨーロッパ総局は、衛星の電波を受信するアンテナ10基を備えた「テレポート」を有しており、欧州・中東・アフリカ地域からの映像を中継して、欧日専用回線や欧米専用回線、米日専用回線経由で東京の放送センターとを結ぶ分岐点、いわゆる「ハブ」の役割を果たしている。

このほか、アジア地域では、北京の中国総局、上海支局、バンコクのアジア総局、ソウル支局、マニラ支局、台北支局、ニューデリー支局、イスラマバード支局、シンガポール支局、シドニー支局からなどからもハイビジョン伝送が可能になっている。

## 4. 海外からのIP伝送 (DNG/Digital News Gathering)

近年、国際映像伝送は、デジタル技術の進展を背景に新しい時代に入っている。

ブロードバンドサービスの高速化や映像圧縮技

術の発達によって、パソコンに映像を取り込み、インターネット等、IP回線を利用して、デジタルファイルや、リアルタイムのストリーミングで映像を送る「DNG」が、海外からの伝送手段として盛んに活用されている。

10年度は、4月にタイで起きた大規模な反政府デモによる衝突事件や、11月の北朝鮮による韓国ヨンピョン島砲撃事件、ロシア大統領の北方領土訪問などに活用され、過去最高の年間2,647件を記録した。このような伝送手段は、紛争地域などの取材現場で、小型の衛星通信ターミナルのインマルサットBGANと組み合わせられて使われたのをきっかけに、世界中の放送メディアで普及が進んだ。現在の高速インターネットでは、ハイビジョン映像をリアルタイムに送ることも可能となったほか、市街のあちこちに設置された公衆無線LANスポットからも容易に映像が送れるようになるなど、ニュース映像収集の機動力強化に革命をもたらしている。

## 5. 国際間の映像素材交換

NHKは、国際回線を使って内外のニュース映像を海外の放送機関にも提供している。

このうち「アジアビジョン」は、「ABU・アジア太平洋放送連合」傘下の19か国22放送機関（11年3月現在）が、毎日2回、衛星を使った送受信に参加しているほか、一部メンバーはインターネットを使ったファイル素材として提供している。

10年度に交換したニュースは、8,835項目。このうちNHKは1,061項目のニュース映像を提供した。このうち東日本大震災では発生1時間後にフラッシュニュースとして現地の映像を伝えたほか、その後も被災状況や原発事故の様子を克明に発信し、加盟放送機関から高い評価を得た。

アジアビジョンに提供された映像は、ジュネーブのEBU（欧州放送連合）本部へも、衛星伝送とインターネットを経由したファイルで送られ、欧州域内の放送機関に配信されている。

## V. ニュース

政治では、6月、鳩山首相が辞任。その後、菅内閣が発足したが、7月の参議院選挙で民主党は大敗。その後も厳しい政局運営が続いた。

経済では、ギリシャの経済危機をきっかけに、主要国の株価が下落、ユーロ安が進むなど世界経済の混乱は続いた。そんな中、急激に円高が進行。日本経済の先行きも不透明なものになった。

国際では、北朝鮮で、キム・ジョンイル総書記の後継者に、三男キム・ジョンウン氏が決定。

北朝鮮による韓国・ヨンピョン島への砲撃で南北間緊張が高まった。尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁の巡視船に衝突。中国人船長の逮捕を巡って、中国が対抗措置をとるなど、日中関係は一時冷え込んだ。

小惑星探査機「はやぶさ」の帰還。サッカーW杯南アフリカ大会での日本のベスト16進出など、国民を勇気づける出来事があった一方で、大相撲の野球賭博問題や八百長問題、大阪地検特捜部の主任検事による証拠改ざん事件など、信頼を裏切る事件も相次いだ。

災害では、大雨の被害が相次いだほか、霧島連山新燃岳が300年ぶりに噴火。周辺住民の生活に大きな影響がでた。

そして、3月11日に東日本大震災が発生し、続いて福島第一原発事故も発生。影響は、国民生活全体に及び、ライフスタイルの見直しを迫ることになった。

### 1. 主なニュース番組

#### (1) 総合テレビ

夜のメインニュースは『NHKニュース7』。その日、国内や世界で起きた主要なニュースを武田キャスターが伝える。模型や大きな再撮画面を使いキャスター自らが分かりやすく解説、また「最新情報を最大重視」し、放送が始まってから飛び込んできたニュースも積極的に放送している。また、「正午ニュース』『お元気ですか 日本列島』『午後6時ニュース』も担当している。

視聴者により速く、より正確な情報を提供するため、この1年間定時ニュース以外に299回のニュース速報と453回の地震情報の速報を実施した。新幹線の不通や台風時のL字放送などを加えた1年間のニュース速報の回数は841回となった。また、6月の鳩山首相辞任・菅内閣発足や、10月の奄美豪雨被害、11月の北朝鮮による韓国砲撃事件などで定時ニュースを151回・計24時間14分枠広げし、79回・11時間27分に及んだ特設ニュースでは、台風や検察審査会による小沢元民民主党代表の強制起訴の議決などを報道し、視聴者がNHKに寄せる「緊急報道」への期待に応えた。（定時ニュース枠広げと特設ニュースは3月10日までの記録）

特に3月11日午後2時46分50秒の緊急地震速報、午後2時48分17秒QF付きの全波緊急警報放送で始まった東日本大震災の放送では、全国のテ

レビニュース経験者の応援を得、また被災地にテレビ制作の応援を出して、被災地や原発事故の最新情報を多角的に伝えた。

## (2) 教育テレビ

手話ニュースは、毎日伝える『NHK手話ニュース』と平日夜の『NHK手話ニュース845』、週末の『週間手話ニュース』、週1回子どもにニュースを伝える『こども手話ウィークリー』の4本の定時番組を放送。

## (3) BS1

『BSニュース』は、毎日毎時50分から10分間を基本に24時間、国内外のニュースや各地の話題をコンパクトにまとめて伝えている。

『BS列島ニュース』は、平日の午後1時から1時49分までの49分間で、全国各地のNHKの放送局がその日の昼に伝えたニュースや地域放送で伝えたりレポートをまとめて全国に発信している。

## (4) ラジオニュース (R1・FM)

11年3月11日、午後2時46分に起きた東日本大震災。「安心ラジオ」の真価を問われる未曾有の大災害となった。発生から44分後の午後3時30分にはR1・FMスルーの独自放送に切り替え、3月14日(月)午前5時まで61時間30分にわたり「地震・津波ニュース」を集中的に伝えた。津波が予想される地域やその高さ、それに避難の呼び掛けを繰り返し伝えたほか、被災地の人たちが仙台局のアナウンサーと電話をつないで地震直後の現地の状況も報告した。

また、政府や気象庁などの会見は随時、中継で放送し、当局の対応や余震、それに今後の見通しのほか、仙台局から1時間ごとに約10分間、現地の最新情報を伝えた。

定時番組再開後も、被災地では停電が広がり、ラジオが重要な情報入手の手段になっていることに配慮して、柔軟に『ニュース』枠の拡大や番組内容の変更を行い、被害情報だけでなく、被災地の人たちにに向けて停電や断水などきめ細かい生活情報をたっぷり伝えた。

また、双方向性というラジオの特性を生かして、避難所からの切実な訴えや全国から寄せられた励ましのメールを紹介するなど、被災した人たちに寄り添う放送を続けた。

大震災への対応を除き、通常のラジオ第1のニュースは、30分毎(深夜～未明は1時間毎)を基本に、午前7時・正午・午後3時・午後7時・午後10時は、それまでの主なニュースをせき止め、特に午後7時の『NHKきょうのニュース』は、地域局がリレー形式で伝える「列島リレーニュー

ス」を含む1時間の枠で、インタビューなどの音声を生かしながら、一日の出来事や話題をまとめて伝えた。

また、10年10月から、上記5つの時間帯のニュースについてはインターネットでラジオの放送済み音声を配信する、ポッドキャストサービスもスタートさせた。

東日本大震災では、発生翌日の12日未明から、このポッドキャスト・サービスとともにインターネットでラジオ放送とほぼ同時に音声を配信するライブストリーミングも3月22日午後8時まで実施した。

10年7月11日の参議院議員選挙は、前年の歴史的な政権交代後、初の本格的な国政選挙ということで、ラジオ第1とFM放送で、長時間の開票速報を編成し、与党の過半数割れを迅速に伝えた。12日はサッカーW杯の決勝があり、FMは午前3時20分から分離してW杯決勝を伝え、開票速報はラジオ第1で朝5時まで伝えた。

一方、FM放送は、定時ニュースとして、朝・昼・夕・夜の4回、ラジオ第1のニュースを同時放送した。

## 2. 報道室

NHKの全国取材網には各地の放送局のほかに報道室がある。事件・事故・災害、選挙報道はもちろん、地域の暮らしに密着した取材の最前線として活動している。

### (北海道)

11年3月11日の東日本大震災では、北海道の太平洋沿岸に大津波警報が発表され、太平洋に面した地域を受け持つ根室、浦河、苫小牧の各報道室は、発生当初、押し寄せる津波の様子などを道内の各放送局と協力しながら伝え続けた。その後も大津波による漁業被害や高齢者が多い沿岸集落の避難などの課題を継続して伝えている。

11年4月実施の夕張市長選挙は、全国でただひとつの財政再生団体・夕張市の財政再建を担うリーダーを選ぶ選挙として全国から注目され、元東京都職員や衆議院議員らが立候補した。札幌局・岩見沢報道室は、それぞれの立候補表明を含めて丹念に取材を重ね、期待する市民の様子を伝えた。

10年10月には北海道大学の鈴木章名誉教授がノーベル化学賞を受賞。鈴木さんの出身地むかわ町の人たちは、受賞理由の研究「クロスカップリング」をもじって、特産の豚肉と卵で「クロスカップリング丼」という新たな地元の名物を考案。室蘭局・苫小牧報道室は、ノーベル賞にあやかった

さまざまな動きを取材した。

釧路局・根室報道室は、10年11月のロシアのメドベージェフ大統領の四島訪問で注目された北方領土問題を集中して取材。元島民のインタビューを、北海道のNHKの北方領土プロジェクトで、後世に残す「証言シリーズ」として放送した。

世界自然遺産登録5年目となる知床を抱える北見局・網走報道室は、観光と自然保護の両立への取り組みを取材。増え続けるエゾシカの食害、増えるヒグマの出没などを伝えた。

#### 〔東北〕

11年2月1日、秋田県横手市で積雪が観測開始以来最多の1メートル92センチに。秋田局・横手報道室の記者は、市内の果樹の枝が雪の重みで折れるなど、大きな被害が出ている様子を丹念に取材し、全国に発信した。

11年3月11日に発生した東日本大震災の報道でも、東北地方各地の報道室の記者が、地域の動きを伝えた。

仙台局・石巻報道室の記者は、沿岸部で取材中に震災に遭遇。津波警報が解除されるまで、住民たちと避難生活をともにしながら取材を続け、そのときの様子を交えたりレポートを全国に放送した。

盛岡局・釜石報道室の記者は、大津波が市街地を襲う瞬間を避難先の高台で撮影。伝送設備が使えなくなった中、市内で動いていた数少ないタクシーを見つけてVTRを搬送。津波の恐ろしさを伝える迫真のレポート映像が全国に放送された。

山形局・米沢報道室の記者は、震災に伴い、福島県から米沢市に多くの住民が避難してきた様子をきめ細かくフォロー。自治体やボランティアの人たちの対応もあわせて取材し、大災害の影響の広がりや、後方支援の大切さを報道した。

#### 〔関東甲信越〕

10年4月、野生復帰を目指して新潟県佐渡市で自然に放された国の特別天然記念物のトキが産卵した可能性があるとして、NHKはいち早く全国放送で伝えた。新潟局・佐渡報道室の記者は、新潟放送局と連携して、トキの営巣から産卵にかけての動きを丹念に取材し、トキの産卵に向けた地元への期待とともに、迅速に報道した。

10年は日米安保改定50周年に当たり、アメリカ軍基地を抱える横浜局の横須賀報道室と厚木報道室の記者は、4月、アメリカ海軍横須賀基地への日本の思いやり予算の在り方や、キャンプ座間に駐留するアメリカ陸軍と陸上自衛隊の軍事協力活動の実態を取材し、『ニュースウォッチ9』の特

集シリーズで放送した。

10年5月、長野県下諏訪町の諏訪大社で行われていた御柱祭で、御柱が落下して参加者が死亡する事故が起きた。長野局・松本支局の取材クルーは、速やかに事故取材に対応し、随時、ローカル放送や中継放送の発信に努めた。

10年7月中旬、長野県南部の飯田市と天龍村で大雨による土砂崩れが発生、道路が寸断され、計2,200人余りが孤立状態になった。飯田報道室の記者は、いち早く現場に駆けつけ、孤立した現地の様子を映像取材し、速やかに放送につなげた。

10年9月、神奈川県西部の小田原市や山北町で起きた台風による大雨の取材では、急速な河川の水位上昇による浸水被害や、幹線道路沿いの土砂崩れで山間部の集落が孤立する被害が相次いだ。横浜放送局と小田原報道室、厚木報道室の記者は、河川敷に取り残された人たちの救出作業を特設番組で中継で伝えたほか、翌日にかけて各地で土砂崩れの現場を取材して、記者レポートなどで詳しく伝えた。

10年10月、成田空港の発着枠を年間30万回に増やすことに地元が合意した。千葉局・成田報道室は、「反対」から「共存」へと変化した地元の動きを継続的に取材した。

10年10月、東京・東村山市にある国立ハンセン病療養所「多磨全生園」に地域の子どもたちが通う保育所を誘致する計画について厚生労働省が承認する方針を固めた。首都圏放送センター・多摩報道室では、全国的にも先進的なこの計画をいち早くキャッチし全国に向けて発信するとともに、子どもを持つことができなかつた元患者に密着して保育園誘致を望む思いをレポートで伝えた。

11年1月27日、新潟県の山沿いを中心に積雪が3メートルを超えて、県が5年ぶりに豪雪対策本部を設け、知事が自衛隊に災害派遣を要請した。新潟局・長岡報道室記者は、全国放送で3メートル超の積雪をレポートで伝えた。

11年3月11日の東日本大震災で、宇都宮局・大田原報道室は、震度6強を観測した大田原市の市役所が被害を受け、業務ができなくなっている状況などを伝えた。また日光報道室は大震災の自粛ムードや原発事故の影響などで、恒例の祭りが相次いで中止となっている実情を伝えた。

#### 〔中部〕

ナトリウム漏れ事故以来、運転が停止していた福井県敦賀市の高速増殖炉「もんじゅ」は、10年5月6日、14年5か月ぶりに運転を再開した。嶺南報道室は、福井局と連携して運転再開の意義や

課題について、ニュースや番組で多角的に伝えた。

10年6月から高速道路無料化の社会実験が行われ、三重県内では県南部の紀勢自動車道の全線等が対象となった。この県南部の地域は、公共の交通機関が少ないため、高速無料化によって、地元住民の移動や、南部の観光地に向かう観光客の動向などに影響を及ぼすことが予想された。県南部を担当する津局・尾鷲報道室の記者は、県南部から中部の都市部に通勤や通院をしている住民への影響や、無料化を期待する南部の観光業者の取り組みなどをリポート等で伝えた。

金沢局・小松報道室の管内では地方経済の低迷を象徴する動きが相次いだ。10年6月、石川県内最大手の百貨店「大和」小松店が閉店。8月には白山市でキリン北陸工場が閉鎖された。小松市では10年3月末に大手建設機械メーカー・コマツの発祥地でもある工場が閉鎖されている。小松報道室の記者はこうした企業の撤退が地域経済に及ぼす影響や、地域再生に向けた取り組みを随時取材して放送した。

猛暑に見舞われた10年夏、岐阜県多治見市では、この年の国内最高となる39.4度を記録するなど35度を超える猛暑日を連日観測。

岐阜局・多治見報道室の記者は連日暑さの様子を取材して全国発信するとともに、暑さの原因を究明しようという研究者の動きなど「暑さ日本一のまち」の表情をきめ細かく伝えた。

10年10月、中部空港の発着便数が05年の開港以来最少となった。このため10年度の利用者は開港以来最低に。日本航空が国内線や国際線を廃止・運休したことなどが主な理由。県営名古屋空港でも日本航空が11年3月までに全路線を廃止した。国内便の維持に向けて、中部空港は小型ジェット機の着陸料を5分の1程度に引き下げた。

航空便の動向は経済活動にも影響するニュースだけに、名古屋局の中部空港・小牧空港両報道室の記者は空港・航空会社との関係者への密着取材を重ねている。

11年1月、愛知県豊橋市の養鶏場で死んだニワトリから強毒性の鳥インフルエンザウイルスが検出された。同じ養鶏場で飼育されていた約14万2,000羽のニワトリが処分された。2月には豊橋市の隣の新城市の養鶏場でも死んだニワトリから鳥インフルエンザウイルスが検出された。名古屋局・豊橋支局の記者は不安を煽らないことや衛生面に最大限配慮しながら、自治体等の動きを取材した。

11年1月末に福井県内で降った記録的大雪で

は、道路や鉄道が長時間にわたって寸断され、北陸自動車道では1,000台もの車が立ち往生した。

現場に居合わせた嶺南報道室の記者は、携行していたカメラで刻々と降り積もる雪の状況や、ドライバーのインタビュー、除雪作業などの取材を敢行し、独自映像として克明に伝えた。

11年2月22日、ニュージーランド南部で、マグニチュード6.3の地震が発生。クライストチャーチ市で語学学校の入っていたビルが倒壊し、研修に行っていた富山外国語専門学校の生徒など富山県関係者13人が死亡。高岡報道室の記者は専門学校の生徒を引率していた高岡市の講師の家族を取材。魚津報道室の記者は、安否が気づかわれるなか、上市町の生徒の知人やアルバイト先を取材。それぞれ全国ニュースで放送された。

11年3月15日夜、静岡県富士宮市で震度6強の揺れを観測する地震が発生（けが50人、建物被害521件）。富士報道室を取材拠点に、沼津報道室、静岡局からも記者・カメラマンが現地に入り、深夜の全中特設ニュースをはじめ、被害の全容を詳しく報道した。

#### 〔近畿〕

大阪局・関西空港報道室は11年2月、日本人が犠牲になったニュージーランド地震で、現地記者を派遣したほか、関西空港でも連日、遺族やけが人の取材にあたった。

赤字経営が続く、むだな箱もの行政の象徴として、9年度いっぱい閉館した京都府南部の関西文化学術研究の職業体験施設「私のごと館」。土地と建物の売却先を決める一般競争入札に向けた参加申し込みが10年度は2回行われたが、京都局・学研都市報道室は、いずれも申し込みが無かったことや国と地元自治体のやりとりなどの動きを継続的に丹念に取材し、きめ細かく伝えた。

10年4月、世界遺産にも登録されている兵庫県姫路市の国宝・姫路城の「平成の大修理」が本格化。しっくいや瓦などの傷みを5年がかりで修復するものだが、その間、まちのシンボルともなっている城の大天守が工事用の覆いで隠れてしまい、観光に大きく影響している。神戸局・姫路支局では、修理の様子や観光への影響をリポートも交えながら伝えた。

10年10月3日、京都府、兵庫県、鳥取県にかけての山陰海岸が、貴重な地質などがある「世界ジオパーク」に認定されることが決まった。神戸局・豊岡報道室では、認定に至るまでの地元のさまざまな働きかけの動きや思いを取材し続けた。

捕鯨文化を批判的に描いた映画「ザ・コーブ」

のアカデミー賞の受賞以来、和歌山県太地町には日本の捕鯨文化の象徴的な場所として世界的な注目が集まっており、10年9月、太地町でイルカ漁の生けすの網が切られる被害が出た。ヨーロッパを拠点とする反捕鯨団体がホームページで「網を切った」とする声明を発表。和歌山局・南紀新宮報道室の記者は、地元の漁業者との間に築き上げてきた信頼関係をもとに一報情報を得たうえで全国ニュースとして報じた。

11年1月、邪馬台国の候補地の一つ、奈良県桜井市の纏向遺跡<sup>まきむく</sup>で発掘を続けている地元の教育委員会が調査結果を発表。海から遠いこの遺跡から、たいやさばの骨などが出土した。纏向遺跡からは、3世紀前半では国内最大の建物跡や、古代の中国で神聖な果物とされた桃の種が、それまでの調査で出土していたため、統率者が行った祭りの供え物の一部ではないかとして注目された。邪馬台国畿内説、九州説の専門家の間で、出土物と卑弥呼との関係に対する見解は分かれた。奈良やまと路報道室では、全国のニュースでのレポートに加え、『NHKスペシャル』の制作にも携わった。

11年1月から大河ドラマ『江～姫たちの戦国』の放送が始まった。主人公の江が生まれたのは滋賀県長浜市にあった小谷城。ドラマで観光客を誘致しようと長浜市は江、茶々、初の浅井三姉妹の生涯を紹介する博覧会を開催。年間35万人の来場を目指していたが、半年で50万人を突破するほど人気を集めた。さらに戦国の姫ブームで地域を盛りあげようと「長浜歴ドラ隊」も結成された。浅井三姉妹を演じる女性隊員の本格的なパフォーマンスは好評で、観光客を呼び込む起爆剤にもなった。

大津局・彦根報道室は、こうした地元の動きを丹念に取材。放送を通じて江のふるさと長浜をPRして、地元貢献した。

#### 〔中国〕

比較的、自然災害の少ない中国地方だが、10年度は大きな災害に何度も襲われ、各報道室も対応に追われた。

10年7月12日から16日にかけては各地で豪雨災害が相次いだ。広島県では死者5人、けが人6人、住宅80棟余りが全半壊。鳥根県でも死者・不明者3人、けが人1人、山口県では住宅28棟が全半壊、1,400棟以上が床上・床下浸水するなど大きな被害が出た。中でも広島県庄原市の北西部では、7月16日夕方、10分間に44ミリという記録的な豪雨で川が氾濫し、狭い範囲で300か所以上もの土砂崩れが発生した。この災害では広島局・福山支局

の記者が直ちに庄原市に入り、約1週間にわたって現地での取材にあたった。

年末から1月下旬にかけ、山陰地方はたびたび大雪に見舞われ、被害が相次いだ。とりわけ、鳥取県西部では10年12月31日から翌日にかけて記録的な豪雪となった。まず、31日に江府町の奥大山スキー場で雪崩が発生して、パトロール中の男性4人が死亡。また、31日夜から元日にかけては、山陰地方の大動脈である国道9号線で、大山町から琴浦町にかけて約1,000台の車が立ち往生する深刻な事態となった。鳥取局・米子支局と倉吉報道室では、報道局や中国地方管内各局の応援も得ながら取材を進め、連日、詳しくニュースで伝えた。

09年10月、鳥根県浜田市の鳥根県立大学の女子大学生(19)が行方不明になり、広島県の山中で切断された遺体の一部が相次いで見つかった事件について、松江局・浜田報道室では、松江局や広島局と連携して捜査情報の取材を続け、事件から約1年となった10年10月26日、合同捜査本部が置かれている浜田警察署から、難航する捜査状況や事件の背景を中継レポートした。

江戸時代の景観が残る広島県福山市の「鞆の浦」の一部を埋め立てて橋を架ける計画について、09年秋、広島地裁が景観保護を理由に全国で初めて埋め立て中止を県に命じた問題は、この1年、広島県の県域ニュースを賑わせた。広島県の湯崎知事は、架橋計画の推進派と反対派の双方の住民が直接話し合うことで円満な解決方法を見出したいとして、双方の住民が参加する「住民協議会」を設置。10年5月から11年5月まで計12回の協議会が開かれたものの、生活環境の改善を目指す推進派と景観の保護を主張する反対派の溝はなかなか埋まらなかった。広島局・福山支局では、協議会の節目節目で議論の現状をまとめ、視聴者に分かりやすく伝えた。

山口県上関町で進められている原子力発電所の建設計画で、中国電力は11年2月21日、反対派の抗議活動によって中断していた工事を1年3か月ぶりに再開した。激しい抗議の中で再開された工事の様子を、山口局の岩国報道室と周南報道室の記者が陸と海上の両側から取材した。3月15日、東日本大震災による福島第一原子力発電所の事故を受け、中国電力は工事を一時中断すると発表。岩国報道室では、さまざまな反応を見せる地元自治体や原発反対の住民グループの動きを取材し「原発計画」に揺れる地域の状況を伝えた。

妖怪のブロンズ像が立ち並ぶ鳥取県境港市の

「水木しげるロード」の観光客は、『連続テレビ小説～ゲゲゲの女房』の放送の効果などから、10年の1年間に、過去最高の370万人余りを記録した。

鳥取局・米子支局では、ドラマをきっかけにしたさまざまな地域おこしの取り組みをきめ細かく全国発信した。一方、「ゲゲゲの女房」に続く『連続テレビ小説～てっぺん』の放送の効果で、舞台となった広島県尾道市でも観光客が増加。尾道報道室では、ドラマ放送を受けての地元の取り組みなどを取材し、レポート等で伝えた。

#### 〔四国〕

10年7月5日、徳島県牟岐町で、大阪に向かっていた長距離バスがトラックと衝突し、乗客1人が死亡、6人がけがをする事故が発生した。徳島局・阿南報道室の記者は、いち早く現場に到着して映像取材するとともに、目撃者のインタビューも行い、事故の詳細を伝えた。

10年8月5日、香川県多度津町沖の瀬戸内海で、海上保安庁のヘリコプターが送電線に接触して墜落し、乗員5人が死亡する事故が発生した。高松局・丸亀報道室の記者は、事故直後に現場近くの島に渡り、目撃者の証言取材にあたるなどして事故の状況やその後の経過を全国に伝えた。

11年2月10日、愛媛県宇和島市の県立宇和島水産高校の実習船が、ハワイ沖でアメリカ海軍の潜水艦に衝突され、9人が犠牲になった事故から10年を迎えた。宇和島水産高校や、ハワイの慰霊碑がある公園で慰霊式が開かれ、遺族らが慰霊碑に花を捧げたり、黙とうをしたりした。松山局・宇和島報道室は、高校や遺族の取材にあたり、10年の節目を松山局の記者とともにシリーズ企画で伝えた。

11年2月25日、全国一のタオルの生産量を誇る今治市のタオルメーカーなどで作る組合が、中国で「今治タオル」というブランドを商標登録しようとしたところ、組合よりも先に、中国の企業が「今治」という漢字2文字を商標登録のため出願していることが分かり、中国当局に異議を申し立てた。

中国で、日本の地名や自治体の漢字が商標登録されるケースが相次ぐ中、松山局・今治報道室は、いち早くこの情報をつかみ、地場産業への影響をきめ細かく取材し、継続的に放送した。

#### 〔九州・沖縄〕

鹿児島県阿久根市では10年、竹原信一市長（当時）が独自の行財政改革を掲げ、議会を招集せずに職員給与や議員報酬の削減などを次々に専決処

分。これを独善的だと批判する市議会多数派との間で対立が激化し、市政の混乱が続いた。12月5日、市長の解職の是非を問う住民投票が行われ、約400票差で失職。11年1月16日、竹原氏とリコール運動を率いた団体の西平良将氏が立候補して市長選挙が行われ、西平氏が当選した。

一方、市議会に対するリコール運動も行われ、2月20日の住民投票で議会は解散。市民は竹原氏と竹原氏に批判的な議員が多数を占める市議会の双方に「ノー」を突きつけた。鹿児島局・薩摩川内報道室は、対立する双方の動きを丹念に追って取材して伝えるとともに、対立の背景にある地方経済の疲弊や地方自治の課題にも踏み込んで分かりやすく伝えた。

10年10月20日、奄美大島を記録的な大雨が襲った。奄美市住用町では1時間に131ミリという雨量を観測。川の氾濫や土砂災害が各地で発生し、住用町の高齢者福祉施設で2人が死亡したほか、龍郷町では土砂崩れで1人が死亡した。固定電話は一時、1万2,000回線余りが不通。道路も39か所で全面通行止めになり、孤立する地区も相次いだ。住宅への被害も1,300棟以上に上り、一時、2,800人余りが避難した。道路や通信の寸断で救助活動は困難なものとなり、衛星電話などハードウェアの整備や防災情報の伝達方法などが課題となった。鹿児島局・奄美報道室は、最も被害の大きかった住用町の中心部の様子をいち早く現地からのレポートで伝えたのをはじめ、きめ細かい生活情報を含む災害報道を続けた。

09年の政権交代で混迷を深めた沖縄のアメリカ軍普天間基地の移設問題。“基地の島”沖縄にとつての10年度は、移設問題だけにとどまらず、在日米軍基地の在り方そのものを全国に訴えかけ続けた1年となった。移設問題を巡っては、4月の県外・国外移設を求める県民大会に始まり、9月の名護市議会議員選挙や11月の県知事選挙を経る中で、県外移設を要求する明確な意思が示されるようになっていった。一方で、民主党政権は当初、自民党政権時代の名護市辺野古への移設案を見直すことを掲げていたが、方針を一転させて県内移設を決定。沖縄はその方針を受け入れず、議論は平行線をたどり続けた。名護市を担当する沖縄報道室では、移設問題取材の最前線として、政府の方針に明確にノーを突きつけた名護市や住民の取材に奔走し、10年以上も続いてきた移設問題の転換点を、現場から発信し続けた。

宮崎局・都城報道室は、全国有数の畜産地帯を抱え、10年4月から宮崎県を襲った口蹄疫取材

で重要な拠点となった。感染の飛び火に緊張が高まったが、県境にある都城市・えびの市はいずれも封じ込めに成功した。迅速な対応が功を奏した経過や、畜産業以外にも広がるさまざまな影響について全国に発信した。

11年1月、霧島連山の新燃岳は300年ぶりと言われる本格的な噴火活動に入った。都城報道室に必要な人員と機材を投入して前線機能を強化し、深夜の住民避難や火山灰の被害、防災上の注意点など多角的に取材を続けた。

10年8月1日午後2時1分ごろ、熊本県北部の山鹿市の郊外の畑に小型ヘリコプターが墜落。乗っていた2人が即死する事故が起きた。熊本県北報道室の記者は、発生からわずか15分後に現場に到着。壊れた機体の映像や目撃者インタビューなどをすばやく取材し、午後3時の全国ニュースで放送した。

### 3. 海外総支局

11年3月31日現在、4総局と25支局に計78人の特派員を配置している。

各総局のカバー地域は、アジア総局がアジア・オセアニア、中国総局が中国全域・モンゴル、ヨーロッパ総局が欧州・中東・アフリカ、そしてアメリカ総局が南北アメリカ大陸となっている。

アジア総局管内では、10年4月から5月にかけてタイで続いた大規模な反政府デモ隊と治安部隊との衝突や、11年2月にニュージーランドで日本人28人を含む181人が犠牲となった地震などの最新情勢を、連日、現地から伝え続けた。また北朝鮮については、キム・ジョンイル総書記の後継体制の決定や、10年11月に起きた韓国領土のヨンピョン島への砲撃などの動きを迅速に伝えるとともに、朝鮮半島情勢に与える影響について、独自の情報や映像を交え、掘り下げて伝えた。

中国総局管内では、5月から開催された上海万博に合わせ、大規模な現地オペレーションを展開。発展を続ける上海の光と影を多角的に伝えた。また9月、尖閣諸島沖で中国漁船が日本の巡視船に衝突した事故をきっかけに、緊迫した日中関係を、双方へのきめ細かい情報取材に基づき報道した。

ヨーロッパ総局管内では、11年1月以降、チュニジア、そしてエジプトから始まった民主化要求デモの波が中東全域を揺るがした。NHKでは、デモを主導した若者たちへの直接取材も含め、これまでの継続取材の成果を生かし、最新情勢や背景分析を、連日、企画や番組として放送した。またヨーロッパで続く財政危機、さらに福島第一原

発の事故をきっかけとした原発の是非を巡る議論を、丁寧に伝えた。

アメリカ総局管内では、10年11月の米中間選挙でオバマ大統領率いる与党民主党が歴史的な大敗。背景にある有権者の雇用不安などについて、全米各地からレポートした。また10年8月のチリの鉱山事故で地下に作業員33人が閉じ込められたニュースは、外国メディアとしていち早く現地入りして以来、70日後の「奇跡の全員救出」まで、分厚い報道を続けた。

このほか、海外総支局では、国際放送の拡充に合わせて英語によるレポートにも力を入れ、NHKの海外発信力の強化に大きく貢献している。

このように、NHKは、充実した海外ネットワークを生かし、グローバル化が進む世界の最新情勢やその分析、日本の再生に参考となるような海外の事例などを、正確、かつ迅速に視聴者に伝えるべく、日々、努めている。

#### NHKの海外総支局（11年3月31日現在）

■アジア総局（バンコク）：マニラ、ジャカルタ、ハノイ、クアラルンプール、ニューデリー、イスラマバード、シンガポール、シドニー、ソウル

■中国総局（北京）：上海、広州、台北

■ヨーロッパ総局（パリ）：ロンドン、ブリュッセル、ベルリン、ウィーン、カイロ、ドバイ、エルサレム、テヘラン、モスクワ、ウラジオストク

■アメリカ総局（ニューヨーク）：ワシントン、ロサンゼルス、サンパウロ

以上の計29総支局に、記者、制作記者、ディレクター、カメラマン、アナウンサー、技術、経理、あわせて78人の特派員を配置。このほか、サハリンの事務所にも出張ベースで記者やカメラマンを常駐させている。

## VI. 気象情報

10年度は、気象庁などから配信される大量の気象データをすばやく処理し、分かりやすく伝えていくことが一層求められた1年だった。10年5月末、気象庁は「市町村」を単位にした気象警報・注意報の発表を開始。これにより情報量は格段に増加したが、NHKでは、防災・減災の観点から、迅速かつ効果的に伝えられるようシステムを整備し、「市町村」警報に対応する運用を始めた。

また、大量の情報を、分かりやすく伝えるうえで気象予報士の資格をもった気象キャスターが果たす役割も大きくなった。10年度の総合テレビの

気象情報は、平日で1日に33回、放送時間は、合わせて1時間20分に及んだ。土・日を含め、合わせて11人の気象キャスターが気象情報の解説を担当。台風や局地的な大雨をはじめ、記録的猛暑に伴う熱中症などに対して、具体的な事例を示しながら注意・警戒を呼びかけた。

## 1. 「市町村」警報への対応

大雨や洪水などに警戒や注意を呼びかける気象警報・注意報について、気象庁は、10年5月27日より、市町村単位で発表するようになった。それまでは、いくつかの市町村をまとめた地域ごとに発表していたが、近年増える傾向にある局地的な大雨やいわゆるゲリラ豪雨に対して効果的に警戒を呼びかけるとともに、市町村が住民に対して迅速に避難を呼びかけられるようするための変更である。これにより、発表の対象となる地域数は、375から1,777（10年5月末時点）へと大幅に増加した。

気象警報が発表された場合、NHKでは、基本的に地域の放送局が速報しているが、市町村の数は、都道府県で大きな差があり、地域の実情は異なる。また、テレビ、ラジオなど伝えるメディアの特性もそれぞれ異なる。大量に配信される情報を迅速に、かつ、地域の実情にあわせて伝えられるようにシステムを整備した。総合テレビの速報は、原則として市町村を単位に伝えることとし、画面を縮小し、空いたスペースに警報が出た市町村名を字幕で伝えることもできるようにした。

また、発表されている気象警報・注意報をまとめて伝える際には、地図をもとに警報が出た市町村を塗りつぶして表示する新たな画面を作成した。

さらに、多くの地域に警報が発表されている場合は、気象庁が提示している「市町村等をまとめた地域」の名称を使用するなどし、状況に応じて伝え方を工夫するようにした。

一方、土砂災害が発生する危険が高まったときに出される「土砂災害警戒情報」や、数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測したり、解析したりした場合に発表される「記録的短時間大雨情報」についても、気象警報と同様の画面で速報できるようにし、防災情報を迅速に伝える手段を強化した。

## 2. 東日本大震災の被災地の天気への対応

11年3月11日に発生した東日本大震災。東北地方では、まだ、朝の最低気温が氷点下にもなる時

期であり、避難した人たちにとって厳しい気象条件が予想された。また、地震で地盤が弱まっている地域も多く、被災地では、雨による土砂災害も心配される。こうしたことから、東北地方から関東地方の太平洋側沿岸の地域を中心に各地の天気や気温の予報を詳しく表示した画面や、週間天気や気象情報の画面を新たに作成し、気象情報の中で伝えるようにした。

また、3時間毎の天気や気温、風の予報を示した被災地のポイント予報などの画面を活用しながら、気象予報士が、気象状況から読み取れる注意点や警戒点、生活情報をきめ細かく解説した。

## 3. アメダスデータの活用

全国に約1,300の観測所があるアメダスと呼ばれる気象観測システムのデータを、より詳しく発信できるように10年7月にシステムを整備した。これにより、アメダスデータを基にした湿度や最大瞬間風速、最高・最低気温を自動作画できるようになった。また、降水量についても、0.5ミリ単位で表示することが可能になった。

これにあわせて、各放送局などに配備されている天気カメラにアメダスのデータを重ねて表示する画面も改修。湿度を表示したり、降水量を0.5ミリ単位で示したりできるようにして、きめ細かい情報の発信に努め、気象情報の充実を図った。

## Ⅶ. スポーツ

### 1. サッカーW杯

アフリカ大陸ではじめてのW杯、南アフリカ大会は、民族楽器「ブゼラ」の音とともに開幕、日本代表チームの奮闘ぶりはこれまでにない印象を与えた。

1次リーグの最初のカメルーン戦。国歌斉唱が始まると、ピッチの11人の選手たちは肩を組んだ。それだけではなく、ベンチのチームスタッフ、控えの選手たちも一斉に肩を組んだ。その光景は、チームが一体となって戦うという決意を表していた。そして、前半39分、先制ゴールをあげた本田圭佑選手は、まっすぐベンチに向かった。控えの選手たちと喜びを分かち合うためだった。まさに「一丸」という言葉にふさわしいチームの姿がそこにあった。日本代表は、カメルーンに1対0で勝利したのに続いて、強豪国・オランダに0対1と善戦。第3戦でデンマークに3対1で勝って、国外のW杯で史上初の1次リーグ突破を果たした。決勝トーナメント1回戦のパラグアイ戦は、

0対0のまま延長でも決着はつかず、ペナルティーキック戦で敗れたが、チームが心をひとつにして戦う姿は、最後まで変わらなかった。大会直前の強化試合では3戦全敗、直前まで、試行錯誤を続けた岡田武史監督と選手たちは、大会本番の土壇場で、「チームワーク」という答えと「ベスト16」という結果を引き出し、感動を巻き起こした。

出場チームの中では、前年の年間最優秀選手、アルゼンチンのメッシ選手が、華麗なテクニックで世界をわかせたマラドーナ元選手の再来と言われ注目を集めた。そのマラドーナ監督が指揮をとるチームの一員としてメッシ選手は大会に出場したが、ゴールをあげられないまま、チームは準々決勝で敗退した。

決勝は、どちらも初優勝を目指したスペインとオランダが対戦。この勝敗を予想したのが、ドイツの水族館のタコ「パオル」だった。エサの入った水中の2つのケースのうち、どちらを選ぶかで勝敗を予想。ドイツの1次リーグと決勝トーナメントの6試合すべてを的中させたパオルは、配信映像を通じて世界に、スペインが優勝と予言した。はたして試合はスペインが延長戦を制し1対0で勝利した。

W杯南アフリカ大会のあと、日本選手の欧州移籍が相次いだ。なかでもイタリア1部チェゼーナに移籍した長友佑都選手は、その後、世界的な強豪インテルに引き抜かれ、レギュラー定着を果たした。また、ドイツ1部ドルトムントに移籍した香川真司選手は、前半戦で8ゴールをあげリーグ優勝に貢献した。一方で清水エスパルスからドイツ1部シュツットガルトへ移籍した岡崎慎司選手のケースでは、エスパルス側が「事前通告がなく手続きがFIFA・国際サッカー連盟の規定に反している」と移籍を認めなかったため、プレーに必要な移籍証明書が発行されず、FIFAが暫定的に試合への出場を認めるという事態も起きた。

18年と22年のW杯招致を巡って、FIFAの現職理事2人が、イギリスの新聞のおとり取材に対し、特定の国に投票する見返りに多額の現金を要求したとして、スキャンダルに発展。FIFAはこの2人を1年から3年の資格停止などの処分にした。FIFAは、18年大会をロシアで、22年大会をカタールで開くことを決め、日本は22年大会の招致に失敗した。

## 2. Jリーグ

折り返しの第18節でトップにたった名古屋グランパスは、ストイコビッチ監督の下、田中マルク

ス闘莉王選手やFWケネディ選手、橋崎正剛選手などの奮闘で、以後、一度も首位の座を譲ることはなかった。3試合を残して優勝を決め、93年にJ創設とともに参戦して以来の初優勝を果たした。そうした中で、経営危機に陥ったチームもあった。東京ヴェルディに対しては、Jリーグは新たな経営者を送り込むなど、リーグ主導での再建を図り、その後、複数の新たな出資者と新経営陣によってクラブは再スタートを切った。また、Jリーグの基金の融資を受けた大分トリニータは、引き続き経営再建を目指している。

## 3. プロ野球

パ・リーグは3月20日、セ・リーグは26日に開幕、レギュラーシーズンは大混戦となった。

パ・リーグは、全チームが残り10試合をきった時点で5チームに優勝の可能性が残る史上まれにみる混戦で、ソフトバンクが残り6試合で3.5ゲーム差を逆転し、7年ぶり14回目の優勝を決めた。

セ・リーグは、中日が前半戦に出遅れ、7月上旬には首位に8ゲームの差をつけられたが、その後、プロ野球新記録の5試合連続完封勝利などで追い上げ、阪神、巨人に競り勝った。4年ぶり8回目の優勝で、優勝決定は10月1日だった。

そして、クライマックスシリーズからの主役は、パ・リーグ3位のロッテだった。西武、ソフトバンクを破って、史上初めて3位から日本シリーズに出場。日本一を争う中日との戦いでは、ロッテが先行し中日が並ぶという展開が続き、第6戦は、延長15回、シリーズ史上最長の5時間43分で引き分けるなど熱戦が続いた。第7戦も延長12回までもつれたが、最後はロッテが死闘を制し、5年ぶりの日本一に輝いた。

ドラフト会議も、大学生投手に人材が豊富で、例年以上に注目を集めた。特に、夏の甲子園の優勝投手、早稲田の斎藤佑樹投手は、早くから複数球団が1位指名を公言、最終的に4球団が競合し、日本ハムが獲得した。最も多い6球団が指名した早稲田の大石達也投手は西武が獲得した。

また、1位指名を巡っては、オリックスが3回目の入札も抽選で外れ、史上初めて4回の入札を行う一幕もあった。

斎藤投手の人気は、日本ハム入団後も続き、千葉県鎌ヶ谷市での自主トレーニングに一日で3,000人が詰め掛けるなど、いわゆる「佑ちゃんフィーバー」は、キャンプ、オープン戦でも続いた。

その一方で、3月11日に発生した東日本大震災

は、プロ野球を取り巻く環境も一変させた。

楽天は、仙台の本拠地球場が破損、オープン戦の中止や見直しが相次いだ。さらに開幕時期を巡り、パ・リーグは早々に延期を決めたが、セ・リーグが、予定通り3月25日の開幕を主張したため、計画停電区域での試合を行わないよう文部科学省などが要請する事態となった。結局、セ・リーグは、被災者に配慮し延期を求めた選手会や世論に押される形で日程の見直しを迫られ、4月12日のセ・パ同時開幕に落ち着いた。

#### 4. 大リーグ

主役は移籍10年目を迎えたイチロー選手だった。移籍1年目の01年に242本のヒットを打って以来、毎年、200本を超えるヒットをマークし、09年には9年連続の200本安打を達成して、大リーグ記録を108年ぶりに塗り替えた。10年のシーズン、イチロー選手は開幕から6月までの77試合で105本と順調にヒットを重ねた。7月、打率が2割4分台に落ち込んで、記録更新を危ぶむ声も聞かれたが、8月になると調子を取り戻した。現地9月23日のブルージェイズ戦で2本のヒットを打ち、10年連続200本安打を達成した。152試合目での200本安打到達は、この10年間で2番目に遅いペースだった。イチロー選手と対照的なシーズンを送ったのが8年目を迎えた松井秀喜選手。 Yankeesでは、ワールドシリーズで最優秀選手に輝き、エンジェルスと1年契約を結んだものの、春から夏にかけて、極度の不振に陥り、先発を外れることも少なくなかった。次の移籍先、アスレティックスも1年契約、36歳の松井選手にとっては選手生活を左右しかねない大事なシーズンとなる。レッドソックスの松坂大輔投手は6月に日米通算150勝を達成したが、好不調の波が激しく、2年連続で1ケタ勝利に終わった。ドジャースの35歳、黒田博樹投手は大リーグ移籍以来、自己最多の11勝を上げ、契約を更新するなど奮闘が光った。大リーグで日米通算2,000本安打を達成した松井稼頭央選手と、3球団でプレーした岩村明憲選手の2人は11年のシーズンから、星野新監督率いる楽天でプレーすることになった。

#### 5. 大相撲

大相撲は不祥事の連鎖が止まらず、存亡の危機を迎える事態となった。

5月、名古屋場所の土俵近くの特別席で、暴力団関係者多数が観戦をしていたことが発覚。入場券の手配には親方たちが関与していたことが明らか

かになった。反社会的勢力と角界のつながりは強い非難を浴び、相撲協会は関与した親方の相撲部屋を閉鎖するという措置をとった。

6月には野球賭博問題が浮上、相撲協会の調査に対して現役の大関・琴光喜が関与を認めた。背後に暴力団の存在が疑われ、改めて反社会的勢力と角界のつながりが問われるとともに、関与した力士や親方は約30人に上るという事態に至った。相撲協会は、なかでも悪質性が高いとして、琴光喜や大嶽親方を解雇するとともに、名古屋場所は関与した力士多数が休場するという異例の状態で開催された。場所の間も、不動産を巡って別の親方と暴力団関係者との取引が明らかになるなど新たな不祥事が判明した。名古屋場所の後には、相撲協会はこの親方を処分するとともに武蔵川理事長が辞任。後任の放駒理事長がクリーンさを全面に打ち出して暴力団排除宣言をするなど、角界の不祥事は区切りを迎えたかに見えた。

しかし、2月、大相撲史上最大の汚点とも言える八百長問題が明らかになり、相撲協会は屋台骨が大きく揺らぐ事態となった。野球賭博における警視庁の捜査の過程で押収された力士たちの携帯電話のメールから、八百長の存在を示すやりとりが確認された。メールは、取組の流れの打ち合わせから、星の貸し借りの様子、また星が返せない場合には、現金の授受が行われていたことを伺わせる生々しいものだった。メールで名前があがった力士や親方は13人にのぼり、中には八百長の仲介役、いわゆる「中盆」が存在していることも疑われた。相撲協会は緊急の理事会を開催、ただちに実態調査を開始することを決めるとともに、外部の有識者でつくる特別調査委員会が発足した。

名前があがった力士たちを中心とした聞き取り調査が進む中で、3人が八百長への関与を認め、角界全体での広がり大きな焦点となった。十両以上の全関取や1,000人近くいる相撲協会会員全員へのアンケート調査も行われるようになった。

調査の長期化が避けられない中、相撲協会は3月に大阪で開催を予定していた春場所の中止を決めた。これまで本場所が中止されたのは、会場の改修のために開催できなかった昭和21年以来65年ぶりで、今回は不祥事による開催中止という異常な状況に追い込まれた。

#### 6. ゴルフ

10年のシーズン、プロ3年目を迎えた石川遼選手は得意のドライバーショットに、アイアンの精度が加わった。それを象徴したのが5月2日、初

勝利をあげた愛知の大会の最終日。18位からスタートした石川選手は12のバーディーを奪い、「58」をマーク、18ホールの最少スコアとして、ギネス世界記録に認定された。石川選手は、前年、賞金王を争った池田勇太選手と2年連続で賞金王争いに加わった。最後は、正確なアイアンショットが光った韓国のキム・キョンテ選手がシーズン最終戦で賞金500万円を上積みし、賞金王になった。外国選手の賞金王は、1987年のアメリカのデービッド・イシイ選手以来、2人目。石川選手や池田選手、キム選手など、若手の台頭が目立ったが、賞金ランキングで2位になった41歳の藤田寛之選手の堅実なゴルフも光った。シーズン2勝を支えたのは絶対の自信を持っているアプローチショット。プロ20年目で初めて、世界最高峰の「マスターズ トーナメント」の出場権を獲得、同世代の期待の星と注目された。

キム・キョンテ選手が賞金王を獲得する一方、女子もアン・ソングジュ選手が賞金女王になるなど、韓国勢の躍進が目立った。合わせて34大会のうち、外国選手が17勝をあげ、中でも韓国勢は15勝と圧倒的な強さを発揮した。

日本勢で言えば、アメリカツアー5年目となった宮里藍選手が開幕戦から2連勝し、世界ランキングで日本の男女を通じて、初めて1位になり、日本選手として最多の5勝をあげたことが、次のシーズンにつながる明るい材料となった。

## 7. 広州アジア大会とロンドンオリンピック

中国・広州で11月、アジア大会が開催された。大会は、08年の北京オリンピック、09年の上海万博とともに、中国が力を入れてきた3大国際イベントの1つとしての開催だった。中国での開催は、1990年の北京大会以来2回目で、42競技476種目が実施され、過去最多となった。

日本は、およそ750人と、1994年の広島大会を超えて過去最多の選手団を送り込んだ。多くの競技団体は12年のロンドンオリンピックを見据えて、強化の現状や課題を確認する重要な大会と位置づけて選手を派遣した。

大会前の日本の目標は「金メダル60個以上、金メダル獲得数で韓国を上回ること」だったが、結果は金48個、銀74個、銅94個で金メダル獲得数は中国、韓国に次ぐ3位と目標には遠く及ばなかった。

日本は競泳、体操といったこれまで多くの金メダルを獲得してきた競技で思ったほどの成績を残

せなかった。特に競泳では日中の金メダル獲得数は前回大会では16個ずつだったが、今大会は中国の24個に対し、日本は9個と大きく水をあけられた。地元の大会ということ差し引いても、若手選手が自己記録を更新して金メダルを獲得した中国と、ほとんどの選手がシーズンのベストタイムを下回った日本との差は歴然で、大会に向けたピークの合わせ方にも課題が残った。

その一方で、サッカーが男女とも初めて金メダルを獲得したほか、バレーボール男子も16年ぶりに金メダルを獲得し、団体競技に復活の兆しが見えたことは数少ない明るい材料だった。

ロンドンオリンピックに向けた戦いはすでに始まっている。アジア大会に先立つ8月にドイツで開かれた射撃の世界選手権で優勝した松田知幸選手と森ゆかり選手が、日本勢として最初のロンドンオリンピックへの出場を決めた。

前回の北京大会で金メダル9個だった日本は、ロンドン大会では15個以上の金メダル獲得を目標にしている。目標達成に向けては競泳の北島康介選手やレスリング女子の吉田沙保里選手など前々回のアテネ大会からの金メダリストや体操の世界選手権個人総合で2連覇中の内村航平選手などに大きな期待が寄せられる。その一方で、北京大会からソフトボールと野球が抜けたチーム競技の躍進や若い世代の奮起が欠かせない。

## 番組制作の委託

### 1. 関連団体等への番組制作委託

NHKは、質の高い放送番組の安定的確保を図るとともに、外部の専門的能力を効果的に活用することで、番組の一層の多様化を推進する視点から、関連団体へ番組制作委託を行っている。

10年度も、NHKエンタープライズ、NHKエデュケーショナル、NHKグローバルメディアサービスに、大型企画をはじめ各分野の番組制作を委託、総合ビジョンにアニメ番組制作業務を、NHKサービスセンターに広報番組の制作を委託、NHKプラネットに全国および地方番組を、日本国際放送に国際番組の制作業務を委託した。

また、NHKでは、多様な番組を送り続けるために、関連団体を通じて番組制作会社への放送番組制作委託も行っており、外部のさまざまな制作パワーを効率的に活用している。

#### 10年度の主な番組制作会社への制作委託

##### ○地上波

総合では、『タイムスクープハンター』『クイズでGo!ローカル線の旅』、教育では『ETV特集』などを制作・放送した。

##### ○衛星波

BS1では、『BS世界のドキュメンタリー』、BSHiでは、『ハイビジョン特集』『プレミアム8』などを制作・放送した。

### 2. 外部プロダクションへの直接委託（外部制作委託・本体）

外部制作プロダクションが、関連団体を經由することなく、直接編成部門に提案する窓口として、06年6月に編成局内にソフト開発センターが設立された。特集番組や新番組の提案について、NHK、NHKの関連団体、それに番組制作プロダクションの3者が、番組の企画提案や制作・演出手法を競い合うことで、より高品質、効率的、多様な放送番組を創造することを目的としている。

10年度は、「企画競争」として1年間で25回の募集を行った。参加した制作会社は延べ852社、寄せられた企画はNHK、NHK関連団体、制作会社合わせて1,947企画に上っている。10年度は『あなたが主演 50ボイス』（総合：日、23:00）、『ドラマ10』『八日目の蟬』『離婚同居』（総合：火、22:00）、『総合診療医ドクターG』（HV：月、

21:30）などを外部プロダクション制作の定時番組として放送した。また、開発番組として放送したの中から、『恋する日本語』（総合）が新たに10年度の定時番組として採択され、8本シリーズで放送した。

外部プロダクションとの委託契約などにあたっては、下請法に準拠した手続きをとっている。また、「番組制作委託取引に関する自主基準」に基づき、公共性・透明性を高めるとともに、「新放送ガイドライン」を周知し、公共放送としての質の確保に努めている。

## 情報番組

### I. 経済・社会情報番組

経済・社会情報番組部は、10年度も、時代と人に向き合う番組を放送し続けてきた。

10年度は『クローズアップ現代』『Bizスポ』『Bizスポワイド』『プロフェッショナル 仕事の流儀』『ドラクワ』（以上、他部局との共管番組含む）の5番組を定時番組として担当した。

また『NHKスペシャル』『追跡! AtoZ』『ハイビジョン特集』をはじめとする特集番組も多数制作した。

#### （1）定時番組

『クローズアップ現代』は、「いま”を切り取り“時代”を見つめる”を基本方針として18年目を迎えた。全国各地の山林が外国の投資マネーによって買収され森林の乱伐や水源の枯渇につながっている実態、検証体制の不備などから最新のワクチンや先端医療機器が使えない医療現場など、国内外で日本が直面する課題を迅速・的確に伝えてきた。特に11年3月の東日本大震災では発生直後から被災地に入り、壊滅的な打撃を受けた企業、地域の人々が肩を寄せ合う避難所など、被災地の状況を伝えるとともに、困難な状況の中で被災者が力を合わせて復興へ向けて動き始めている姿を描き、大きな反響を呼んだ。

また、スマートフォンや電子書籍、ツイッター、インターネット放送など新しいメディアの台頭、不要なモノを捨てることで快適な生活を手に入れる“断捨離”という生き方、日本経済の閉塞感を打ち破るカギとして注目される働く女性たちの活躍＝“ウーマノミクス”（女性経済）など、新しいライフスタイルの兆しを掘り起こした。さらに、日本中を勇気づけた小惑星探査機「はやぶさ」の帰還、発行部数累計が2億部を突破した漫画

「ワンピース」の魅力など注目の話題も取り上げた。

『プロフェッショナル 仕事の流儀』は、あらゆる分野で活躍する一流の“プロ”の仕事を徹底的に掘り下げるドキュメンタリー番組である。10年度は呼吸器外科医、交通鑑識、絵画修復家、プロボクサー、院内学級教師、中華料理人など、さまざまなプロフェッショナルを通して、“仕事”の奥深さと、働くことの醍醐味を伝えてきた。

『Bizスポ』『Bizスポワイド』は、自由貿易協定（FTA）をめぐる各国の動きや、電気自動車やソーシャルゲームなど新しいビジネスの展望、職場の最新うつ病対策や、仕事をしない正社員“フリーライダー”の実態など、働き盛り世代が特に知りたい情報をシャープに伝えた。

『ドラクワ』は、仕事、結婚、子育てなど悩みが尽きない女性たちの応援番組として、実際にあった“ドラマチックな苦労話”や、今すぐ始められる「幸せテクニク」「人生の応援歌」など、感動秘話や元気になるためのヒントを伝えた。

## （2）特集番組

経済・社会情報番組部では、ジャーナリスティックな切り口で、多彩な特集番組を制作してきた。

10年度は『NHKスペシャル』2本、『追跡！AtoZ』6本、『ワンダー×ワンダー』2本のほか『ハイビジョン特集』『ヒューマンドキュメンタリー』なども制作した。『NHKスペシャル』の「貧者の兵器とロボット兵器～自爆将軍ハッカーの戦争」では、米軍とタリバンとの戦闘が続くアフガニスタンで、ハイテク無人機など“ロボット兵器”を駆使する大国と、手製爆弾など“貧者の兵器”に頼る武装集団という全く新しい戦争の姿が現れている実態を、NHKが入手した膨大な映像記録を通して伝えた。

『追跡！AtoZ』の「日本の“頭脳”はどこへ行く」では日本のメーカーに勤めていた技術者が中国の企業にヘッドハントされ、製品開発のノウハウが流出している実態を描いた。

定時番組からの特集展開としては、『追跡！AtoZ』で、小惑星探査機「はやぶさ」帰還までの軌跡を描いた「はやぶさ“快挙”はなぜ実現したか」、日本の森林が中国をはじめとする外国の投資家などによって買収されている実態を伝えた「日本の森林を狙う中国マネー」（いずれも『クローズアップ現代』からの展開）などを放送した。

## II. 生活・食料番組

生活・食料番組部は、現代社会のさまざまなテーマを「生活者の視点」から見つめ、視聴者の関心や疑問に答える情報番組やドキュメンタリーを制作している。

### （1）定時番組

10年度は、月～金曜朝の新番組番組『あさイチ』、月～木曜昼の『生中継 ふるさと一番！』、日曜朝の『産地発！たべもの一直線』の3番組を定時番組として放送した。

新番組『あさイチ』は、テレビを見てくださる方々が“一番欲しい”情報が詰まった、“市場”のような活気ある番組にしたいという思いでスタートした新しい大型情報番組。

主なターゲットは家庭を守る主婦。長引く不況やセーフティネットの綻びによるかつて無い不安な時代を賢く生きていくための「信頼できる情報」を『あさイチ』は全力を挙げて、いち早くご家庭に届けていく。社会問題、政治の話題から、エンタメ、生活実用情報まで、ニュースとはひと味違う、「生活者の視点」から、掘り下げて伝えた。

番組の世帯視聴率は9時までの前半で平均10.1%、後半を含めても8.0%、ターゲットとした40代女性の視聴率は前半で4.8%、50代女性は前半で13.3%と前年に比べ大きく伸び、視聴者層の拡大につながった。

また、3月11日の東日本大震災後、総合テレビのニュース以外の番組としては唯一、翌週月曜日から放送を開始し、被災地に向けた情報を発信した。

『生中継 ふるさと一番！』は地域局と連携し、生中継で全国各地のとおきの暮らしを訪ねる昼の番組。他にはない長時間の生中継番組として定着している。人々の表情が一番輝く瞬間を、生放送ならではの臨場感と共に伝え、地域に生きる人たちの言葉から、元気に生きるヒントを見つけた。

『産地発！たべもの一直線』は本物のおいしさを届けようと、誇りを持って農業・漁業を営む全国の生産者を毎回紹介。食材の味の秘密を解き明かし、生産者のこだわりを伝えることで、消費者の“食”への理解を深めることを目指した。NHKの食料プロジェクトの柱として、各放送局のネットワークを生かし、全国各地の生産現場を現地のアナウンサーがリポート。各産地の現状も詳しく伝えた。

## (2) 特集番組

『欽ちゃんのワースト脱出大作戦』は前年までの定時番組『難問解決!ご近所の底力』で高い評価を得た「テレビの力で、地域の問題の解決を図る」というコンセプトを受け継ぎ、さらなる視聴者層の拡大を目指す新たな「地域応援番組」。

萩本欽一さんを司会に、婚姻率ワーストワンの秋田県の青年達や観客動員ワーストワンに悩むJリーガー達が、番組を仲立ちとして専門家や全国のボランティアとプロジェクトを結成、汚名返上に挑む。番組はその姿を長期間にわたって密着取材し、そこに生まれる人間ドラマを年間3回にわたって放送した。

『もしも明日…』は「生活不安大国」といわれる日本で、ある日突然、予想もしなかった事がわが身に起きたら、一体どうすればいいのか? 「本格ドラマ」と「生活情報番組」の融合という新しいスタイルで答える番組。

今回のテーマは「家族の葬式」。『葬式は、要らない』という本がヒットし、ただでさえ高価な日本の葬式のやり方を再考する動きがあちこちに生まれている。しかし、自分のお葬式なら「地味でもいい」「戒名は要らない」等と言えるが、家族の葬式ともなるとなかなかそうはいかない。本人が事前にはっきり意思表示してくれる事はまれで、「縁起でもない」と話を避けられる事も多い。

そんな状況で家族のお葬式を出さざるを得なくなったらどうすればいいのか? スタジオでは、ドラマのモデルとなった本人やゲストが「自分の場合どうだったか」を語り、視聴者が「自分ならどうするか」を考える手がかりを提供した。また、気になる費用から、手続きのノウハウ、最近増えてきた散骨や直葬について等々、視聴者が知りたい情報を分かりやすく提示した。

また、東日本大震災直後の『NHKスペシャル』の制作にも参加した。

## Ⅲ. 科学・環境番組

科学・環境番組部は、「科学」「医学」「生活科学」「自然・環境」の4つの分野を基本として、10年度も数多くの定時番組、特集番組を制作。複雑化、細分化していく各分野の最新情報を分かりやすく伝えた。特に、環境問題を地球レベルから身近な観点までの幅広い視点で番組を制作するとともに、東日本大震災関連では、地震のメカニズムや原発事故に科学的視点でアプローチした。

## (1) 定時番組

総合テレビの『ためしてガッテン』は生活科学番組として高い支持を受けている。『ダーウィンが来た!生きもの新伝説』は親子で楽しめる自然番組として人気。教育テレビの『サイエンスZERO』は、タイムリーな科学テーマを掘り下げ、『ITホワイトボックスⅡ』は、身の回りにあふれる情報技術のメカニズムを分かりやすく解き明かした。

### ①総合テレビ

『ためしてガッテン』では、「痔」「コレステロール」「糖尿病」「高血圧」など、最新の医学情報を分かりやすく伝えるとともに「ダイエット」「お茶」「酒粕」など健康情報を紹介し、視聴者のニーズに応えた。また、ダイエット特番関連で、ポータルサイトを立ち上げ、視聴者サービスに努めた。

NHKの自然番組が始まってちょうど50年になることから、『ダーウィンが来た!生きもの新伝説』では、絶滅したとされるニホンカワウソなどこれまで捉えられた世界的にも貴重な映像を紹介するとともに、津軽海峡を越えるヒヨドリ、四万十川のアカメヤスズメ、クサフグ、ナゲナワグモなど身近な生きものの生態まで、自然の知られざる物語を伝えた。

### ②教育テレビ

最先端の科学情報番組『サイエンスZERO』では、ノーベル化学賞の鈴木章さんへの単独インタビューや、「金星探査機あかつき」軌道投入失敗時の密着リポートを放送。社会的関心の高いテーマを科学専門番組の視点から伝えた。また「暗黒エネルギー」「探査機はやぶさ」などの宇宙科学、「新燃岳噴火」「異常気象」などの防災・環境科学、さらに「五感の迷宮シリーズ」など、幅広い分野の科学情報を取り上げた。

『ITホワイトボックスⅡ』では、話題のクラウド・コンピューティングやスマートフォン、さらには生活に浸透しているデジタルカメラやデジタルオーディオなど、ビジネスや生活の場で欠かせない情報技術ITのメカニズムを分かりやすく解明した。

## (2) 特集番組

『NHKスペシャル』や『ロボコン』『ワンダー×ワンダー』『追跡!AtoZ』などで存在感のある特集番組を制作した。

『NHKスペシャル』の「ハッブル宇宙望遠鏡宇宙の始まりに挑む」では、改修された新生ハッブル宇宙望遠鏡で、誕生まもない宇宙を見ようと

する人々のあくなき探究心に密着、太古の宇宙の姿に迫った。

「深層崩壊が日本を襲う」では、異常気象による豪雨の増加によって山が崩れる巨大災害、深層崩壊の危機を描いた。

「日本列島 奇跡の大自然」では、なぜ日本には世界に類を見ないほど豊かで多様な自然が詰まっているのか、研究データと最新機材で捉えた映像からその秘密を明らかにした。

「認知症を治せ！」では、的確な診断で劇的に改善できたり、進行を止める薬や発症を防ぐ研究が大きく進展を見せていることを世界の最前線の現場で追った。

「緊急報告 東北関東大震災」では、東北の太平洋沖で起きた、国内観測史上最大のマグニチュード9の巨大地震と、沿岸を襲った巨大津波について、被害の状況や救助の現状、福島原発の情報などを、発災から2日後に緊急報告した。

「東北関東大震災から10日」では、大震災から10日の段階での被災地の厳しい状況と、緊迫度を増す原発の状況をまとめ、未曾有の災害の課題に迫った。

特集「緊急報告 福島原発」では、緊迫した事態が続く福島第一原発から拡散する放射性物質が、人にどんな影響が及ぶのか、今後の対策と注意点を交え、最新情報を報告。

夏の特集「ちょっと変だぞ 日本の自然」では、ふるさとの自然“里山”が、人の関わり方の変化によって激変していることを紹介、日本の貴重な自然を守る大切さを分かりやすく伝えた。

ABUアジア・太平洋ロボコンは、9月にエジプト・カイロで開催。ロボットで3つのピラミッドを組み立てる競技で、中国・電子科技大学が優勝。大会のもようは11月に放送した。また、高専ロボコンは10年で23回目。11月21日、両国・国技館で全国大会が開催された。今大会は、二足歩行ロボットが人間の搭乗した乗り物を運ぶ速さを競う競技。12月に放送した。

## 教育番組

### I. 青少年・教育番組

青少年・教育番組部は、幼児から青少年までの若い世代とそのファミリー層に向けて、楽しみながら豊かな情操を育むことのできるエンターテインメント性の高い教育番組や学校放送番組を制作。

特に、多メディア時代を迎える今日では、「3スクリーンズ」としてTV・PC・モバイルを連動させた番組開発に積極的に取り組み、デジタル時代にふさわしいサービスを提供している。

また、10年度は『ディープブルー』など、若い世代に向けた新番組の開発に取り組んだ。他にも家族で楽しめるイベント「NHK文化祭」を担当。大勢の家族連れや若者をNHKに呼び込み、公共放送への理解を深めた。

#### (1) 幼児向け番組

10年度は朝の編成を大きく改定し、対象年齢の高い順に『みいつけた!』『おかあさんといっしょ』『いないいないばあ!』を並べることで、幼稚園や保育園に通う子どもたちの生活時間により合ったゾーンとした。また月～金の朝夕に新アニメ『はなかつぱ』、日曜の朝には『みいつけた!さん』の放送を開始するなど、幼児こども番組の刷新と強化を行った。さらに、新たにスタートさせた公開収録番組『あつまれ!ワンワンわんだーらんど』が全国10か所で公演を行って2万人を超える入場者を集めるなど、視聴者サービスの一層の充実も図った。

#### (2) こども番組

小学生を対象とした番組『ビットワールド』では、年に4回、視聴者の子どもたちがリアルタイムで番組に参加することのできる生放送を実施。家庭にあるパソコンで番組HP上のゲームを行うと、その結果が即時に番組の進行に反映されるという仕組みが人気を呼んだ。1回のゲーム参加者は最高でおよそ16万人。デジタル時代の子どもたちとNHKをつなぐ双方向番組として新機軸を打ち出している。

同じく小学生を視聴ターゲットとした月曜から木曜の夕方放送の『天才てれびくんMAX』も、これまでのドラマやトークバラエティーに加え、一般の子どもたちを巻き込むさまざまな企画で好評を得た。一般応募者から選ばれた子どもたちが歌やダンスに挑戦したり、声優に挑戦したり。ひたむきに取り組む姿が見ている小学生たちの共感を生んだ。

一方、放送開始から17年、毎週起こる世の中の出来事を模型やCGを使って子どもたちに分かりやすく伝えてきた『週刊こどもニュース』は放送を終了。難しいニュースを分かりやすく伝えるという手法は、1月に放送がスタートしたファミリー層向けの新番組『ニュース 深読み』に受け継がれた。主婦の年金や北朝鮮問題などの理解するのが難しいニュースを分かりやすく伝えるのはも

ちろんのこと、さまざまな角度から切り込み、事の本質をより深く伝えた。土曜朝の番組として定着を図っている。

### (3) 若者番組

09年度スタートし、ウェブ上で10代と20代の若者が議論を交わす『青春リアル』。タイトル通り、今の若者の悩みや疑問がリアルに語り合われるこの番組は、ウェブと連動した新しいスタイルの番組として10代20代の若者に支持されている。

10年度はネット上の熱いやりとりに加え、番組に登場する若者がどう変わっていくのかを撮影した映像も番組内で紹介。青春ドキュメンタリーとしての側面も強化した。

各分野の最先端で活躍する人を紹介する『トップランナー』は、10年度も若者に注目を浴びる俳優、ミュージシャン、作家などが次々と登場。それに加え、一般にはあまり知られていないが、ゲームクリエイターや彫刻家、特殊メイクアップアーティストなど、その世界では圧倒的な力を持つゲストも紹介。その魅力に迫った。

### (4) 特集番組

同じ道を極めた3人が一堂に会し、台本なし、司会なしで『己の技と心の内』を本気で語り合う『ディープピープル』。11年度のレギュラー化を目指して9回放送した。すし職人、フットボール投手、戦場カメラマンなど各分野のプロフェッショナルたちが、一般の人たちがうかがい知ることのできない世界について深いトークを繰り広げた。

定時番組の『トップランナー』は、役者・ミュージシャンとして大活躍の福山雅治の素顔に迫る夏スペシャルを制作。『青春リアル』は、コラボレーション企画としてテレビ番組終了後、FMラジオで『君の思いは受け止めた』を放送。テレビを見た若者視聴者の声をラジオで伝えた。

ドキュメンタリー番組では、3月、閉校になる島の分校の高校生を長期取材した『旅立ちの記録』を放送した。

また、放送開始50年を迎えた『みんなのうた』は、元日に懐かしい歌や映像の数々を103分にわたって紹介した特集番組をお茶の間に届けた。家族そろって楽しめるコンテンツとなった。

## II. 学校教育番組

10年度は、政府の「スクール・ニューディール」構想によって、学校へのデジタルテレビや電子黒板の導入、校内LANの整備が一気に進んだ。

こうした教室環境の変化に合わせて、学校放送番組のハイビジョン化を進めるとともに、NHKデジタル教材を充実させて学校教育番組の中から27番組とクリップ約3,000本をインターネット経由で提供した。

### (1) 定時番組

学校教育番組および関連番組として36番組（小学校向けテレビ21、同ラジオ2、中学校・高等学校向けテレビ9、全学年向け4）を放送した。また、音楽・図工・体育など情操教育の面白さを紹介するスタジオバラエティーとして家族で楽しめる『ヒミツのちからんど』、将来について悩む若者たちに向けた仕事ガイダンス番組『あしたをつかめ ～平成若者仕事図鑑』、子育てのノウハウを紹介する『となりの子育て』を放送した。

新番組としては、いわゆる「小1プロブレム」を視野に入れた小学校1年生向け『できた できた できた』、スケールの大きい実験を実際にやってみる小中学生向け『大科学実験』、パワーアップした特別支援教育・養護向け『ストレッチマン・ハイパー』を放送した。このうち『大科学実験』については、NHK、NHKエデュケーショナル、アルジャジーラ子どもチャンネルで共同制作をし、アジア太平洋放送連合（ABU）若者番組部門賞、日本賞文部科学大臣賞（児童部門）などを受賞した。

### (2) 特集番組

NHK全国学校音楽コンクール関連として、『発表！Nコン2010課題曲』『課題曲を歌おう』『合唱のちから』『大塚愛 中学生に贈る愛の歌』を放送し、10月に行われる全国大会の多面的な展開を図った。また、NHK杯全国放送コンテスト関連として、『ティーンズビデオ』『ティーンズラジオ』で優秀作品を紹介した。

NHK文化祭の期間中には、『見せます！世界の教育番組2010～「日本賞」受賞作品』『秋の夜長はまなびかふえ～「日本賞」教育コンテンツ国際コンクールより』『ヒミツのちからんどスペシャルイベント～なわとびかっつとび王選手権』、放送教育研究会全国大会関連『教室のテレビ 心つたえあう授業』を放送した。

また、春・夏・冬休みに放送するテレビクラブでは、小学校算数のつまづきやすい点を楽しく学ぶ『そうだったんだ！算数シーズン2』、中学校保健体育で必須になるダンスの基礎を学ぶ『おどツタ』、中高生の携帯電話トラブルを取り上げた『ケータイ時代を生き抜くために～“なりすましプロフ”の恐怖』、小学校入学を控える子どもた

ち向けに『できた できた できた 入学準備号』などを放送した。

そのほか、親から虐待を受けた心の傷をもつ少女の再生を描く特集番組『うちは、一人じゃない～虐待の傷 再生への500日』、定時番組を展開して山村留学の交流を描いた『カラフル！スペシャル 山のナナミと街のカオル』、小学校向け道德番組の大人向けスピノフ『時々おとなも迷々2』、羽田空港の新国際線ターミナルオープンに合わせて空港で働く若者を取り上げた成人の日特集『あしたをつかめスペシャル 20歳にエール！@羽田空港』などを放送した。

### (3) 教育イベント関連

①「第61回放送教育研究会全国大会」（8月9～10日）は、東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年総合センターで開かれ、11年の地上デジタル完全移行や新指導要領の全面実施に向け、学校放送現場でどのように番組を視聴・活用していくかなどについて活発な議論が展開された。

②「第77回NHK全国学校音楽コンクール」には、小・中・高合わせて2,566校が参加。NHKホールで行われた「全国コンクール」（10月8～10日）では、小学校、中学校、高校の部を生で放送した。また、審査の時間を利用して、合唱指導者による公開レッスン（小学生の部）、課題曲を作詞・作曲した大塚愛のステージ（中学生の部）、課題曲を作詞した谷川俊太郎による詩の朗読（高等学校の部）をスペシャルステージとして紹介した。

③「第57回NHK杯全国高校放送コンテスト」には地方予選を含め、全部門合わせて1,602校が参加した。

④「第27回NHK杯全国中学校放送コンテスト」には地方予選を含め、全部門合わせて603校が参加した。

⑤「先生のためのデジタルテレビ・ICT活用講座」は全国10か所で実施し、学校放送と、それに連動したデジタル教材の具体的な活用方法を学ぶ体験型の研究交流講座が開催された。

### (4) 学校教育関連委員会

#### ①教育放送企画検討会議（ブロック）

全国8つのブロックで、放送を利用している教員と11年度の学校放送の方向性について意見交換を行った。

#### ②教育放送企画検討全体会議

各ブロックからの意見を集約し、具体的な番組計画を立案した上で、学識経験者、全国放送教育研究会連盟役員、教員、教育行政関係者と、11年度の学校放送の制作方針および学校放送の将来の

在り方について検討を行った。

### ③学校放送番組委員会

各番組の企画・制作に当たって、学識経験者、教員、教育行政関係者などと意見交換を行い、利用現場の意向や要望を反映させた。

## Ⅲ. 趣味・実用番組

### (1) 定時番組

平日を中心に暮らしのさまざまなノウハウを紹介する番組を並べた。月～木曜の午前11時台は家庭料理のノウハウを伝える『きょうの料理』と初心者や若い人に向けた料理の基本をやさしく伝える『きょうの料理ビギナーズ』を放送した。11時30分からは女性に向けたさまざまな番組を放送した。

月曜（後期のみ）は20～30代の女性に向けて第一線で活躍する女性のライフスタイルを紹介する『グラン・ジュテ』を、火曜はメイクやエクササイズなどの美容に関する情報を伝える『きれいの魔法』を、水～木曜は手芸や洋裁など手作りの楽しさを伝える『すてきにハンドメイド』を放送した。

月～木曜の午前11時55分からは5分番組としてワンポイントで住まいに関する情報を伝える『住まい自分流』を、また土曜正午からはその週の番組を4本まとめて再編集した『住まい自分流アルファ』を放送した。同じく5分のミニ番組として趣味実用情報を伝える『まる得マガジン』も月～木曜に1日3回放送した。夜の10時台にはさまざまなジャンルの趣味講座番組を並べた。月曜はスポーツなどの体験型の趣味を紹介する『チャレンジ！ホビー』を、火曜は中高年に向けたパソコンのイロハを分かりやすく伝える『中高年のためのらくらくパソコン塾』、水曜は音楽や絵画などの趣味を基礎から学ぶ『あなたもアーティスト』、木曜は日本の文化や芸術を趣味として学ぶ『直伝和の極意』を放送した。

日曜の午前8時台には野菜作りの楽しさを伝える『趣味の園芸 やさいの時間』、園芸初心者向けの『趣味の園芸ビギナーズ』、本格的園芸ファンに向けての『趣味の園芸』を3本連続して放送した。

囲碁・将棋ファン向けには、毎週日曜の昼に教育で『将棋の時間』『囲碁の時間』を、BS2では土曜に『囲碁・将棋ジャーナル』やタイトル戦の中継など、さまざまな形で放送した。

## (2) 特集番組

囲碁・将棋ファンに向けて、『決定！こども囲碁名人』『決定！こども将棋名人』『全日本アマチュア将棋名人戦』『将棋界の一番長い日』『将棋の日』『テレビ囲碁アジア選手権』『新春お好み将棋・囲碁対局』などの特集番組を放送した。

実用番組では、夏の特集番組として8月に『きょうの料理』の有名講師が韓国と大阪を旅し地元の人たちとふれあひながら料理を作る『きょうの料理スペシャル・コウケンテツのメシタビin韓国』『ケンタロウのメシタビin大阪』を2本シリーズで放送した。また、同じく8月に『住まい自分流DIY大賞2010』を幕張メッセから1時間生放送し、視聴者から募集した日曜大工作品のコンテストを行った。11月にはNHK文化祭関連の『きょうの料理クッキングコンテスト2010』を生放送で放送した。1月には11年に80歳を迎える料理人道場六三郎の1時間のドキュメンタリー『道場六三郎 80歳の挑戦』を放送した。

## IV. 外国語講座番組

### (1) 定時番組

教育テレビでは20番組、ラジオ第2放送では26番組、ワンセグ2で1番組の合計47の定時番組を制作放送した。

#### ①教育テレビ

英会話番組では『リトル・チャロ2』を立ち上げ、第1シリーズに続くクロスメディア企画として放送した。『ギフト～E名言の世界』は古今東西の著名人・知識人の名言をテーマごとに英語で取り上げ、英語を学びながらうんちくも味わえる「英語教養番組」を目指した。2年目を迎えた『Jブングク』では、女優でモデルの杏をナビゲーターに迎え、同じくモデルの加賀美セイラとの文学トークや日英朗読から一つの作品を読み解く新しい演出を取り入れた。

独・仏・中・西・伊・ハンゲルの6言語の番組では、魅力的な講師陣と生徒役を配するとともに、それぞれの言語への理解を促す文化情報を充実させた。特に欧州4言語では「ユーロ24」というプロジェクトを企画。これまでは各言語個別にカリキュラムを進めていたが、10年度は4つの言語で毎回共通のフレーズを取り上げ、それぞれの言語の特徴や違い、文化的な背景を比較することで他言語にも興味を持ってもらう演出を試みて好評を博した。テキストの売り上げにも貢献。イタリア語は萬田久子、ドイツ語は原沙知絵、フランス語

は知花くらら、スペイン語は片瀬那奈がナビゲーターを務めた。中国・ハンゲルの番組には、中国を代表するファッションモデル、フービンや韓流ドラマで注目されていたユン・サンヒョンなどアジアを代表するスターが出演。番組を盛り上げた。

#### ②ラジオ第2

テレビと連動して『リトル・チャロ2 心にしみる英語ドラマ』が開講。音だけの演出で、リトル・チャロ2の不思議な世界観を表現した。ラジオ講座の『まいにち〇〇語』シリーズでは、映画や創作ドラマ、オペラなどさまざまな教材を使ってバラエティー豊かな番組ラインアップを展開した。

### (2) 特集番組

クロスメディア企画の2番組『リトル・チャロ2 英語に恋する物語』と『ニュースで英会話』では携帯電話とテレビとを連動させた双方向クイズ特番を実施。特に『チャロ』では、携帯電話だけでなくデータ放送とも連動してデジタルテレビのリモコンからクイズに参加できる仕組みを取り入れた。

また、11年4月から小学校で英語が必修化になるという動きを受け、小学5～6年生向け英語番組『ハビえいご』を開発。“英語の豊富なインプット”を狙い、オールイングリッシュでミュージカルやクイズなどを盛り込んで制作した。

『SHIBUYAでJブングク』は、秋のしぶや文化祭でのふれあいホール公開収録番組として企画。番組MCのロバート・キャンベルの進行で、本上まなみと平野啓一郎をゲストに迎えて日本文学の楽しみ方を語った。『基礎英語創作スキット・コント大会』は年末年始特集として10年度も実施。

さらに、11年4月はラジオ第2放送開始80周年という節目を捉え、特集番組『“ミミ学問”のすすめ～ラジオが教えてくれたこと』を制作。戦後の日本で一斉に風靡した伝説のラジオ講座の制作秘話、ラジオ第2放送の電波の秘密、ラジオ語学講座との出会いがきっかけで人生が変わった人々の姿などを紹介した。

## V. 文化・福祉番組

文化・福祉番組部では、教養・生涯学習への多様な要望に応える文化番組、子ども・障害者・高齢者の課題に取り組む福祉番組など、多彩で高品質な番組を制作した。

10年度、総合テレビでは前年より継続となる

『世界遺産への招待状』『爆笑問題のニッポンの教養』のふたつの定時番組を放送。

教育テレビでは、『ETV特集』が、日本が直面する最も大きな課題である「日米関係」や「沖縄」にスポットを当てた番組で、視聴者に問題を投げかけた。

福祉番組では、『福祉ネットワーク』を中心に、09年度に引き続き、「自殺」に関連して国や自治体の対策を追い「命」の大切さを訴えるキャンペーンを展開した。教育テレビの枠を超えて、総合テレビ『クローズアップ現代』や『あさイチ』とも連動し、大きな反響を得た。

### (1) 定時番組

総合テレビでは、2年目を迎えた『世界遺産への招待状』が土曜の朝に時間を変えての放送となった。番組では、世界遺産だけでなくそこに暮らす人々を通じて世界遺産の魅力を紹介した。10年度は、「モロッコ・マラケシュ」「カンボジア・アンコール」「フランス・コルシカ島」「ベトナム・ハロン湾」「イタリア・アッシジ」「フランス・ボルドー」「イスラエル・マサダ」「ポルトガル・マデイラ島」「スリランカ・アヌラダプラ」「スリランカ・シーギリヤ」「ボスニア・ヘルツェゴビナ・モスタル」「韓国・歴史村」「中国・少林寺」「シリア・ボスラ」「アルゼンチン・ウマウアカ渓谷」などを紹介した。

『爆笑問題のニッポンの教養』は4年目となった。ノーベル賞受賞者から世界的な音楽家や漫画家まで、あらゆる分野の対談相手に、爆笑問題が挑み、知の最前線で何が起きているのかを伝えた。恒例のスペシャルでは、東京芸術大学の表現の現場を訪ね、200人以上の学生たちと「自己表現」に関して激論を交わし、大きな反響を得た。

09年度までの『知る楽』シリーズは、10年度からは『極める!』(月曜)、『歴史は眠らない』(火曜)、『こだわり人物伝』(水曜)、『仕事学のすすめ』(木曜)の4つの独立した番組として放送した。10年度に新設された『極める!』は、著名人が持つこだわりを極めるために、その道の達人を訪ねて徹底取材するという番組。

友近の温泉学、杉浦太陽の鮮魚学、千住明の聖地学など、出演者もジャンルもさまざまな番組を放送した。2年目となる『歴史は眠らない』では、「ニッポンの公共事業」「婚活」「沖縄」など、日本が直面している最もホットなテーマを、気鋭の専門家が読み解いた。『仕事学のすすめ』では、作詞家・秋本康、ワタミ会長・渡辺美樹、水泳コーチ・平井伯昌など個性的な出演者の仕事の哲学

が人気を呼んだ。

『ETV特集』は、現代を文化、歴史、社会的弱者の視点で深く読み解くETVならではのスペシャル番組。10年度は、半世紀を迎えた60年安保にスポットを当て、あの時代の中で人々は何を考えたのようには振舞ったのかを問うた4回のシリーズ「安保とその時代」を放送した。また「病院は建てたけれど」「なぜ希望は消えた～あるコメ農家と霞ヶ関の半世紀」「大阪“生活保護”戦争」などで、日本が抱える問題を正面から描いたほか、「死刑執行 法務大臣の苦悩」「枯れ薬剤の傷跡を見つめて」「敗戦とラジオ」「HIVと生きる」などの番組を放送した。

82年から続く長寿番組『こころの時代』は、さまざまな宗教が示す生きる指針や実際の人生の困難を乗り越えた人々の言葉を手がかりに、人間の心を深く見つめ直す番組。毎月1回のシリーズでは、雨宮慧・上智大学教授が「福音書のことば」と題して、新訳・旧訳聖書からイエスの言葉を読み解いた。

福祉番組では、前述の『福祉ネットワーク』が、障害や心の悩み、介護など、さまざまな困難や悩みを抱えながらも日々を懸命に生きる人々の“しあわせ(福祉)”の実現を目指す総合情報番組として展開した。10年度は、地域発の先進的な福祉政策を取り上げる「地域からの提言」をシリーズで放送。介護保険改正や若者の雇用、在宅医療など、人々の暮らしに直結する問題について伝えた。

また例年実施している、「NHKハート展」「介護百人一首」も放送した。

3月の東日本大震災の発生直後からは、被災した障害者や高齢者、子どもが直面している問題について、連日生放送で放送した。

また、毎月第4週には、障害や心の悩みなどさまざまな困難や悩みを抱える当事者を招き、司会の桜井洋子アナウンサー、出演者の石田衣良、ソニンと語り合う『ハートをつなごう』を放送した。5年目を迎えた10年度は、「薬物依存」と「若者のこころの病」をキャンペーンとして集中的に取り上げた。双方とも若い世代を中心に、多くのメール、掲示板への書き込みが寄せられた。また「HIV」や「働くことがつらいです」「自死遺児」など新たなテーマにも取り組み、番組を中心としたコミュニティーをさらに広げた。ホームページ「NHK福祉ポータル ハートネット」では、掲示板を通じての視聴者どうしの議論も活発に行われている。

ほかに、『みんなの手話』『ろうを生きる 難聴

を生きる』『ワンポイント介護』『ワンポイント手話』、またラジオでは『聞いて聞かせて』『社会福祉セミナー』などの番組で、さまざまな障害のある人に対しての情報提供を行った。

## (2) 特集番組

『NHKスペシャル』では、万博で注目の集まった上海を取り上げた「上海 百年の物語 激動を生き抜く」、沖縄返還の密使を務めた若泉敬の人生と苦悩を描いた「密使若泉敬 沖縄返還の代償」、冷戦下でアメリカはどのような核戦略を進め、核兵器を製造してきたのかを描いた「私たちは核兵器を作った」、邪馬台国の決定的証拠を探す王宮の発掘に密着した「「邪馬台国」を掘る」などを制作し、いずれも大きな反響を得た。

また、随時の特集番組としては『検索deゴー!』とっておき世界遺産』『ホロコストを生きるのびて』『オーケストラ生まれる〜コバケンとその仲間たちスペシャル2010』『ヒューマンドキュメンタリー〜卒業、しかし・・・高校生 就職難の中で』『三十一文字の人生歌〜働き盛りの介護』などを放送。3回シリーズの放送となった『地球イチバン』では、「イチバン自転車の多い街 オランダ・グローニンゲン」「イチバン高い湖 ペルー・ティティカカ湖」「イチバン標高の高い街 ボリビア・エルアルト」の3番組を届けた。

また、夏季特集では『人材ハッケン伝』『ココロ見』『ゆずれない夜』『爆笑問題の戦争入門』『一週間 de 資本論』を制作した。『人材ハッケン伝』では、もし別の道を選択していたらという設定で、芸能人が一流企業の最前線に入社、特別扱いなしで本気で仕事に挑む1週間に密着ドキュメント。

『一週間de資本論』は、難解で知られる『資本論』のエッセンスを、四夜連続、一週間で理解してしまおうと、学説を分かりやすく解説するゲストを迎えて『資本論』の現代的意味を浮かびあがらせた。二つの番組は、11年度には、『仕事ハッケン伝』『100分 de 名著』として、定時番組化された。

## 芸能番組

### I. ドラマ番組

10年度のドラマ番組は、地上波デジタル放送の本格化を迎え、より多様なテレビドラマの制作に取り組んだ。連続ドラマ、単発・シリーズドラマ

それぞれにターゲットを明確にし、おのおのの特長を生かしてクオリティーの高いドラマ番組の制作を目指した。連続ドラマでは大河ドラマ『龍馬伝』、『連続テレビ小説〜ゲゲゲの女房』がいずれも好評を博した他、『ドラマ10』では「八日目の蟬」「セカンドバージン」などが女性層を中心に話題を呼び、視聴者層の拡大に尽力した。

#### (1) 連続ドラマ

##### ①「大河ドラマ」

63年『花の生涯』から始まった「大河ドラマ」も、10年の『龍馬伝』で第49作目となり、日曜夜8時の時代劇として視聴者に定着している。

『龍馬伝』は、作・福田靖、主演・福山雅治。幕末の風雲児・坂本龍馬の33年の生涯を経済人・岩崎弥太郎の視点から描いたオリジナル作品。名もなき若者が「龍」へ成長していく壮大な物語で、希望の新しいヒーロー像を描き出した。全48回。

##### ②『連続テレビ小説』

こちらも「朝ドラ」として定着し、10年前期の「ゲゲゲの女房」で82作目となる。原案・武良布枝、脚本・山本むつみ、出演・松下奈緒、向井理。漫画家・水木しげるの妻の目から見た、夫婦の歩んだ長い道のりの物語。新婚の布美枝と茂は、食べるものにも困る貧乏生活を続けながらも支え合い、やがて茂は漫画家として成功していく。全156回。

10年度後期は大阪局制作「てっばん」。作・寺田敏雄、今井雅子、関えり香。主演・瀧本美織。舞台は、広島県尾道市と大阪。大阪の地で祖母と暮らしながらお好み焼き屋を開業する、村上あかりの笑いっぱい涙っぱいの奮闘記。全151回。なお東日本大震災報道のため総合波での最終週の放送は、1週間遅れとなった。

##### ③『土曜時代劇』

日本人の心の原点を描き、時代劇ファンから長く愛されている人気シリーズを、08年度から、30分の『土曜時代劇』としてリニューアル。フレッシュな若手俳優を主役として起用し、青春活劇の要素を取り込んでいる。

10年度は、「まっつぐ〜鎌倉河岸捕物控」(原作・佐伯泰英、主演・橘慶太、全13回)、「桂ちづる診察日録」(原作・藤原緋沙子、主演・市川由衣、全12回)、そして『正月時代劇〜隠密秘帖』を第1エピソードにしたシリーズ「隠密八百八町」(作・金子成人、梶本恵美、横山一真、主演・館ひろし、全9回)の3シリーズを放送。

#### (2) 単発・ミニシリーズ・オーディオドラマ

『土曜ドラマ』は、国税査察官と脱税請負人の

闘いを描いた「チェイス～国税査察官」(6回)、建設業界の談話を題材にした「鉄の骨」(5回)、「チャンス」(6回)、「TAROの塔」(4回)など意欲的な社会派ドラマを放送し、男性層を中心とした視聴者から好評を得た。また10年度から火曜午後10時に『ドラマ10』を新設。「八日目の蟬」(6回)、「離婚同居」(5回)、「天使のわけまえ」(5回)、「10年先も君に恋して」(6回)、「セカンドバージン」(10回)、「フェイク～京都美術事件絵巻」(6回)、「四十九日のレシピ」(4回)などの話題作を放送、特に「セカンドバージン」はさまざまなメディアで話題となり、ターゲットである40～50代女性に視聴者層を広げた。

単発ドラマでは、平安時代を描いた『古代史ドラマスペシャル～大仏開眼』(作・池端俊策、主演・吉岡秀隆)、太平洋戦争中に戦場へ駆り出されて行く少年たちの心情を描いた『15歳の志願兵』(作・大森寿美男、主演・池松壮亮)、裁判員制度を題材にした『てのひらのメモ』(原作・夏樹静子、主演・田中好子)、在日韓国人とミャンマー難民の恋愛を描く『大阪ラブ&ソウル』(作・林海象、主演・永山絢斗)、出征した犬と兵士の交流を描いた『さよなら、アルマ』(原作・水野宗徳、主演・勝地涼)などの良質なドラマを制作。

司馬遼太郎原作の『スペシャルドラマ 坂の上の雲』(全13回)は、09年の第1部(5回)に続いて10年に第2部(4回)が放送され、大きな反響を得た。11年には第3部(4回)が放送され、3年にわたる全13回の放送が完結する予定。

オーディオドラマも定時番組『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』の他、特集オーディオドラマを放送した。

## Ⅱ. エンターテインメント番組

10年度は、総合・教育・FMで新たに立ち上げた番組の定着を図るとともに、10年度以降を見据えた新番組開発にも積極的に取り組んだ。

また、09年60回メモリアルを終え、改めて新たな時代に向けた一歩を踏み出すこととなった『第61回NHK紅白歌合戦』の制作を核に据え、年間を通してさまざまな取り組みを行った。

### (1) 公開・派遣番組

視聴者とNHKを結びつける役割を担う公開・派遣番組の制作は、当部の業務の中核をなしている。

10年度は、『NHKのど自慢』『NHK歌謡コンサ

ート』(4本を地方派遣)、『BS日本のうた』『ごきげん歌謡笑劇団』(制作本数を20本に倍増)、『ザ少年倶楽部』『オンパト+』『真打ち競演』のほか、有料のチャリティーイベント『歌謡チャリティーコンサート』(2回)など、数多くの番組を通して視聴者と向き合った番組制作を行ってきた。

### (2) 定時番組

10年度は、新たに『新感覚ゲーム クエスト』『オンパト+』『アルクメデス』『洋楽倶楽部80's』『スコラ 坂本龍一 音楽の学校』『松尾潔のメロウな夜』『小西康陽 これからの人生』『サウンドクリエイターズ・ファイル』を立ち上げ、幅広い視聴者に向けた多様なジャンルの番組ソフトを提供した。特に『新感覚ゲーム クエスト』は20時台、『アルクメデス』は深夜枠で、新たな視聴者層開拓をねらって立ち上げたクイズ・バラエティー番組として意欲的な挑戦を行った。

### (3) 特集番組

特集番組では、大型歌謡イベントや定時番組を発展させた特集番組を制作し、視聴者の期待に応えた。

『第61回NHK紅白歌合戦』は、“歌でつなごう”をテーマに歌が持つ「人と人をつなぐ」という根源的な力を番組を通して見つめる構成となった。紅白初のオリジナルキャラクターやデジタル放送を活かした「紅白ウラトークチャンネル」など随所に新たな試みを盛り込み、接触者率向上にも貢献した。このほか、大型歌謡イベントとしては、『第42回思い出のメロディー』を制作した。

衛星放送では、『SUMMER SONIC 2010』などの大型イベント中継や、『昭和歌謡黄金時代』『昭和の歌人たち』といったシリーズものなど、数多くの衛星放送ならではのソフト制作を行ってきた。

また、開発番組として『松本人志のコントMHK』『ミュージック・ポートレート』『たけしアート☆ビート』『キャンパス寄席』『岡田恵和 今宵、ロックバーで』『AKB48の“わたしたちの物語”』『石丸幹二のシアターへようこそ』を制作・放送し、11年度の定時化に結びつけた。

10年度は、総合・教育・衛星・ラジオで190本あまりの特集番組を制作・放送した。

## Ⅲ. 音楽・伝統芸能番組

音楽・伝統芸能番組部は、クラシック音楽から日本の伝統芸能、民謡、演劇、ダンスなど幅広い

ジャンルを中心に良質な番組コンテンツを制作放送している。これは、視聴者の期待に応える一級のコンテンツとして個別の放送波にマルチ展開している。公共放送として日本の放送文化における芸術・芸能の分野で重要な役割を担っている。

### (1) テレビ定時番組

10年度は、教育テレビ週末夜間の『N響アワー』『芸術劇場』のクラシック音楽ゾーン、水曜午後の『日本の伝統芸能』と木曜午後の『芸能花舞台』という伝統芸能ゾーンで、愛好家の視聴習慣に配慮した編成をとった。

『N響アワー』では、司会2年目を迎えた作曲家の西村朗さん、同じく3年目を迎えた岩槻里子アナウンサーがクラシック音楽のすばらしさを楽しみ、分かりやすくというこれまでの番組コンセプトを継承し、新しい音楽ファンの獲得を目指した。第5日曜は、『オーケストラの森』として、N響以外の日本全国のプロ・オーケストラを紹介し、そのコンサートのもようを放送した。『芸術劇場』は、2時間15分を『情報コーナー』『公演コーナー』の2つのブロックにより構成。クラシック音楽、古典芸能、演劇と3つの分野をカバーし、国内外の優れたステージ芸術を紹介した。

『スーパーレッスン』は、世界第一級のアーティストが若い学生たちに特別なレッスンを授けるテキスト番組。10年度は、『スーパーオペラレッスン』として、バーバラ・ボニーの『バーバラ・ボニーに学ぶ歌の心』を新たに制作し、放送した。

『芸能花舞台』は、古典芸能各分野の演目を取り上げるだけでなく、若手に注目する回を設けたり、琉球舞踊で沖縄に出かけたり、作品の舞台をロケで訪ねるなど、積極的に外に出て行った。『日本の伝統芸能』は「歌舞伎」「能狂言」「文楽」の3シリーズを放送。分かりやすさを最大のポイントとした演出を心がけた。

### (2) 公開派遣番組

総合テレビでは、『それいけ！民謡うた祭り』を、全国9か所で公開録画。地元の民謡歌手を積極的に登用、ふるさとの民謡にこだわる演出で、ふるさとの香りあふれる番組作りを行った。ラジオ第1の『民謡をたずねて』、FMの『ベストオブクラシック』『名曲リサイタル』も、引き続き実施した。

また、BS2『あなたの街で夢コンサート』を10本放送し、プロのオーケストラとの共演を夢見るアマチュア音楽家のほほえましい演奏風景を紹介した。

### (3) ミニ番組

四半世紀の歴史を持つシリーズ『名曲アルバム』は、ハイビジョン一体化制作を推進し、地上波とハイビジョンとのマルチユース蓄積ソフトとして放送した。

### (4) テレビ特集番組

毎年秋の恒例となった『NHK音楽祭』は8回目を迎え、『偉大なるドイツ三大B-バッハ・ベートーベン・ブラームス』をテーマに開催された。NHKホールで行われたこのイベントに今回はニコラウス・アーノンクール指揮/ウィーン・コンツェントゥス・ムジクス、アンドレ・プレヴィン指揮/NHK交響楽団、ズービン・メータ指揮/イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団、パーヴォ・ヤルヴィ指揮/ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団が参加。バッハ、ベートーベン、ブラームスの名曲を個性豊かに演奏した。それぞれのプログラムは生で放送したFMをはじめ、衛星ハイビジョン、教育の各波で紹介し、高い評価を得た。

『NHK古典芸能鑑賞会』は、NHKならではの豪華な顔合わせと、類を見ないバリエーション豊かな演目が見どころ。一夜でさまざまなジャンルの芸能の至芸を紹介する、充実した内容が売り物である。37回目となる10年は、箏曲山田流重鎮の豪華共演、ホールの空間を最大限に生かした舞踊、芸術院会員の片岡仁左衛門ほかによる歌舞伎を、豪華な配役で放送した。なお、音声は歌舞伎特有の花道など劇場の機構にふさわしく、効果的な、臨場感あふれる5.1サラウンドを用いた。

正月2日に恒例となった『こいつあ春から～初芝居生中継』は東京・新橋演舞場と大阪松竹座を生中継で結んで初日の様子を紹介した。演目は「浮世柄比翼稲妻」「吉田屋」など。あわせて浅草公会堂やル・テアトル銀座など各座の正月芝居のもようをダイジェストで紹介した。

正月3日恒例の『NHKニューイヤーオペラコンサート2011』は、第54回を迎えた。「オペラこの宝石箱には人生のドラマがつまっている」と題して構成し、国内外で活躍する一級の日本人歌手たちの歌とともに、幕間では国際的ピアニスト、アリス・紗良・オットが生誕200年のリストのオペラ・パラフレーズを演奏するなど、盛りだくさんの2時間生放送となった。また前年度に引き続きNOD見逃しサービスも行った。

元日恒例の『ウィーン・フィル ニューイヤー・コンサート2011』では、今回は指揮者にフランツ・ウェルザー・メストが登場。ハイビジョン

5.1 サラウンドの高画質・高音質で、オーストリア・ウィーンからの生中継を行った。11年生誕200年を迎えるフランツ・リストゆかりの作品や、おなじみのウイナ・ワルツの名曲を紹介した。

『プレミアムシアター』の枠内特集では、世界で最もチケット入手が困難と言われるバイロイト音楽祭の世界初TV生放送を8月21日に実現。幕間には、貴重なリハーサル風景やアーティストへのインタビューを紹介し、楽劇「ワルキューレ」全幕を6時間20分に及ぶ生放送として成功させた。さらに、1月にはBSイタリア月間と連動し、「熱狂ミラノ！オペラの殿堂スカラ座の秘密」と題する特集を放送。毎年12月7日に行われるミラノ・スカラ座シーズン・オープニングの模様を、オペラ座と街の文化の関わりを交えて紹介した。

### (5) FM番組特集番組

音楽波NHK-FMの特性を生かしたオール・ジャンルの超長時間特集番組『今日是一日“〇〇”三昧』は、あるひとつの音楽ジャンルに絞って一日中たっぷり堪能してもらうことを目的に、クラシックからカントリー、ソウル、民謡までを網羅したFMの目玉企画となった。10年度のテーマは、「ラ・フォル・ジュルネ」「アニソン」「古楽」など。

特集番組では、前述の『今日是一日“〇〇”三昧』に加え、夏の『ベストオブクラシック～特集ヨーロッパ音楽祭』や、年末の『バイロイト音楽祭2010』なども例年どおり放送し、クラシックファンの期待に応えた。

### (6) 国際共同制作の推進

世界各地の音楽祭やオペラハウスでの公演を、各国の放送局・プロダクションとの共同制作により水準の高いソフトを低コストで効率的に収録し放送した。10年度はバリ・オペラ座、ポリショイ劇場、英国ロイヤル・バレエなど世界の一流歌劇場でのオペラ・バレエ公演、ライブチヒ・バッハ音楽祭などのフェスティバル、アニバーサリー・イヤーを迎えたショパンやマーラーの生地でのガラ・コンサートなど合計15本の国際共同制作を行った。また、国際共同制作のほか、外来オーケストラの日本ツアーなど、NHK単独によるコンサートの収録、海外の著名プロダクションによる秀作ソフトの番組購入なども積極的に推進し、マルチユースを展開した。大型のクラシックソフトを安価で安定的に入手し、効果的に編成・放送した。

## 購入番組

### 1. 総合テレビ

定時ドラマでは、米国ドラマ『ERXIII 緊急救命室』（年度前期 木、0:15）、『アグリー・ベティ3』（年度後期 木、0:15）を放送した。また、英国ドラマ『恐竜SFドラマ プライミーバル』を第1章から第3章までを放送した（年度前期日、10:50～11:33）。

### 2. 教育テレビ

#### (1) ドラマ

定時ドラマでは、『アルフ』『iCarly（アイ・カーリー）』（火、19:25）、『新ビバリーヒルズ青春白書』『カイルXY』（土、23:00）の米国ドラマを放送した。

また、年末特集として『アルフ・ファイナル・スペシャル』（12.31）を放送した。

#### (2) ドキュメンタリー

ドキュメンタリーでは、定時番組『地球ドラマチック』（木、18:55）の中の「マチュピチュ～天空都市誕生」「エベレスト大飛行～モーターパラグライダーで記録に挑戦」「コロンブスはアメリカをどう変えたのか」「モンブランが心の故郷」などが好評だった。

#### (3) その他

アニメでは、シリーズアニメとして『アニメこぼと。』（月、19:25）、『おさるのジョージ』（土、8:35）、『スター・ウォーズ/クローン・ウォーズ1』（土、18:25）を放送。また、日曜の朝7:00に新設された子どもゾーンで『アニメ ペンギンズ』『ひつじのショーン』を放送した。

また、ライフスタイル番組として、後期、『スタイルアップ』（月、11:30／（再）21:30）で、『ティム・ガンのファッションチェック』『毎日がイタリアン』などを放送した。

### 3. ハイビジョン

『ハイビジョン特集 フロンティア』で、「リミックス戦争！～著作権保護は誰のため？」（4.17）、「発見！ラミダス猿人～440万年前の“人類”」（7.10）、「ハーツ・アンド・マインズ～ベトナム戦争の真実」（1.23）などを放送した。

定時ドラマでは、08年度から引き続き米国ドラマ『刑事コロンボ』（金、22:00）を放送。6月18日からは『イ・サン ノーカット字幕版』（金、

22:00) を毎週2話連続で放送した。

韓国ドラマ関連特番として『イ・サン スペシャル〜イ・ソジンin大阪』(6.13), 『韓国歴史ドラマの巨匠 イ・ピョンフン監督の世界』(2.3) を放送し、好評を博した。

また、特集海外ドラマとして、英国の『恐竜SF ドラマ プライミバル』の第3章を放送した(8.2~5)。

ほかに、『ソフィア・ローレン 母の愛』(1.4~5, 22:05), 『ダークエイジ・ロマン 大聖堂』(土, 22:00), 『ダメージ』第1シーズンから第3シーズンの一挙集中放送を行った(3.14~31, 21:30ほか)。

8月と2月には、『ファッションスタ』『ファッションスタ・ビス』の秋冬・春夏シリーズをそれぞれ放送した。

映画では、『ハイビジョンシネマ』夜間枠(月~木, 随時)で、『没後30年スリラーの巨匠ヒッチコック特集』(4.26~29, 5.3~6)として「めまい」「鳥」「サイコ」など、『生誕80年クリント・イーストウッドの軌跡』で「ダーティハリー」シリーズ(5.24~27)など、「ハゲタカ」(6.24), 「彼女が水着に着替えたら」(6.6)などを放送。

夏には『スター・ウォーズ大集合!』として「エピソード1 ファントム・メナス」(7.17)から「エピソード6 ジェダイの帰還」(7.22)までシリーズ全作を放送した。秋には『アガサ・クリステイ生誕120年』として「ナイル殺人事件」

(9.7), 「地中海殺人事件」(9.8)など、『没後30年永遠のヒーロー スティーブ・マックイーン特集』として「栄光のル・マン」(11.2), 「大脱走」(11.7), 「パピヨン」(11.9)など、『伝説の女優シリーズ』として「風と共に去りぬ」(11.21), 「アフリカの女王」(11.22)などを編成した。1月には『イタリア特集』として「ひまわり」

(1.11), 「黄金の七人」(1.12)など, 2月からは『アカデミー受賞作品特集』として「アラビアのロレンス<完全版>」(2.7), 「愛と哀しみの果て」(2.9), 「恋愛小説家」(3.3), 「アビエイター」(3.7), 「ミリオンダラー・ベイビー」(3.10)などを放送した。また、『第83回アカデミー賞授賞式総集編』は、東日本大震災のため深夜に移設して放送した(3.16)。

午後枠(月~木, 随時)では、亡くなった北林谷栄さんをしのび「阿弥陀堂だより」(4.13)を、デニス・ホッパー追悼として「イージー・ライダー」(6.16)を、小林桂樹さんをしのび「名もなく貧しく美しく」(10.10)を放送した。このほか

「シシリアン」(8.17), 「北国の帝王」(8.25), 「夫婦善哉」(9.25), 「砲艦サンパブロ」(11.10), 「荒野の用心棒」(2.14)などを放送した。

定時アニメでは、日曜のあさ9時台にアニメゾーンを新設し, 「エレメントハンター」「スポンジ・ボブ」「スター・ウォーズ/クローン・ウォーズ2」「ザ・ペンギンズ」「こぼと。」などの購入アニメを放送した。また, 映画「スター・ウォーズ」全6作一挙放送に合わせて, 「スター・ウォーズ/クローン・ウォーズ」のシーズン1, 2の全44話や劇場版「スター・ウォーズ/クローン・ウォーズ」を集中的に編成した。

#### 4. BS1

『BS世界のドキュメンタリー』は国内外のプロダクションが制作した海外が舞台のドキュメンタリーを放送。毎週, 一つのテーマを設定している。「南アフリカ 人種差別との闘い」(5月), 「南アフリカ 変革の中で」(6月), 「世界のサッカー事情」(6月), 「アフガニстанは今」(7月), 「終わらないテロの脅威」(9月), 「オバマの課題」(11月)など。10月には2週間にわたって生物多様性関連の番組を総合と連動して放送。11月には, 改めてベトナム戦争を見つめ直すドキュメンタリーを放送し, 多くの反響が寄せられた。番組ウェブサイト上で視聴者に投票を呼びかけて「もう一度見たい番組」をラインナップする試み(8月と2月)も2年目を迎えた。また, 国際共同制作の番組(10本程度)も好評で, 特に「海のタイムトレベル」(NHK/独ZDF)は高視聴率をあげた。NOD(NHKオンデマンド)の見逃しサービスでも, BS1の番組の中では常に上位を占めている。

#### 5. BS2

『衛星映画劇場』夜間枠(月~水)では, 「トランスポーター」シリーズ(4.6~7), 『生誕80年クリント・イーストウッドの軌跡』として「ペイルライダー」(5.10), 「許されざる者」(5.17), 「硫黄島からの手紙」(5.19)などを, 「ココ・シャネル」(6.7), 「プロジェクトA」(7.5)や『ブルース・リー特集』として「燃えよドラゴン」(7.27)などを放送した。夏には『生誕100年山本薩夫特集』として「金環蝕」(8.2), 「白い巨塔」(8.4), 「華麗なる一族」(8.5)など, 秋は「陰陽師」シリーズ(10.19~20), 『三谷幸喜特集』として「ラヂオの時間」(11.22)などを放送。冬には『没後30年スリラーの巨匠ヒッチコック特

集』として「裏窓」(12.8)、「フレンジー」(12.15)など、『サスペンス映画秀作選』として「L.A. コンフィデンシャル」(1.17)、「影なき男」(1.18)など、『アカデミー受賞作品特集』として「エリン・プロコピッチ」(2.16)、「戦場のピアニスト」(2.23)などを編成した。

午後枠(月～金, 13:00)は、洋画では「お熱いのがお好き」「菩提樹」「皇帝ペンギン」「アウトロー」「怒りの荒野」「ディア・ハンター」「狼王ロボ」「ノートルダムの鐘」「OK牧場の決斗」「プリンセス・シシー」「黄金」「コンタクト」「フラッシュダンス」「ヒトラーの贗札」「ヘアスプレー」など、邦画では「地の涯に生きるもの」「夫婦善哉」「真空地帯」「忍びの者」「荷車の歌」「眠狂四郎 魔性剣」などを放送した。

深夜枠(火～金, 0:45)は、洋画は「サイン」「ある結婚の風景」「サラバンド」「ムーンウォーカー」「雨の訪問者」「シテール島の船出」「善き人のためのソナタ」「メトロポリス」「メメント」など、邦画は「約三十の嘘」「家族ゲーム」「病院で死ぬということ」「HANA-BI」「クワイエットルームにようこそ」などを放送した。また、『NHKアジア・フィルム・フェスティバル特集』として「キャプテン アブ・ラーイド」(10.19)、「ピノイ・サンデー」(10.20)などを放送した。

『アクターズ・スタジオ・インタビュー』では、クリスチャン・スレーター、ローラ・リニー、アンソニー・ホプキンスなどを随時紹介した。

海外ドラマでは、定時番組として米国ドラマ『名探偵モンク7』(年度前期 火, 23:00)、『デスパレートな妻たち5』(年度前期 水, 23:00)、『ERXV 緊急救命室』(年度前期 木, 23:00)、英国ドラマ『華麗なるベテネ師たち4』(8～9月 火, 23:00)、米国ドラマ『グッド・ワイフ』(年度前期 火, 23:00)、『アグリー・ベティ4』(年度後期 水, 23:00)、米国ドラマ『ERXV 緊急救命室』(年度後期 木, 23:00)、『刑事コロンボ』(年度前後期 木, 21:00)を放送した。

韓国ドラマ『イ・サン』(日, 21:00)を08年度に引き続き、放送した。

また、韓国ドラマ関連特番として、『イ・サン ありがとうスペシャル』(2.20)、『韓国歴史ドラマ トリビア館』(2.27)、『韓国歴史ドラマの巨匠 イ・ビョンファン監督の世界(前後編)』(3.20, 27)などを放送した。

さらに、米国ドラマ『ダメージ2』(23:00)を9月に集中放送した。

特集編成としては、『奥さまは魔女』(5.4～5.7, 0:15～ 第149～167回)、『スポットライト』(8.10～15)、『名探偵ポワロ』(9.13～9.16)、『ダメージ3』(9.14～10.1, 0:00～)、『アガサ・クリスティー ミス・マーブル2』(9.20～23)、『アガサ・クリスティー ミス・マーブル3』(9.27～30, 21:00～)を放送した。

定時アニメでは、『衛星アニメ劇場』(日, 23:00)で「人造人間キカイダーTHE ANIMATION」「スター・ウォーズ/クローン・ウォーズ2」「かみちゅ!」を放送、『BS名作アニメ劇場』(月～水, 12:30)では「トムソーヤの冒険」「ペリーヌ物語」を放送した。夏・冬休みシーズンに特集の『BSアニメ特選』を編成、「ブラザー・ベア」「アントブリー」「ごんぎつね」「ウォレスとグルミット 野菜畑で大ピンチ!」「劇場版 きかんしゃトーマス」「劇場版 とっとこハム太郎」などの子ども向けアニメ映画を放送した。また、アニメ監督・今敏氏の急逝をうけて映画「パブリカ」を放送した。

## 国際共同制作

NHKは80年から、継続的に海外の放送局や制作会社、配給会社と国際共同制作を行っている。事務局は編成局ソフト開発センターに置いている。

国際共同制作は大型番組を制作するうえで今や世界的に常識となっている。この背景には、テレビ番組市場を巡る環境が厳しさを増していることが要因としてあげられる。インターネットとの競争や多チャンネル化で良質なソフトへの需要が高まる中、国際間で制作費を分担して高品質の番組を確保する動きが活発化しているといえる。

10年度に放送した国際共同制作番組は31タイトル、105本であった。

11年1月に放送スタートした『NHKスペシャル』「ホットスポット 最後の楽園」(6本シリーズ)は、ニュージーランドの制作会社NHNZと制作を分担、フランステレビジョン、米サイエンスチャンネル、アニマルプラネットで放送された。絶滅の恐れがある生物が集中する、地球上の貴重な「ホットスポット」を舞台に生きものたちの進化と命のドラマを3年に渡り取材した大型番組。

『大科学実験』は、NHKとNHKエデュケーションが制作主体となり、カタールのアルジャジーラこどもチャンネルとの共同制作によって、大規模で、26の科学実験を敢行、原理や原則を

分かりやすく解き明かした。南西ドイツ放送、韓国教育放送公社、スウェーデン教育放送で子ども向けの新しいコンテンツとして放送を実現し、継続して第2シリーズを開発することとなった。

## 10年度に放送された主な国際共同制作番組

### ○ドキュメンタリー

『NHKスペシャル』「ホットスポット 最後の楽園」：NHNZ、フランステレビジョン、米サイエンスチャンネル、アニマルプラネット。『ハイビジョン特集 フロンティア』「海の歴史～生物40億年の旅」：ZDF（ドイツ）。『大科学実験』：アルジャジーラこどもチャンネルほか。

### ○音楽ほか

『プレミアムシアター』「ショパン生誕200年ガラ・コンサート・イン・ワルシャワ」：アクセント・ミュージック（独）。「ハムレット」イルミネーション・テレビジョン（英）／ロイヤル・シェークスピア・カンパニー。『東京カワイイ★TV』：香港TVB。

## 放送番組の国際交流

### 1. 番組交換

NHKは、海外の放送事業者との番組交換を、文化交流の促進や放送を充実させる目的で、協力協定や覚書に基づいて積極的に行っている。10年度も、ラジオ番組の提供と受け入れが行われた。

#### (1) ラジオ番組の提供

10年度は、楽壇への登竜門として開催された「第79回日本音楽コンクール」（全6部門）およびクラシック系番組、計15番組をEBU正会員および準会員に提供した。10年度は、17か国18放送機関に対し32件、計67時間32分提供した。

#### (2) ラジオ番組の受け入れ

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団等の主要オーケストラの演奏会、バイロイト音楽祭、ベートーベン復活祭音楽祭等の音楽祭およびメトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場によるオペラをFMで放送した。10年度は、21か国40放送機関から200件、計276時間33分を受け入れた。

### 2. 外国放送事業者への取材協力

NHKは、外国放送機関との相互協力の一環として、取材制作協力を積極的に行っている。

協力協定、ニュース取材への協力、海外総支局との関係等を考慮し、依頼に応じて編集・方式交換・衛星伝送や、カメラ、スタジオ、中継車など設備・機材の貸し出し、要員の協力・あっせんを行っている。

10年度は、時事リポート、外国要人の訪日、スポーツなどについて、13の国と地域の16放送関連機関に対し、600件余りの取材協力を行った。

#### (1) 時事リポート

このうち、11年3月の東日本大震災と福島第一原発のトラブルについては、中国CCTVのほか、ロシアRTRやニュージーランドTVNZによる生中継や素材伝送に、施設提供など合わせて約200件の協力を行った。

10年11月に開催された横浜APECでは、ホストブロードキャスターとして国際信号の制作、提供とマスターコントロールルームの設営、運用等を外務省から受託して実施した。

#### (2) 外国要人の訪日

外国要人の訪日に際しては、同行取材チームへの放送機材の貸与、編集および技術要員の確保、衛星伝送などの便宜を図っている。放送センターやNHKインターナショナルのスタジオと海外放送局のスタジオを結んでの掛け合い生中継にも協力した。

10年11月末から12月初めにかけて訪日したバングラデシュ首相のニュース映像については、BTV（バングラデシュテレビ）の要請に基づいて、放送センターや大阪局からの伝送に協力した。

#### (3) スポーツ

スポーツ関係では、10年10月に長野で開催されたNHK杯国際フィギュアスケート競技大会に際し、カナダCBCや韓国SBSなどによるハイビジョン競技映像の伝送を実施し、12月に帯広で開催された世界スピードスケート選手権でも、ドイツARDやフィンランドYLEなど欧州の放送局に対し、ハイビジョン競技映像の伝送などで協力した。

## 「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

「日本賞」は1965年の創設から2007年まで、教育番組の国際コンクールとして、世界の教育番組の向上および国際理解と協力の増進に貢献してきた。各国の制作者が交流し議論する場や、教育番組に関する最新情報を交換する機会として大きな役割を果たし、その結果、先進国ばかりでなく、発展途上国・地域からも多くの参加を得ている。

08年の第35回からは名称を「日本賞」教育コン

テント国際コンクールと改め、募集の対象を「音と映像を用いた教育コンテンツ」に拡大した。

これは、インターネットをはじめとする情報通信技術の急速な進展やデジタル放送の開始など、著しい変化を遂げる教育メディアのデジタル化に対応し、コンクールの質を高めることが狙いである。

10年の第37回コンクールは、5つのカテゴリーからなる「コンテンツ部門」と、教育番組の制作が困難な国や地域の機関を支援する「企画部門」の2部門で構成した。これと並行して、特別賞を改定。「国際交流基金理事長賞」「ユニセフ賞」に加えて、以下の2つの賞を新設した。ひとつは、革新的なメディア活用に挑む優秀なノンリニア作品に贈る「イノベティブ・メディア賞（経済産業大臣賞）」もうひとつは、映像文化の手法を生かし、世界の人々の教育・啓蒙に資する優秀なリニア作品に贈る「前田賞」である。

コンクールへの応募は、64の国と地域の226機関から、コンテンツ部門に360、企画部門に49、合計で409本、史上最多のエントリー数となった。

10年のコンクールは、「NHK文化祭」の一環として10月20日から27日の8日間、東京・渋谷のNHK放送センターで行われた。

審査は、日本賞事務局が委嘱した世界11の国と地域の14人の審査委員によって厳正かつ公平に行われた。また、会期中は「クロスメディア・フォーラム」と題して、一次審査を通過した作品のプレゼンテーションや上映会、世界の第一線で活躍するクリエイターや研究者が登壇するトーク・セッションを開催した。これらの催しに、32の国と地域から延べ740人が参加した。

最終日を飾る「授賞式」は、皇太子殿下ご臨席のもと、101スタジオで行われた。会場には、審査委員、受賞者、大使館関係者など223人が出席。NHKの鎌倉千秋アナと俳優クリス・ペプラーさんの司会で、二十五弦箏と尺八の2人のユニット「ウラナス」による華麗な演奏を交えながら、華やいだ雰囲気の中で各賞が授与された。

「グランプリ日本賞」は、NHK制作のテレビ番組『素数の魔力に囚われた人々～リーマン予想・天才たちの150年の闘い』が受賞した。(⇒p.749)

関連番組として、「第37回日本賞授賞式～輝け！教育コンテンツ世界一」（教育、10.31）、「秋の夜長はまなびかふえ～日本賞 教育コンテンツ国際コンクール」（教育、11.5）、「世界の教育コンテンツ最前線～進化する双方向スタイル」（教

育、10.30／ワールドプレミアム、11.1）などを放送した。

詳細は、<http://www.nhk.or.jp/jp-prize/>

## NHK文化祭

00年より「教育番組の祭典」として親しまれた「教育フェア」は、10年度より、若者も大人も対象にした教育文化的・国際的サービスを多様に体験できるイベント「NHK文化祭」にリニューアルした。同時に国内外の最先端と切磋琢磨し、新規開発に資する複合イベントを目指した。

中核となる会館公開イベント「NHK文化祭たいけん広場2010」は10月30日から5日間行われた。制作現場からイベント企画を募集して実施。来場者に3Dなどの新しいメディア技術や最先端デジタルコンテンツを体験してもらった。

また、スタジオやふれあいホール、屋外ステージ、そしてスタジオパークなども活用し、公開収録を含めて、子ども・若者・大人と、幅広い世代に向けたイベントを展開した。

初日台風に見舞われたが無事に終了し、5日間で5万4,956人の来場者を迎えた。なお、同時開催イベントとして、「ふるさとの食 につぼんの食」東京フェスティバル、「おかささんといっしょファミリーコンサート」（有料チャリティー・イベント）、スタジオパーク視聴者感謝デー（無料公開）、ドームくん食堂（5階食堂の一般開放）を展開した。

関連番組特別編成は、「NHK文化祭」に発展したこともあり、教育テレビのみならず、各波とも連動して多彩なラインナップの番組編成を行った。「たいけん広場」の会場からは『きょうの料理』のスペシャルイベント「クッキングコンテスト」を総合テレビで生放送したほか、総合2番組、教育4番組、BS1・ラジオ第1各1番組、計8番組の公開収録を行い、放送した。

「アジア教育プロデューサー会議」は『ABU未来への航海』の後続企画『ABUデジスタ・ティーンズ』に向け、NHKほかタイ・マレーシア・モンゴル・イランなどの放送局のプロデューサー9人が集い、11年から開催される『ABUデジスタ・ティーンズ』のイベントや番組制作の方向について議論。アジアの映像教育やメディア教育などについても語り合った。関連番組『デジスタ・ティーンズ@ASIA』（教育10.27）

第11回NHKアジア・フィルム・フェスティバルは、「ふれあいホール」において、アジア映画

新作4作品をはじめ、アンコール作品3作品計7作品を上映した。会期中の来場者は952人。ビデオメッセージや識者による解説トークを加えて来場者サービスとし、「普段、見る事が出来ないアジア映画を紹介してくれる貴重な機会」などの意見が寄せられた。

## 放送番組コンクール

### I. 国際コンクール

10年度は、23のコンクールで延べ50の番組等が受賞した。(⇒p.744)

モンテカルロテレビ祭では、『広島発ドラマ』「火の魚」がフィクション番組(テレビ映画)部門の最優秀賞に当たるゴールドニフ賞を受賞した。NHKがゴールドニフ賞を受賞するのは、09年に続いて2年連続だが、テレビ映画部門でゴールドニフ賞を受賞するのは、1984年の「野のきよら山のきよらに光さす」以来、26年ぶりのこと。

この番組は、イタリア賞のテレビドラマ「単発ドラマ及びミニシリーズドラマ」部門でも最優秀賞のイタリア賞を受賞した。繊細な脚本、演出と編集により、生と死を見つめる詩的かつ普遍的なすばらしい作品である、と高く評価された。また、アメリカ・シカゴで行われたヒューゴ・テレビジョン賞でもドラマ番組部門奨励賞に選ばれた。

バンフテレビ祭では、ドキュメンタリー分野／歴史伝記番組部門で国際共同制作「ライブチヒの奇跡」(日本国内では『プレミアム8世界史発掘!時空タイムス編集部』「知られざる奇跡の行進～ベルリンの壁はこうして崩壊した」、『ハイビジョン特集フロンティア』「ライブチヒの奇跡」、『BS世界のドキュメンタリー』「ライブチヒの奇跡」として放送)が、ドキュメンタリー分野／政治番組部門で、『BS世界のドキュメンタリー』「イランとアメリカ 対立の構図」が、ドキュメンタリー分野／社会人道番組部門で、『ハイビジョン特集』「忘れられし王妃～イラン革命30年ふたりの女性の人生の空白」が、それぞれロッキー賞を受賞した。

日本賞では『ハイビジョン特集』「素数の魔力に囚われた人々～リーマン予想・天才たちの150年の闘い」がグランプリの日本賞と生涯教育カテゴリー最優秀の東京都知事賞を、『大科学実験』「音の速さを見てみよう」が、児童向けカテゴリー最優秀の文部科学大臣賞を受賞した。

東京で開催されたABU賞では、テレビ・子ども番組部門で、『人形活劇「新・三銃士」』「第20話 波乱の舞踏会」が、テレビ・青少年番組部門で、『大科学実験』「音の速さを見てみよう」が、テレビ・スポーツ番組部門で『NHKスペシャルミラクルボディー』「第1回 滑降 時速160km 極限の恐怖に挑む」が、ラジオ・ドラマ番組部門で、『FMシアター』「リバイバル」が、それぞれ最高賞のABU賞を受賞した。このほかアジアテレビ賞で、子ども番組部門で、『大科学実験』「音の速さを見てみよう」が最優秀賞を受賞。上海テレビ祭の外国アニメーション部門で、『アニメ～川の光』が銀賞を受賞した。

### II. 国内コンクール

10年度は、17のコンクールで延べ72の番組等が受賞した。(⇒p.746)

放送文化基金賞では、テレビドキュメンタリー番組部門で、『ハイビジョンふるさと発』「嵐の気仙沼～港町の特別な一日」が最優秀賞に当たる本賞を受賞した。日常の暮らしを丹念に描くだけでも魅力的な作品になりうることを示した、と評価された。

テレビドラマ番組部門の本賞には、『阪神・淡路大震災15年 特集ドラマ』「その街のこども」が選ばれた。予定調和的な演技を見事なまでに排除した斬新なスタイル、と高く評価された。

「地方の視点」から優れたドキュメンタリー番組を選ぶ「地方の時代」映像祭では、『ETV特集』「水俣病」と生きる～医師・原田正純の50年」が優秀賞を受賞した。

文化庁芸術祭では、『NHKスペシャル』「密使若泉敬 沖縄返還の代償」がテレビ・ドキュメンタリー部門の大賞を受賞した。日本の外交・政治の脆弱さ、無責任さを鮮明に描出した秀作であり、沖縄史の悲惨が劇的に心に残る、と評価された。

また、テレビ・ドキュメンタリー部門では『NHKスペシャル』「ふしぎがり～まど・みちお百歳の詩」が、テレビ・ドラマ部門で『NHKスペシャル』「終戦特集ドラマ 15歳の志願兵」が、ラジオ・ドラマ部門では、『FMシアター』「薔薇のある家」が、優秀賞を受賞した。

全日本テレビ番組製作社連盟によるATP賞では、外部制作会社とともに制作された番組の中で、『ドラマ10』「八日目の蝉」が、グランプリとドラマ部門の最優秀賞を受賞した。また、ドキュメンタリー部門で『二本の木』が、情報バラエティ

一部門で、『タイムスクープハンター スペシャル』「幕末決死行！～江戸牢獄・限界長屋の実態」が、それぞれ最優秀賞を受賞した。

ギャラクシー賞では、『ETV特集』「死刑囚 永山則夫 獄中28年間の対話」がテレビ部門の大賞を受賞した。

このほか、科学技術映像祭では、『NHKスペシャル』「認知症を治せ！」が文部科学大臣賞を受賞した。

## アナウンス

### 1. 公共放送の顔として多彩な業務を展開

10年度、アナウンサーは「参院選」「沖縄米軍基地問題」「口てい疫」「奄美大島大雨災害」など国政や自然災害をキャスター・リポーターがチームワークを生かして迅速かつ的確に伝えた。特に3月の「東日本大震災」では、地震発生直後からキャスターが24時間態勢で沉着冷静に伝え視聴者の期待と信頼に応えた。3月末までに全国から延べ138人が東北各局の応援に入り、中継や生活情報などアナウンサーの総力を挙げて未曾有の震災報道に取り組んだ。新番組『あさイチ』では、視聴者の関心が高いテーマをキャスター・リポーターが予定調和を廃した親しみやすいプレゼンテーションで伝え、新たな視聴者層を開拓した。サッカーW杯南アフリカ大会では、レベルの高い実況で日本の活躍を伝えた。一方、大相撲の不幸事のため名古屋場所では生中継を行わず、取り組み終了直後に東京のスタジオからキャスターがハイライト番組を伝えた。このほか営業や事業と協力して親子で楽しめるアナウンサー体験イベントや「新BS」広報活動、「朗読ひろば」など視聴者とのふれあい活動や社会貢献活動に積極的に取り組んだ。

アナウンス室制作番組ではコミュニケーションについて分かりやすく解説する新番組『ああ！言い違いすれ違い』を開発した。

アナウンサーは全国に合わせて520人、内訳はアナウンス室130余人をはじめ、ラジオセンター・日本語センター・グローバルメディア・アメリカ総局・地域放送局390人ほど。女性アナウンサーは全国で81人。

#### (1) 一般番組

完全地デジ移行やBS二波化を目前に控えた10年度は、さまざまな特集展開にアナウンサーが対応した。高市佳明アナと首藤奈知子アナが『実

感・サラウンドの世界ようこそ』(5.1)でデジタル放送の魅力を紹介した他、古谷敏郎アナと井上あさひアナが『デジタルでおたっしゅ』(8.1)の司会。9月の『BSデジタル号がゆく！ブルートレイン九州一周の旅』(9.4～5)では、黒崎めぐみアナ、永井伸一アナ、吉田真人アナ(鹿児島局)が2日間に渡って生中継で伝えた。また放送記念日特集として鎌倉千秋アナが『フルデジタル時代のNHK』の司会を担当した(3.22の放送予定が震災で4.9に延期)。平日朝の新番組『あさイチ』がスタート。キャスターには、幅広い見識を備えつつ、本音のトークを繰り出しながら視聴者の目で番組を進行する有働由美子、リポーターには、石井かおる、廣田直敬、小林孝司、内藤裕子、松田利仁亜のベテランから中堅の経験豊かなアナウンサーを起用した。スピード感ある深い取材と、番組独特のテンポ感で朝の視聴者層を拡大した。

夏の特集編成では、恐竜をテーマに家族で楽しめる特集番組『NHKスペシャル～恐竜絶滅』(7.18～19)のナレーションを中條誠子アナが担当、稲塚貴一アナが『恐竜ミステリーツアー～誕生繁栄絶滅の謎』(8.1)の司会を、神田愛花アナが『夏休みスペシャル！恐竜誕生の謎』(8.9)の司会を務めた。また、『世界初の生放送！パイロイト音楽祭2010』(8.21)を磯野佑子アナが中継した。

年末年始の特集編成には、17番組に延べ25人のアナウンサーが対応。61回を迎えた『NHK紅白歌合戦』(12.31)については、『紅白序章～明日何が起こるのか』(12.30)や、『よみがえる！夢の紅白』(12.29)などの事前特番にもアナウンサーを数多く配置した。『NHKスペシャル～2011ニッポンの生きる道』(1.1)、『昭和なつかし亭』(1.1)、『新春歌舞伎公演』(1.3)では、地域局の中堅アナやベテランアナが司会を務めるなど、各自の専門性を活かした全国運用を図った。

アナウンス室では、アナウンサー全員の専門性や個性を把握した上で、若手の積極的な登用を進めている。『今日は一日ゲーム音楽三昧』(8.7)をはじめとするFMの三昧シリーズの他、『日本の伝統芸能』では、浄瑠璃、狂言、歌舞伎等のテーマについて造詣の深い若手アナを起用した。

東日本大震災発生後は、『NHKスペシャル』では「緊急報告 東北関東大震災」(3.13)、「緊急報告 福島原発」(3.16)、「東北関東大震災から10日」(3.20)、「最新報告 命の物資を被災地へ」(3.27)等でサブキャスターやナレーターを務めるなど、総力を結集して数々の番組に対応した。

## (2) 報道

### 〔政治・経済・国際〕

7月、政権交代後、初の参院選が行われ、G、BS、Rの各波に、総勢77人のアナウンサーを配置。12時間を超える長時間の開票速報を、夜間、深夜、早朝の各時間帯をリレー形式で伝えた。新開発の16:9の速報画面など、映像系の大幅な刷新が図られたため、用語や表現について早くから報道局と協議を重ね、地上デジタル新時代にふさわしい表現で伝えた。事務所中継についても、映像主体の構成やハンディカメラの活用による斬新なリポートが評判を呼んだ。

4月、普天間基地の移設問題が暗礁に乗り上げた。受け入れ先に浮上した鹿児島県徳之島市や沖縄県名護市を『ニュースウオッチ9』の高井正智アナが訪ね、政府の方針転換に怒る住民の声を取材した。

### 〔事件事故・災害・緊急報道〕

10月、鹿児島県奄美地方が記録的な豪雨に見舞われた。アナウンス室では、九州各局、大阪局と合わせ、延べ51人の応援要員を投入。およそ2週間にわたって、被災地からのリポートや、被災者支援情報の送出を支えた。中継車が入れない被災地の様子を伝える手段として、高嶽亮アナが携帯した小型ハイビジョンカメラが機動力を発揮し有効に機能した。

3月11日、東日本大震災が発生。速やかに最大規模の要員を放送現場に投入し、刻々と深刻さを増していく未曾有の災害を24時間態勢で伝えた。発災直後から被災地の仙台、盛岡、福島、青森、水戸の各局に応援アナウンサーを送り、3月末までの応援者数は138人に上った。安否情報、避難者情報に加え、被災地各局では生活情報番組も立ち上げ、被災者本位のきめ細かい情報発信に努めた。視聴者からは「アナウンサーの避難の呼びかけを聞いて高台へ逃げ、一命を取りとめた」といった声が寄せられたほか、「NHKのアナウンサーは地震と津波による大災害を冷静に伝えた。賞賛に値する」(ワシントンポスト紙)など海外メディアからも高い評価を受けた。

### 〔社会〕

5月、口蹄疫の感染拡大で混乱する宮崎県に『ニュースウオッチ9』の田代杏子アナが入り、急速な感染拡大に戸惑う人々の苦悩を伝えた。

## (3) スポーツ中継

10年度最大のスポーツ中継イベントはサッカーのW杯南アフリカ大会。NHKでは、GとBS1で66試合を中継放送し、現地実況7人、国内スタジオ

キャスター8人が担当、また、ラジオ中継5人を合わせて20人のアナウンサーが担当した。

日本代表の試合は、一次リーグ初戦のカメルーン戦と第3戦のデンマーク戦、決勝トーナメント1回戦のバラグアイ戦を野地俊二アナ、1次リーグ第2戦のオランダ戦を内山俊哉アナが担当し、日本の活躍を質の高い実況で伝えた。11年1月のサッカー・アジア杯はザッケローニ新監督最初の国際大会で注目度の高い中、20試合をBS1で中継放送。アナウンサーは現地実況3人、国内キャスターなどを5人が担当し、日本チーム優勝までの感動的な戦いぶりを熱く伝えた。

国内サッカーのJリーグの放送は、Gで8試合、BS1で38試合、地域放送ではテレビで80試合行なった。名古屋が初優勝を決めた試合などを伝えた。

中国・広州で開催されたアジア大会は、NHKとTBSの共同制作で中継放送を行った。開会式実況を担当した竹林宏アナと廣瀬智美アナをはじめ、陸上競技女子短距離で福島千里選手の100m、200mの二冠達成を杉澤僚アナが実況するなど、競泳や体操、男子マラソンなど現地の実況に8人、さらに国内スタジオキャスター7人、卓球や女子サッカーなどは国内実況で実施し、日本勢の活躍を存分に伝えた。

大相撲は5月に野球賭博問題、11年2月に八百長問題と不祥事が相次いだ。7月の名古屋場所では生中継を休止してハイライト番組で伝えた。現地から送られた取組実況に東京のスタジオでキャスターが生放送でコメントをつける異例の放送で、取組終了後わずか10分での放送という状況だったが、大相撲担当アナ10人が高い専門性を発揮した。中継を再開した九月場所や九州場所では、横綱・白鵬の63連勝への挑戦や大関・魁皇の通算勝利記録など相撲の魅力とともに大相撲再生に向けた課題についても伝えた。八百長問題で11年3月の春場所は開催されず中継は実施しなかった。

大リーグは、10年連続200本安打達成のイチロー選手のマリナーズや松井秀喜選手が移籍加入したエンジェルス、松坂大輔選手などのレッドソックスの試合を中心に約230試合を中継、オールスターゲームやワールドシリーズは現地からの中継を行った。プロ野球は日本シリーズやクライマックスシリーズなどを含めてテレビ128試合、ラジオ51試合を放送した。

## 2. アナウンス室番組制作

4年目を迎えたBSHi『100年インタビュー』は、9本を制作。中曽根康弘、酒井田柿右衛門、谷川

俊太郎，多田富雄，千玄室，ロナルド・ドーア，秋吉敏子，緒方貞子，藤子不二雄Aの各氏をゲストに迎え，三宅民夫，石澤典夫，渡邊あゆみ，有働由美子の4人のアナウンサーが聞いた。

より「大物」の出演者，貴重な時代の証言者を開拓すべく力を注いだ。元首相・中曽根康弘氏からは，核密約に関してスクープ証言を引き出し『ニュースウォッチ9』での企画として放送され，各紙が翌日に追いかけた。免疫学者・多田富雄氏は，ガンが進行する中，最後のメッセージを収録。亡くなった後，独自に音声合成装置を開発し，本人の声を再現し，「寛容」という言葉をキーワードに，残されたメッセージの意味を探った。また，陶芸家・酒井田柿右衛門氏は有田の窯元で，茶道裏千家・千玄室氏は京都の茶室で収録。詩人・谷川俊太郎氏はスタジオで詩の朗読，ジャズピアニスト・秋吉敏子氏はピアノ演奏を披露してもらい，演出にも工夫を凝らした。

総合『お元気ですか 日本列島』の「気になることば」は，8年目を迎え，“ことばおじさん”の梅津正樹アナが，視聴者からのことばの疑問に答える形で，ことばが変化していく背景や各地域のことばの魅力を届けた（同内容でR1『つながるラジオ』でも放送）。10年度は視聴者から1,800通を超える質問が寄せられた。1月には，放送1,000回を記念して，これまでの放送の蓄積と視聴者からのお便りを振り返りながら言葉の変化を見つめるラジオ特集を放送した。

教育テレビの『ああ！言い違いすれ違い』は，コミュニケーションをテーマにした新番組。「場の空気はどうして作られるのか」「人を励ますポイント」「ロボット演劇で感動する理由」などをテーマに，喫茶店風のバーチャルスタジオに専門家を招き，コミュニケーションでの「すれ違い」の正体を見つめ，その解決策を分かりやすく提示した。10年度，20本制作した。

著名人の原点となった場所であるさとの思いを聞く総合テレビ『ホリデーインタビュー』は，10年度，アナウンス室主管で13本を制作した。

R1『ラジオ文芸館』は，アナウンサーの朗読で幅広く文学作品の魅力を届け，初めて海外作品（アガサクリスティーとシムノン）にも挑戦した。10年度は26本の新作，8本のアンコールを放送した。

R2『ことば力アップ』は，テキストと連動しながら，アナウンサーが朗読，スピーチ，敬語など，表現に関する実践的なノウハウを分かりやすく紹介，10年度は51本制作した。

『ラジオ深夜便』『戦争インタビュー』『人権インタビュー』は，各5本を制作。若手アナウンサーが，B型肝炎訴訟原告団代表や，高齢受刑者の支援，現代の「貧困」に向き合うNPO法人などタイムリーなテーマに挑戦，聞き応えのあるインタビューを届けた。

10月には，島をテーマにしたラジオ特集を制作。全国アナの中継，レポート参加を軸に，新しい生き方のヒントを島の生活の中に探った。

### 3. 社会貢献への取り組み～朗読ひろば

アナウンサーの専門性を生かした教育貢献活動「NHK朗読ひろば～アナウンサーが広げることばの世界」は3年目に入った。視聴者事業部と共同で全国10校の小学校にアナウンサーが出向いて絵本を朗読し，子どもたちに「ことば」の魅力を伝えた。

- ・5月21日 福井県あわら市立芦原小学校
- ・6月9日 群馬県伊勢崎市立赤堀南小学校
- ・6月22日 愛媛県松前町立岡田小学校
- ・8月31日 北海道白糠町立白糠小学校
- ・10月13日 京都市立下京渉成小学校
- ・10月26日 広島市立温品小学校
- ・11月11日 秋田市立四ツ小屋小学校
- ・11月30日 滋賀県大津市立青山小学校
- ・2月1日 和歌山市立山口小学校
- ・2月17日 埼玉県ときがわ町立萩ヶ丘小学校

3～5人のアナウンサーが，絵本や教科書の作品を朗読。ピアニストの生演奏や効果音を使った演出や，「朗読のコツ」「ことばで気持ちを伝えるポイント」を子どもたちに教える時間を設け10校合わせて1,208人の児童が参加した。ラジオの特集番組『おはなし大好き！朗読ひろば』(5.4)，『朗読ひろばinスタジオパーク』(11.23)を制作し，全国放送でも伝えた。

## 映像デザイン

映像デザイン部は，ドラマと教育・情報・音楽・広報・報道・大型企画など，それにデザイン計画という3つのグループで，ほぼ全ての番組の美術を担当した。

10年度は，『スペシャルドラマ～坂の上の雲』や大河ドラマ『龍馬伝』，『NHKスペシャル』『紅白歌合戦』など，質の高い番組制作を美術という演出表現の一部として担い，一方で「東日本大震災」関連放送への迅速な対応を行った。

## 1. 重点業務

### (1) チャンネルブラッシュアッププロジェクト

BS 2 波化に伴う、NHK 4 波のチャンネルごとのイメージをブラッシュアップさせるために映像デザイン部ではプロジェクトを立ち上げた。「新BSブランドデザイン」「G波報道デザイン」「4 波番組デザイン」を骨子とする意見提案を出し、編成局、広報局と連携してデザインコーディネートをを行い、BS 2 波についてチャンネルロゴの展開ガイドラインを作成した。また、「Eテレ」についても外部クリエイターの制作したロゴをベースにチャンネルマスコットとしてのデザインを行い、ガイドラインを策定した。

### (2) デザインCGコーディネーション窓口

コンピューターグラフィックス (CG) がセットデザインを構成する要素として比重が増し番組制作に必須となったため、10年7月よりデザイナーによるコーディネート窓口を設置し、タイトル、アニメーションなどのデザイン対応を強化するとともに、制作リソースの管理を行うようにし、CG映像の費用対効果を高めた。この結果、タイトル映像の半数以上にデザイナーが関わり、また外部クリエイターとの連携も深める事ができるようになり、『紅白歌合戦』でのCGセットなど、幅広い番組で多彩な映像表現が実現できた。

### (3) 環境経営

新年度の番組改定時期にあわせて行われる番組セット改定や番組の廃止により不要となった番組セットなどを有効利用する取り組みを、環境経営「エコ宣言タスクフォース」の参加を通して、「NHK環境自主行動計画のアクションプラン」の活動の一つとして全国展開した。映像デザイン部の3R計画（リデュース、リユース、リサイクル）の展開を広げ、制作現場に浸透させるこの取り組みによって、美術経費の削減だけでなく、上質な映像管理と環境貢献に対する意識の成長という相乗効果があった。一方で、不要となった台本をリサイクルして、ABU国際会議のパンフレットを作成したり、ドラマ番組でセットの床材シートとして使用したりした。また、バーチャルシステムのためのクロマキーセットの新素材などを導入した。更に、番組セットの保管・運搬・廃棄にかかるCO<sub>2</sub>排出量や経費の削減計画にも着手した。

### (4) CS向上活動

10年5月の「渋谷DEども2010」に映像デザイン・音響デザイン両部の業務紹介を兼ねた体験

型展示ブースを設置した。会場の505スタジオには4日間で2万6,500人余りの来場があった。

秋の「NHK文化祭」では事務局に企画から参入し、『新・三銃士』のセットイメージ絵画や人形、人形衣装、劇中小道具などの魅力ある展示企画を成功させ、接触率の向上に貢献した。

NHKネットクラブとの共同企画として、ネットクラブ会員限定で「バックステージツアー」を開催した。全国のネットクラブ会員に向けて限定10人で募集を掛け、美術の仕事と「舞台裏」を楽しむながら観てもらえるよう企画した。

美術・音楽系大学生との交流活動「NHKデザイン講座」を実施した（8月30日～9月1日）。07年のスタート以来4回目となる10年は6大学・9学部から90人余の学生が参加した。現場の映像・音響デザイナーが個別の番組を題材にテレビデザインについて講義を行い、3日間の講座の最終日には、「NHKをデザインする」をテーマにグループに分かれての制作実習を行った。実習の発表会を「ふれあいミーティング」と位置づけ、「デザインによるNHKのブランドイメージ向上」を語り合うことでNHKに対する学生の理解も深まり、職員にとっても若い世代の意見に触れられる有意義な場となった。

### (5) 共同研究

08年度より始めた昭和女子大学との共同研究「江戸城の復元」を09年度に「江戸城本丸・玄関・大広間・松之廊下・白書院・黒書院」まで終え、10年度は「江戸城本丸・中奥休息之間とその周辺の建造物」までを完成させた。東京都立中央図書館等の協力もあり、信ぴょう性の高い資料を基に復元作業が順調に進んだ。

## 2. 番組制作における映像デザイン

### (1) 報道・情報番組

11年度の番組について、映像デザイン部ではニュースセンターの全面リニューアルをはじめとする報道・情報番組のセットデザインとタイトルデザイン対応をした。報道番組では、大型スクリーンを3台導入して、新しいスタジオ演出を提案し、スタジオ設計を根本から見直したデザインをするとともに、バーチャルセットと実セットとの組み合わせも行っている。BSの新番組の『地球テレビ100』『プロジェクトWISDOM』『地球テレビエル・ムンド』『スポーツドミンゴ』『BS歴史館』等は新BSとしてのチャンネルイメージに合った新鮮なデザインになっている。総合では、土曜、日曜の午前中の新番組として、『ニュース深

読み』『サキどり↑』『土曜マルシェ』『とっておきサンデー』等の対応をして、それぞれ質の高い空間演出を実現した。

## (2) 『NHKスペシャル』・大型企画

東日本大震災の発生以来、ニュース、緊急報道番組、『NHKスペシャル』『クローズアップ現代』などに迅速にデザイン対応した。内外から高い評価を得たNHKの震災報道および特集番組において、映像デザインは、緊急報道用保管セットの活用に加え、バーチャルセット、ジオラマ、原発模型を駆使し膨大な情報を正確に分かりやすく伝えることで大きな役割を果たした。

## (3) 教育・文化福祉番組

若年層とファミリー層を主たる対象として、さまざまな角度から、新たなニーズの拡大に努めた1年であった。『新・三銃士』では、09年度に引き続き高品質な人形劇美術を具現化し、3Dバージョンにおいて更に立体感豊かなビジュアルを展開したほか、横浜のイベントや渋谷の「NHK文化祭」では、大規模な展示のアートディレクションで事業貢献に加わった。『天才てれびくんMAX』『トップランナー』等では、公開収録も含め、斬新なデザインで子供や若者の支持を獲得したといえる。

## (4) 音楽・芸能番組

毎年恒例の『紅白歌合戦』『思い出のメロディー』『ニューイヤーオペラコンサート』は10年度も、豊かな美術表現で芸術性の高いエンターテインメントを作り上げたが、とりわけ『第61回紅白歌合戦』は史上最大規模の映像ステージを一曲ごと緻密にデザイン、なおかつPR領域も含めたトータルなアートディレクションにも乗り出し、この巨大な番組への新たな取り組みかたを提示したといえる。そして、長年、紅白を作ってきた舞台美術のノウハウは、『歌謡コンサート』『MUSIC JAPAN』『ごきげん歌謡笑劇団』等の公開定時番組においても継続的にその専門性の高さが発揮され、それぞれのターゲット層に合致するステージビジュアルを提供した。一方、『SONGS』『芸能花舞台』『どれみふぁワンダーランド』等スタジオで念入りに作り込む番組はどれも、オリジナル豊かな美術表現で、熱心な音楽芸能ファンからの高い評価を集める原動力となった。とりわけ、「NHKならではの大人の音楽番組」として安定した人気を誇る『SONGS』においては、その高いブランドイメージを美術デザインが担っている部分は大きい。

## (5) ドラマ番組

『スペシャルドラマ～坂の上の雲』（第二部）が放送された。徹底的な時代考証に基づいたりアリティーあふれる子規庵や戦艦などの美術セットは、明治という時代を見事に表現した。高品質で大規模なVFXとともに視聴者から高い評価を得て、国際競争力のあるコンテンツの制作力を示した。

大河ドラマ『龍馬伝』は、初回から最終回まで途切れることなく一貫して躍動感とリアリティーあふれるエネルギーな美術世界を構築した。斬新で高品質な映像作品として国内外で高い評価を得、作品や美術において数々の賞を受けた。

大河ドラマ『江』は女性視点の戦国時代大河ドラマという新しい試みをした。美術も番組コンセプトにのっとり、定番の猛々しさ<sup>たけなげ</sup>を前面に出した男性的な戦国時代の表現とはタッチの異なる、時代感と美しさのある世界観を作り、新しい視聴者の開拓に寄与した。

『連続テレビ小説』『ゲゲゲの女房』では戦前、戦後から現代にいたる激動の時代を生きた主人公と、その夫水木しげるを取り巻く世界を収録効率を上げながら丁寧<sup>ていねい</sup>に作り上げ、高視聴率を得た。戦争、昭和、国民的漫画家と表現のハードルは高かったが、視聴者から高い評価を得た。

10年度は大河ドラマ『龍馬伝』『江』、『ドラマ10』『セカンドバージン』等で新しい試みとして本編の美術だけではなく、タイトルバック映像制作や広報イメージ計画にも積極的に取り組み、パッケージでの高い美術クオリティーを支えた。

## 3. デザイン計画

デザイン計画では、質の高い番組制作に資するため、美術規模の策定や美術業務契約の仕様について検討し、映像デザイン業務に伴う経営資源の適正な運用に努めた。

10年度は「襖絵のデジタルデータ化」プロジェクトを立ち上げ、大河ドラマ『江』での実践的使用を目標にデジタル襖絵製作に着手した。さまざまな調整を経た結果、「大坂城」の決まりセットの襖絵として、従来の襖絵と違和感なく使用された。

また、アーカイブスで保管されていた肉筆時代考証資料を映像デザイン部に移管した。出版物ではなく、テレビ番組らしい明期の時代考証家による原画資料のため、スキャニングデータとして、検索を簡易にできるシステムに保管することで、部内資料を充実させた。

6年目を迎える「美術業務審査会」では、美術業務委託における契約内容、契約手続きなどの適正性や透明性を確保するため、デザイナーが事前に美術コストなどを計画し作成する「デザイン計画書」をはじめ、契約内容、納品までその妥当性を審査。10年度はグラフィックスに関する業務で、部内に設置開設したグラフィック窓口を経由しない案件の透明性・説明性を追求した。

## 音響デザイン

音響デザイン部は、放送を音で支える専門家集団として、品質を追求した番組制作、公共放送としての信頼の向上、社会に対するメッセージ力の強化など、NHKが約束する目標に対して高い専門知識とスキルを発揮し、放送サービスの充実に取り組んでいる。本格化する地上波デジタルとBS二波化による新しいコンテンツ制作に視聴者の満足度を意識したデザインを目指している。10年は大河ドラマに大きなインパクトを与えた『龍馬伝』に始まり『NHKスペシャル』からワンセグドラマまで幅広い番組をデザインし、音響監督として番組演出の一翼を担った。『音の風景』は、音響デザイナーならではの切り口で放送開始25年を積み重ね、昭和から平成の時代のアーカイブ的なソフトにまで発展させることができた。

### 1. 番組制作関連

#### (1) 教養・開発番組

「NHKの朝が変わる」の目玉番組『あさイチ』では、「身近な幸せの発見」をコンセプトに暖かでポップなテーマ音楽をコーディネートし、新しい朝の顔を彩った。『ドラクロワ』では30、40代の女性層をターゲットに、“見れば元気に！”“人生の応援情報番組”を合言葉に、音からも明日へのエネルギーがチャージできるようアプローチした。5年目を迎えた『サラリーマンNEO』は、10年度も特色ある音響スタイルが好評を博した。『ファミリーヒストリー』『地球イチバン』『ラストデイズ』では斬新なアイデアと個性的な音付けで、より広い視聴者に見てもらえる番組制作に取り組み、11年度の定時化を目指した。

#### (2) 報道・スポーツ番組

7月に行われた参議院議員選挙は、政権交代後初の国政選挙となり、視聴者の注目する政局の動向を伝える特番に対し、的確で迅速な対応を行った。

2月に3,000回を迎えた『クローズアップ現代』では、93年の番組開始以来すべての音響デザインを担当し、番組の評価を高めることに貢献した。

また、6月に開催されたサッカーW杯南アフリカ大会では『NHKスペシャル』をはじめとする特番、音によるスタジオ演出に至るまでトータルな音響デザイン設計を行い、4年に一度のワールドカップの熱戦を視聴者に届ける大きな役割を果たした。

#### (3) 『NHKスペシャル』・大型企画

10年度も「日米安保50年」「日本人はなぜ戦争へと向かったのか」「灼熱アジア」など大型企画が放送され、印象的なテーマ音楽とともにジャーナリスティックな視点を持った音響表現で番組に貢献した。また「無縁社会」「ネットが革命を起こした～中東若者たちの攻防」「八百長はなぜ起きたのか～揺れる“国技”大相撲」など緊急性が高い番組でも、冷静に鋭く事態の深層を描き出した。

#### (4) ドラマ

大河ドラマ『龍馬伝』は日本の夜明けを夢見て幕末に奔走した坂本龍馬の熱い思いを今までにないスケールと迫力で音響デザインした。『連続テレビ小説』『ゲゲゲの女房』は昭和の匂いにこだわり、時代風俗を丁寧に追いつながりながら主人公の夫婦愛を細やかに描いた。『スペシャルドラマ～坂の上の雲』(第2部)は、いよいよ日露戦争に向かう混乱期に突入し、時代の大きなうねりと戦争の悲惨さを描く一方、司馬作品のディテールにこだわり、登場人物の心情を繊細かつ大胆に描いた。

単発ドラマは、『てのひらのメモ』『さよなら、アルマ～赤紙をもらった犬』『風をあつめて』などで、社会性のある題材に真正面から取り組んだ。

シリーズドラマでは、『土曜ドラマ』『チェイス～国税調査官』『チャンス』『TAROの塔』『ドラマ10』『天使のわけまえ』『10年先も君に恋して』『セカンドバージン』『四十九日のレシピ』、『土曜時代劇』『まっつぐ～鎌倉河岸捕物控』『桂ちづる診察日録』『隠密八百八町』など番組のテイストを意識しながら娯楽性を追求し、視聴者の年代層・ニーズに合ったドラマ音響を目指した。

地域ドラマへの応援参加も継続して行い、盛岡局制作ドラマ『続・遠野物語』では作曲コーディネーターから積極的に関わり、音響デザイナーの力を示し、ドラマに深みを与えた。

オーディオドラマは、音のクオリティを突き詰め、ラジオならではのイメージの世界を追求し、

音響デザイナーとしての神髄にこだわった。

### (5) BS・ハイビジョン

「恐竜絶滅ほ乳類の戦い」「日本列島」など『NHKスペシャル』と連動した『ハイビジョン特集』が数多く制作され、丁寧なSEとダイナミックな音楽でハイビジョンならではのスケール感とエンターテインメント性あふれる番組制作に貢献した。

11年度の定時化に向けた『新日本風土記』のパイロット版が制作され、「わたしたちが暮らす日本の1ページ、知っているようで知らない日本のルーツをたどる旅」をきめ細かく情感豊かに、音響デザインした。

### (6) スーパーハイビジョンソフト開発

放送技術研究所が開発しているスーパーハイビジョンのソフト制作に参加。10年9月にIBC 2010（オランダ）で上映された10分の作品は、『<sup>なまかみ</sup>雑鎌がみた夢』と題され、7年ごとに行われる信州諏訪の御柱祭を題材に、人と木いにしよの古よりのつながりを幻想的に描いた。音響デザインは、作曲家牟岐礼氏のオリジナル音楽と、現地に赴きサウンド収録してきた素材音を駆使し、スーパーハイビジョン22.2chの音世界を広く深く構築。現実とイメージが交錯するファンタジックな作品を盛り上げ、22.2chの音響表現の可能性を世界に提示した。

## 2. 番組企画

1985年4月に始まった『音の風景』は25周年を迎え、通常版に加えて3つの特別企画を展開した。第一弾は「音の風景アーカイブス」として過去の作品を再編集して今昔の聞き比べを行った。第二弾「日本一の音」では漫才コンビ「髭男爵」を迎え楽しいバラエティー感覚あふれる番組とした。

第三弾「わたしの音の風景」ではリスナーからお便りを募集し、記憶の中にある音の風景を再現した。制作本数は通常版を含めてトータル42本の新作を作成した。

また、09年度から行っている『ラジオ深夜便』内の枠では、過去の放送を毎日違う内容で365本の素材提供することを継続した。国際放送でも多言語で翻訳されたナレーションで展開し、過去の作品を世界に向けて放送した。海外からの番組反響も寄せられた。

特集番組としては、夏季特集『SLのある風景』（15分×3本）を提案し、デゴイチ、C11、ハチロクの三つの型式を徹底取材し、SLファンの要望にも応える味わい深い番組として好評を博

した。

## 3. 設備関連業務

建設計画で採択された音響デザイン準備室SE-3のリニューアル整備を実施した。2年前に整備した準備室SE-1に次いで、高品質・多機能な部屋へと生まれ変わった。基本の仕様をSE-1と同じにすることにより、操作性の統一を図って使いやすさを追求した。サウンドの番組など多チャンネルを必要とするコンテンツにも対応でき、モニター環境などもスタジオに準拠したものに整備することで、より完成度の高い番組準備作業が行えることとなった。また、各個人に貸与しているパソコンを音響デザイン準備用と事務用の2台に分けることで、セキュリティーや操作スピードの問題を解消し、音響デザイン業務がよりストレスフリーな状態で行えるようになった。

## 4. サウンドステーション・ライブラリー

「より満ち足りたものへ」をコンセプトに整備を実施した10年度、日本各地の特色ある情景を季節ごとに定点収録することを企画。これまで不足気味であった地域の音を重点的に収集した。

知床半島では羅臼周辺やウトロ港。山口県では関門海峡に秋吉台。佐賀県では伊万里や唐津に有明海。鹿児島では桜島や指宿温泉など効果音の拡充に励んだ。他に、夏期特集として制作された『SLのある風景』や定時番組『音の風景』とも連動して収録を計画、制作チームとともに現地に赴き、SLの各種効果音や冬の釧路で校庭のスケートリンクの風景などを録音収集してきた。

効果音の相談窓口であるサウンドステーションでは、以前提供したNHKクリエイティブライブラリーに新たな効果音を追加し、NHKグローバルメディアサービス運営の携帯サイト「NHK SOUND」に効果音を提供するなど、他部局からの協力依頼に取り組んだ。また、『渋谷DEども』などのイベントでは、効果音体験コーナーや『音の風景』試聴コンテンツを立ち上げ、多くの視聴者とも交流し、NHK音響デザインのPRに努めた。